言[illegible]

一

小倉文庫
イ 16
69

教塵劫記獨稽古

門 イ16
號 69
巻

明治二十七年
六月二十一日 受入

口上

一 算盤稽古の仕方ハ此本を御らんなされ先九々の数并八算見一

懸割之初を能々覚ゆるほどに教へハ續けて其要ニ入ハ次ニ

八算見一圖面之所ニ中の圖のごとく法実並べ本の掛割

修行を續けされバいろはの中ニ引合上の署のごとくに續ケ

算盤に掌ニ入バ獨出来やすく万の算用皆下ニ掛割を教へと

細ヶ所は是を續けおし八算見一の格合そ粒を定め他ハ心安く

筆末ハ実ニ初心の手引之近道なれバ求メ評判宜キ者共上ハ

教塵劫記目録

大黒符帳之事 并 唐符帳荒物符帳 三丁

九ゝの頌注解 四丁

稽古地算之事 五丁

八算割頌注解 見一同注解 六丁ヨリ

八算之割 見一之割 九丁ヨリ

かけてとまる算之事 廿六丁

金算用之事 并 小割之事 廿七丁ヨリ

銀算用之事 并 歩引割引之事 三十一丁

銭算用之事 并 小割之事 三十二丁ヨリ

米算用之事 三十四丁ヨリ

絹布之算用之事 并 太物算用之事 三十七丁

織物裂算用之事 并 綫物裂はまりの事 三十八丁

菜種算用之事 三十九丁

酒之算用之事 四十丁

醤油算用之事 四十一丁

蝋燭算用之事

柴薪算用之事 并 炭之算用之事 四十二丁

綿算用之事 四十三丁

茶の算用之事　四十四丁
紙の算用之事
味噌仕込算用之事
塩の算用之事　四十五丁
絹糸算用之事
并 組紐真田紐木綿之算用
苧の算用之事　四十六丁
多葉粉の算用之事
材木賣買算用之事　四十七丁
金銀箔賣買算用之事　四十八丁
并 屏風襖箔押積之事
駄賃算用之事　四十九丁
并 舟ちん算用之事
金銀利足算用之事
倹地算用之事　五十丁ヨリ
并 圖解
田法之事
圓法之事
圓積法之事
圓角積法之事
田数之事　五十三丁
十露盤位見様之事

開平法位之事

開立法位之事

開平法之事

并 解法之圖 五十三丁より

開立の九九の訣之事

開立法之事

并 解法之圖 五十六丁より

目録終

大黒符帳

倭 一 弌二 酒三 中四 め五 戈六 聿七 發八 𢿘九 十百 千八一

并唐符帳 一 二 三 〆四 子五 亠六 亠七 亠八 文九 〇八目之

附り 初符帳 大 ヘ二 △三 〆四 ㄨ五 Ⴟ六 ⴵ七 ⵃ八 久九

一の巻 二の段 かけざん

〇 九九の訣の註解

一一が一 [illegible]

一二が二 [illegible]

一三が三 [illegible]

二二が四 [illegible]

二三が六 [illegible]

二四が八 [illegible]

二五が十 [illegible]

二六が十二 [illegible]

二七が十四 [illegible]

二八が十六 [illegible]

二九が十八 [illegible]

一四が四 一五が五 一六が六 一七が七 一八が八 一九が九 [illegible]

三の段かけ算

三三九　三ッあるものを三ッよせるかずは実の三と法の三と見合三三が九といふて実の三をとりて下のけたへ九をおくこれ九を三ッ二三十とかぞへるなり

三四十二　三ッあるものを四ッ合するときは実の四と十とりて一につくり下のけたへ二をおくべし三と四が十二とかぞへるなり実の三と一ツにつくり下のけたへ二をおく一十と二ッかぞへるなり

三五十五　三ッあるを五ッよせるかずは実の五と一につくり下のけたへ五をおくるなり三五と十と五ッかぞへるなり余ハまへとおなじ但し是もおなじくしるべし

三六十八　三ッあるものを六ッよせるかずは実の六と一につくり下のけたへ八をおくるなり余ハおなじくしるべし

三七廿一　三ッあるものを七ッよせるかずなり実の七と二につくり下のけたへ一をおくる余ハまへにおなじくしるべし

三八廿四　三ッあるものを八ッよせるかずなり実の八を二につくり下のけたへ四をおくる余ハまへにおなじくしるべし

三九廿七　三ッあるものを九ッよせるかずなり実の九と二につくり下のけたへ七をおくるなり余ハおなじくしるべし

四段掛算

四四十六　四ッあるものを四ッよせるかずなり実の四と一につくり下のけたへ六をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

四五二十　四ッあるものを五ッよせるかずなり実の五と二につくるなり余ハまへにおなじくしるべし

四六廿四　四ッあるものを六ッよせるかずなり実の六と二につくり下のけたへ四をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

四七二十八　四ッあるものを七ッよせるかずなり実の七と二につくり下のけたへ八をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

四八三十二　四ッあるものを八ッよせるかずなり実の八と三につくり下のけたへ二をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

四九三十六　四ッあるものを九ッよせるかずなり実の九と三につくり下のけたへ六をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

五段かけごゑ

五五二十五　五ッあるものを五ッよせるかずなり実の五と二につくり下のけたへ五をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

五六三十　五ッあるものを六ッよせるかずなり実の六と三につくるなり余ハまへにおなじくしるべし

五七三十五　五ッあるものを七ッよせるかずなり実の七と三につくり下のけたへ五をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

五八四十　五ッあるものを八ッよせるかずなり実の八と四につくるなり余ハまへにおなじくしるべし

五九四十五　五ッあるものを九ッよせるかずなり実の九と四につくり下のけたへ五をおくるなり余ハまへにおなじくしるべし

六段掛算

六六三十六　六ッあるものを六ッよせるかずは実の六法の六と見合ならびて実の六と三につくり下のけたへ六をおくる六を三十と六ッかぞへるなり

六七四十二　六ッあるものを七ッよせるかずは法と実見合ならび実と四につくり下のけたへ二をおくる六を二十と七ッかぞへるなり

六八四十八　六ッあるものを八ッよせるかずは法と実見合ならび実と四につくり下のけたへ八をおくるなり六を二十と八ッかぞへるなり

六九五十四　六ッあるものを九ッよせるかずは法実見合ならび実と五につくり下のけたへ四をおくるなり六を二十と九ッかぞへるなり

七段

七七四十九　七ッあるものを七ッよせるかずは法と実見合ならび実と四につくり下のけたへ九をおくる七を二十と七ッかぞへるなり

七八五十六　七ッあるものを八ッよせるかずは法実見合ならび実と五につくり下のけたへ六をおくる七を二十と八ッかぞへるなり

日 八の段 九座

七九六十三 七ツたるものを九ツよせる時は法と実と見合よびて実を六につくり下のけたへ三をよせる七を二十と九ツがくれたり

八八六十四 八ツたるものを八ツよせる時は法と実と見合よびて実を六につくり下のけたへ四をよせる也 これ八を二十と八ツがくれたるなり

八九七十二 八ツたるものを九ツよせる時は実と法と見合よびて実を七につくり下のけたへ二をよせる也 八を二十と九ツがくれたり

九九八十一 九ツたるものを九ツよせる時は実と法と見合よびて実を八につくり下のけたへ一をよせる也 これ九を二十と九ツがくれたるなり

○ 稽古地算の数

壹匁二分 弐匁三分 三匁四分 四匁五分 五匁六分 六匁七分
七匁八分 八匁九分 九 匁 指 匁 〆 五十九匁四分
日 十弐匁三分 指三匁四分 十四匁五分
指五匁六分 十六匁七分 十七匁八分
十八匁九分 指 九 匁 二指 匁
〆 百四十八匁二分 合 二百七匁六分

○ 八算より割声の注解

一 の と り

一進一十 割るゝ一ツの数を以て割るには法の一ツ十ツ百ツ千ツ万ツ一ツの位ずつ以てわることなり 此ことはをもて法に十ようにくの位ずつ以て次にひくつぶの実に合きとき八はことなり 以て八とらんず然二一天作五の一と殿一のことはをもてとらんば八をしぬるなり **二進二十** これは一を二十とふるい ならどもこれにするときは法の一と見合せてよるなり

三進三十 是も一を二十とことばにすることなり **四進四十** ○ **五進五十** ○ **六進六十** ○ **七進七十**

八進八十 ○ **九進九十** これ皆おなじことなり 九を八九をとりて上のけたへ九をよせることなり 我此ことをとりて一が一二が二ずつつて来ずともよし

二 の 割

二一天作五 実に一ツあると法の二と見合するとき一のまゝんはあまりをとりて一をとりてうへのけたへ五をよするなり

二進一十 実の数を法の二にてよるとき実のうち二をとりて上のけたへ一をくることなり 実の数つよりけりてく二を一十と云ふするは四を二十 云ふするは六を三十 又八をも同じかくく

三 の 割

三一三十一 とは実の一と法の三にて見合よるとき一と三につくりまた下のけたへ一入ることなり 十はると三を一十と云ふすると一ツずつでめなるか多く一のくる也 三十ともあるなり

三二六十二 とは実の二と法の三と見合よるとき二と六につくり下のけたへ二ツくることなり 二十なると三を一十と云ふすれば六十とふし二が二のくる也入なり

三進一十 実の数のあるなるとも法の三にてよるか多く云ふとりて八上のけたへ一ツずつあり これと云ふて云はするに六をが二十 云ふするに九を三十なり

四 の 割

四一二十二 実の一と法の四と見合よるとき一と二につくり下のけたへ二ツまた此一と十と云ふて四を一十と云ふすれば八十とふし二のくるこれをつめなること也

四二天作五 実の二と法の四と見合よるとき二と五につくることあり 二十なるものと四を一十なるにみなすかくとあるべし

四三七十二 法の四と実の三と見合よび実の三と七につくり下のけたへ二をよせるなり 是八を二十なるを四を一十とちりして下のけたへ二のくるなり

四ゟ一十　実にいくたびたりとも法の四にてはらふ時は実と四となりて上のけたへ一かへるなり　これはとふらいとはらいするは八を一か二十なり

五の割

五一か一　法の五と実の一と見合実と二につくるなり　これは八十なるものと五を一十とふろすりくるなり

五二か二　法の五と実の二と見合およひて実の二を四につくるなり　これは二十なるを五を一十と四ゟするかへりくるなり

五三か三　法の五と実の三と見合三を六につくるなり　これは三十なるを五を一十と六ゟするくわりなり

五四か四　法の五と実の四と見合四を八につくるなり　五を一十と八ゟするくなり

五ゟ一十　実にいくたびたりとも法の五にてはらふなり　実と五ゟとりては上のけたへ一かへることなり

六の割

六一か下四　法の六と実の一と見合およびて一をそのまゝにて下のけたへ四たすなり　これは十なるを六を一十としてあまり四のこるなり

六二卅二　法の六と実の二と見合二を三につくり下のけたへ二たすなり　これは二十なるを六を一十と三ゟしてあまり二のこるかくなり

六三天作五　法の六と実の三と見合三を五につくるなり　これは三十なるを六を一十と五ゟするかくなり

六四六十四　法の六と実の四と見合四を六にかへてつくり下のけたへ四たすなり　これは四十なるを六を一十と六ゟしてあまり四のこるかくなり

六五八十二　法の六と実の五と見合五を八につくり下のけたへ二たすなり　これは五十なるを六を一十と八ゟしてあまり二のこるかくなり

六ゟ一十　実のかずいくたびたりとも法の六にてはらふ時は六ゟとりて上のけたへ一かへることなり

七の割

七一か下三　法の七と実の一と見合およびて一をそのまゝにて下のけたへ三たすなり　これは十なるを七を一十としてあまり三のこるなり

七二か下六　法の七と実の二と見合およびて二をそのまゝにて下のけたへ六たすなり　これは二十なるを七を一十と二ゟしてあまり六のこるなり

七三四十二　法の七と実の三と見合およびて三を四につくり下のけたへ二たすなり　これは三十なるを七を一十と四ゟしてあまり二のこるかくなり

七四五十五　法の七と実の四と見合四を五につくり下のけたへ五たすなり　これは四十なるを七を一十と五ゟしてあまり五のこるなり

七五七十一　法の七と実の五と見合五を七につくり下のけたへ一たすなり　これは五十なるを七を一十と七ゟしてあまり一のこるなり

七六八十四　法の七と実の六と見合六を八につくり下のけたへ四たすなり　これは六十なるを七を一十と八ゟしてあまり四のこるなり

七ゟ一十　実のかずいくたびたりとも法七にてはらふ時は七ゟとりて上のけたへ一かへることなり

八の割

八一か下二　法の八と実の一と見合およびて一をそのまゝにて下のけたへ二たすなり　これは十なるを八を一十としてあまり二のこるかくなり

八二か下四　法の八と実の二と見合およびて二をそのまゝにて下のけたへ四たすなり　これは二十なるを八を一十と二ゟしてあまり四のこるかくなり

八三か下六　法の八と実の三と見合およびて三をそのまゝにて下のけたへ六たすなり　これは三十なるを八を一十と三ゟしてあまり六のこるかくなり

八四天作五　法の八と実の四と見合およびて四を五につくるなり　これは四十なるを八を一十と五ゟしるかくなり

八五六十二　法の八と実の五と見合およびて五を六につくり下のけたへ二たすなり　これは五十なるを八を一十と六ゟしてあまり二のこるかくなり

は　九の段割声

八七七十四
法の八と実の六と見合ひ実の六と七にてふり下の位へ四をくはふるなり
これハ六十なると八を二十と七ツしてなほ四のこるかくなり

八七八十六
法の八と実の七と見合ひ実の七を八にてふり下の位へ六をくはふるなり
これハ七十なると八を二十と八ツしてなほ六のこるかくなり

八八一十
実の位ずいろいろなるとも法八にて見ると見
八ツとりて上のけたへ一ツおくることとなり

九一下加一
法の九と実の一と見合実の一とそのまゝにいたして下の位へ一をくはふるなり
これハ十なるを九をとが一十としてなほ一のこるかくなり

九二下加二
法の九と実の二と見合ならびて実の二とそのまゝにて下の位へ二を
くはふるなり　これハ二十なると九を二十ふたツしてなほ二のこるかくなり

九三下加三
法の九と実の三と見合ならび三とそのまゝにて下のけたへ三をくはふるなり
これハ三十なると九を三十と三ツしてなほ三のこるかくなり

九四下加四
法の九と実の四と見合ならび四とそのまゝにて下の位へ四をくはふるなり
これハ四十なると九を四十四ツしてなほ四のこるかくなり

九五下加五
法の九と実の五と見合ならびて五とそのまゝにて下の位へ五をくはふる
これハ五十なると九を五十と五ツしてなほ五のこるかくなり

九六下加六
法の九と実の六と見合ならびて六とそのまゝにて下の位へ六をくはふる
これハ六十なると九を六十と六ツしてなほ六のこるかくなり

九七下加七
法の九と実の七と見合ならびて七とそのまゝにて下のけたへ七をくはふる
これハ七十なると九を七十と七ツしてなほ七のこるかくなり

九八下加八
法の九と実の八と見合ならび八とそのまゝにて下の位へ八をくはふるなり
これハ八十なると九を八十と八ツしてなほ八のこるかくなり

九九一十
法の九にて実いづれなるとも見るときハ九を一十とりて
九ツとりて上の位へ一つおくることなり

○見一のより割声注解

見一無頭作九一　これハ実に一あるを法十より一の位にて見ると見ゆることなり　実の一と法一にて見ると見ハ一とが一十にて見れども法に十より
一の位ずなれバ法の一ハ引きがたき故に九九によびひくことできぬゆへ作九の一にて一と
九にてふり下のけたへ一をくはふるなり　たとへバ一を二十八十を二十もおなじかくなり　十を十
とそれハなんひくことできぬゆへ十なるを九を九十とするにおよびひとなりそろばんの
九一とかはる○扱又法の二をさめと実の九と見合せ九九にならびてその位ずとひくなり
あらはれどもひく　見一倍一　とりて実の九の内
位ずるときき　一より下へおくる　△これにてもひかれぬときハ見一倍一と
にてあるべし　見二見三も余をおく同しかくなり　いくらでもおなじなり　百目十六の割
くらしおこしく見一の割の外にてかんがふべし　見一倍二　倍一をとりて九のうち一より下の位へ二をくはふるべし　見一倍二余八無二の割
これハ二十より二十九までにあるときに　○見二無頭作九二
用ゆる二百より二千の位も同しことなり　見一倍四又これもおなじかくとあるべし

見三無頭作九三　見一倍三　余八　八無三の段を用
これハ三十より三十九までにあるときに用ゆる
三百の位も三千の位もおなじことなり

見四無頭作九四　見一倍四　余八　八無四の段の割を用
これハ四十より四十九までにあるときに用ゆる
余八まへにおくし

見五無頭作九五　見一倍五　余八　八無五の段の割を用
これハ五十より五十九までにあるときに用ゆる
余八まへにおくし

見六無頭作九六　見一倍六　余八　八無六の段の割を用
これハ六十より六十九までにあるときに用ゆる
余八まへにおくし

見七無頭作九七　見一倍七　余八　八無七の段の割を用
これハ七十より七十九までにあるときに用ゆる
余八まへにおくし

見八無頭作九八　以一倍八　余八
八算八の段の訣と用
これハ八十よりうへ八十九までにもちゆると知るべし
余ハまへにおなじ

見九無頭作九九　以一倍九　余八
八算九の段の一条と用
これハ九十よりうへ九十九までにもちゆると知るべし
余ハまへにおなじ

右のとほりも見一の段の圖にてかんがへしるべし

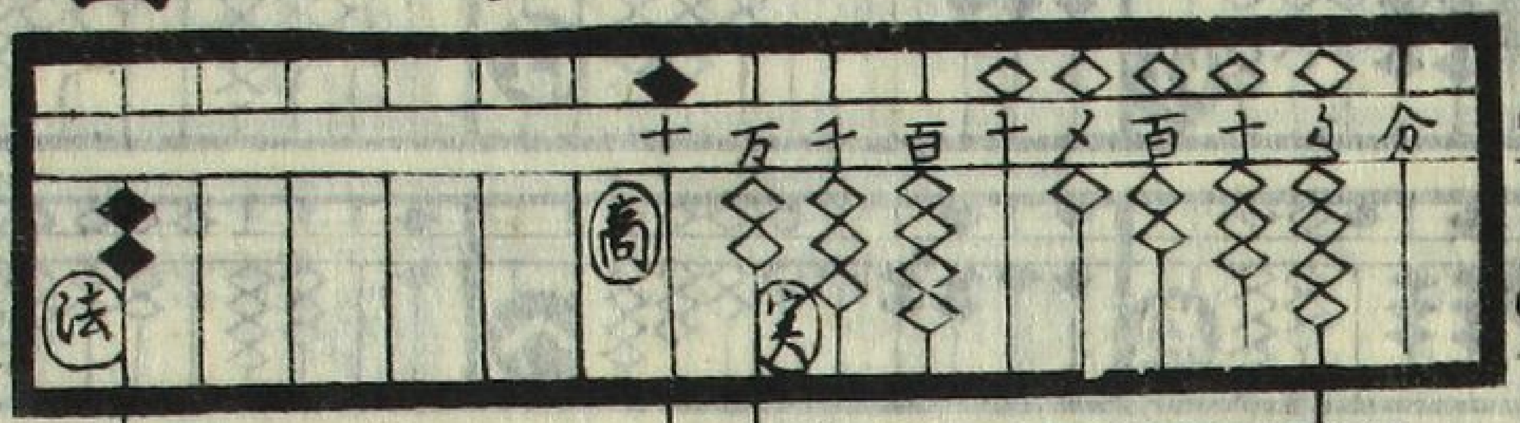
○八算見一初心圖解

○左のゆびと十露盤の圖のごとく見一ハ法の所へ左の手のゆびを並べおくべし又法の並べ付ハ法の左を数づけ實のあまりも一二三四五六七八と指をかぞへて割るなり其下かぞへ商る所と十を置十より内のちがひハ其下の左と知るべし　たとへバ實のところハ法の数にかぞへはるる所を四めなれバ左へ十と入れてかめのけさへ一より九までのちがひをいそくまゐめにわたる也めがち十ならバ六めをもちしさとりてところとしるべし　かけ算もわり算もはじめところへおなじ

算盤面之圖

○八算二の段初めて算割する所の圖也

右ハそろばんの



これより下左の方を實とす

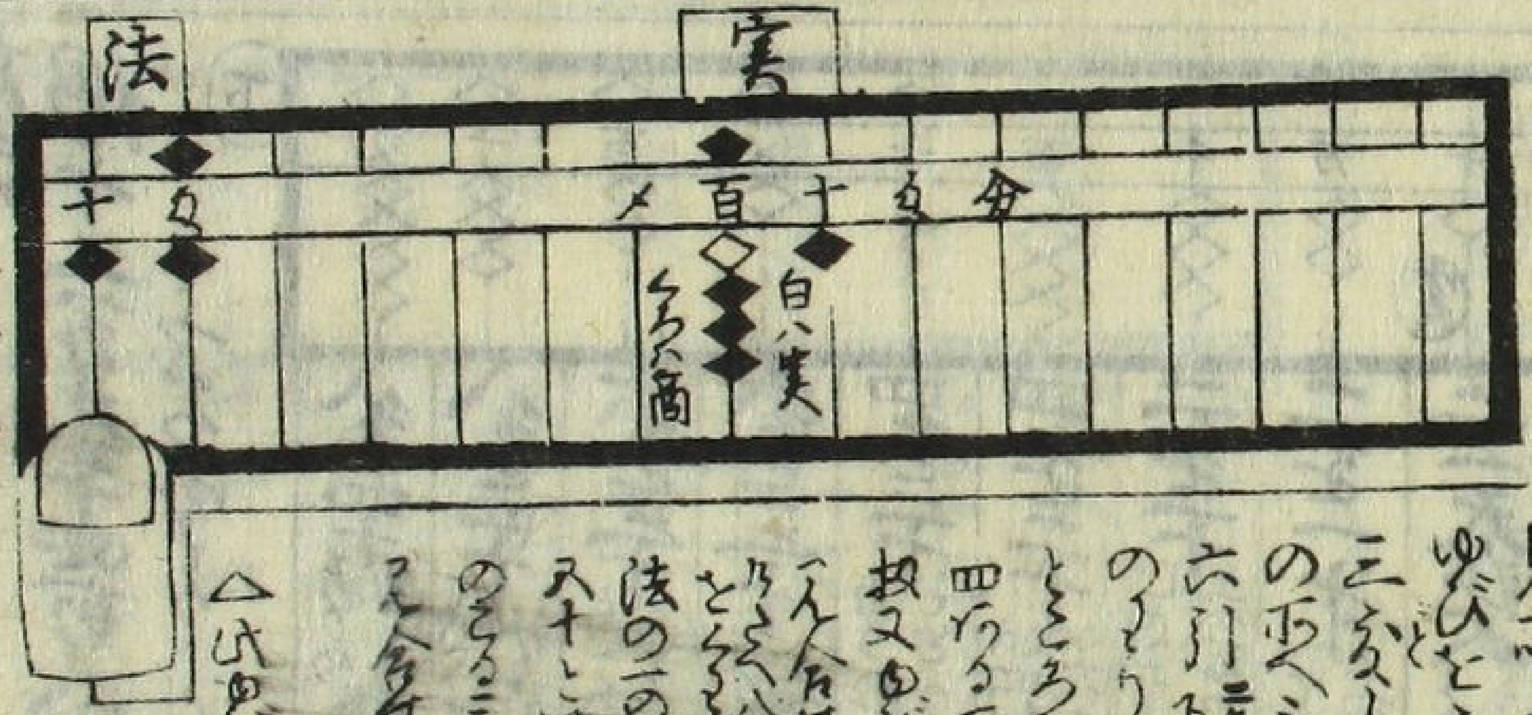
割て何程と商とす

此方にをくを法といふ又目安とも云此法は九九合せ實ととる

左そろばんのところ

○見一百目を六割ニする算なる圖

右又下とも

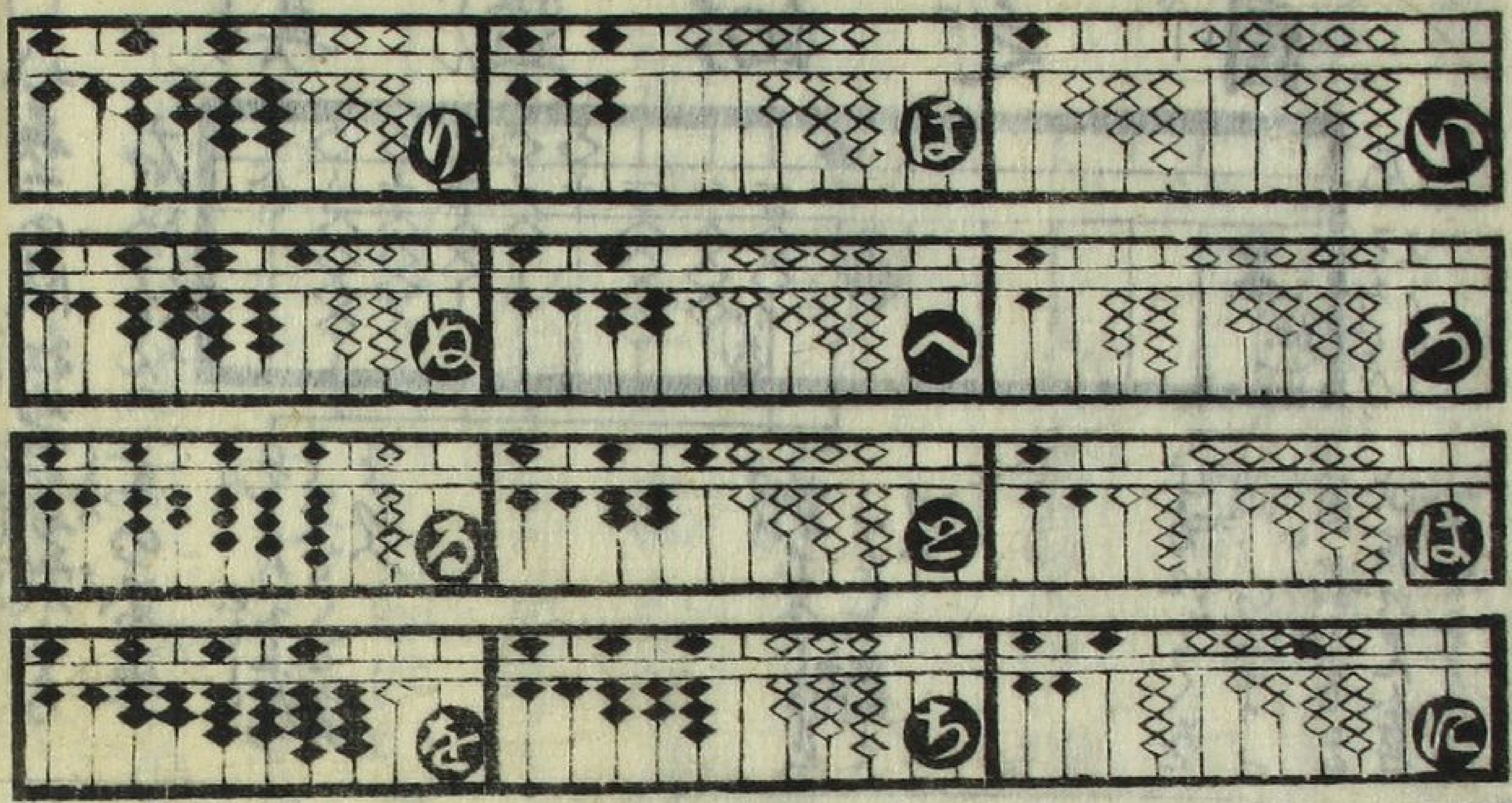


左又上とも

見一の此かくそかんがべし

見一のところ法のところへ此ごとくゆびを並てつる作九の二と割以一倍一と三をへして次のゆびを次の左へ六の並べ並て實の六と二を合六々三十六引下の左の四十引て次の拙並にて十六のもりひとつもうすむ拙又法の一のところへゆびとおして此一にて實への四ある並とうる二と三十四のうち二を上の左へ二をかる拙又ゆびと次の左と上への並へとをして實と一ハ合せ二ハ十二引之實の三の左の二ととうり次下の左をへ八のもりとうるなり是にて二つとうりすむ拙又商べと法の一の並ぬすむ此一にて實への八ととる又を八十とりて八のうち五より上の左へ五をおる　のこる三十と　ゆびと法の二ハ並實の八と　二合せ五ハ三十引とるなり

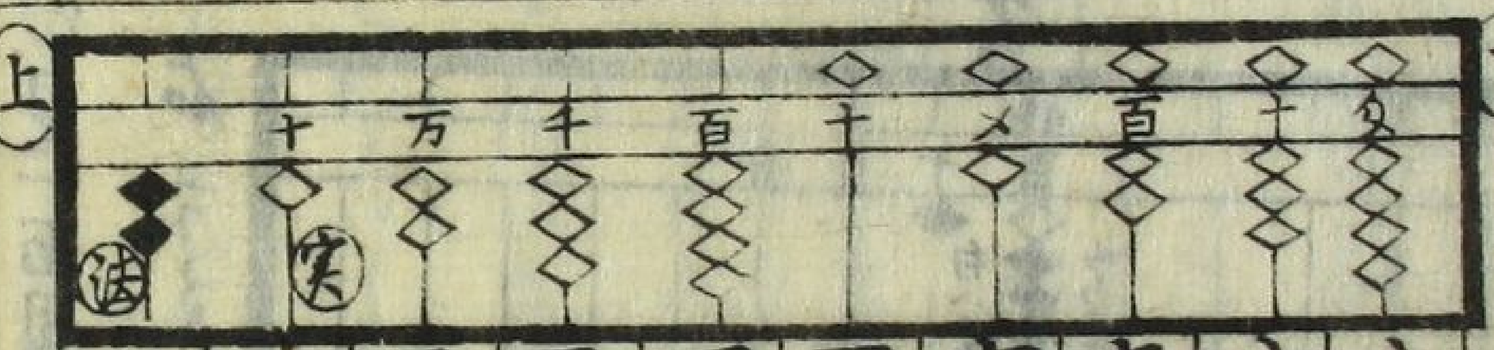
△此ゆびと並てるハ初心のちちをとり　ちくねずのつるくゆびのつもひ　えちらくばまちらくひのできぬこ　八さんハ法の左をさて左をさしへ出ハ　と並るおもとをば



八算二の段の割

是ハさきのかいまざつとられ實にけとならべて割なり

たとへバ
銀十二万三千四百五十六匁七分八厘九毛を
ふたつにわるとしれのごとし



八十四 ちりの八とをとりて を のごとく かる 二天作五 うへ五おきれば わ のごとし

八十四十 ひ八をとりて上の けたへ四とこえる る のごとし

六十二千 ちりのとをとりて り のごとく 二天作五 のこる一を五をおきすれば ね のごとし

六十三十 六をとりて上へ三をこえる ち のごとし

四十二千 ちりのとをとりて へ のごとく のこる 二天作五 一とき五をおきれば そ のごとし

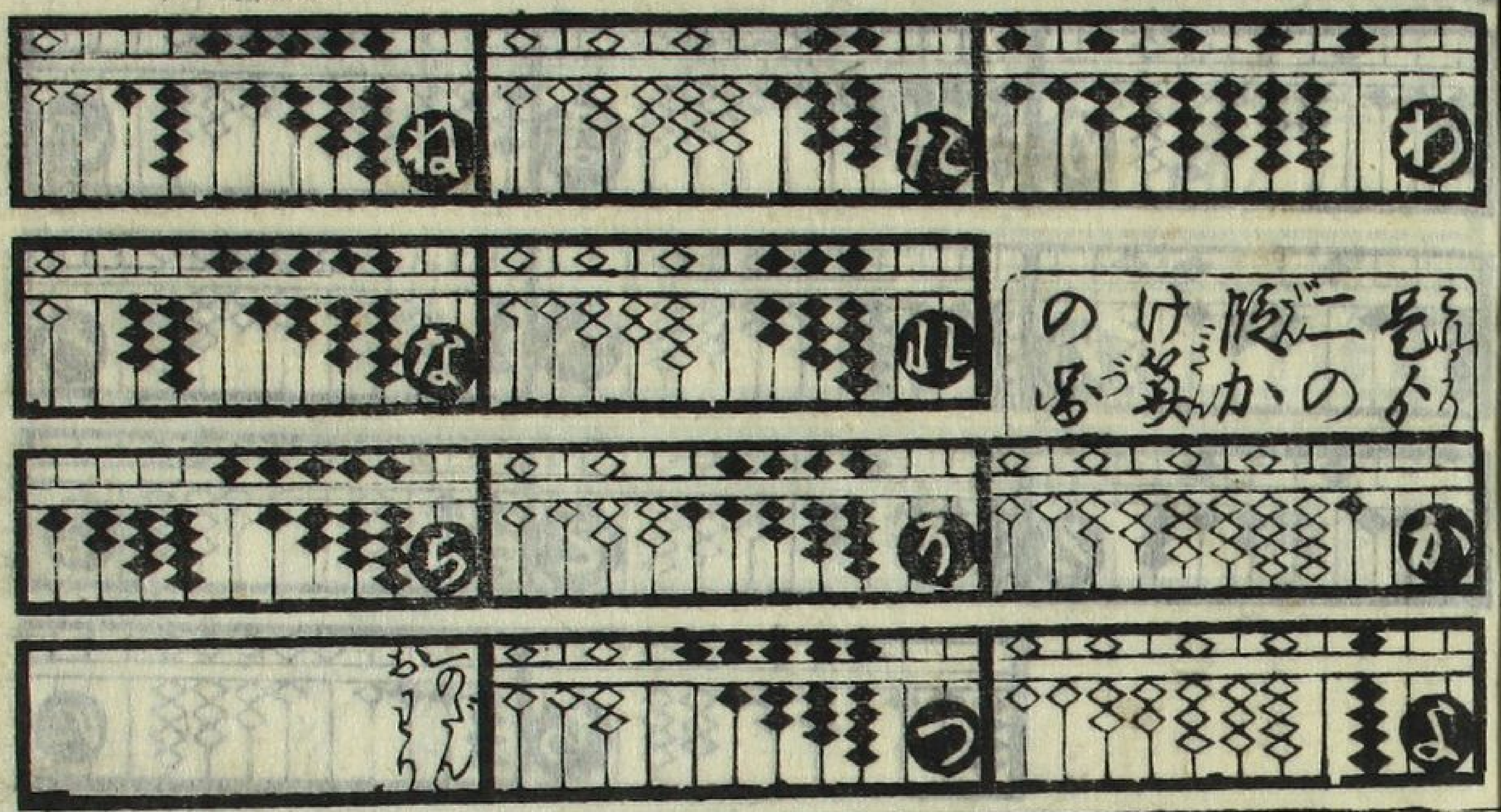
四十二十 ひ四をとりて上へ二をこえる ほ のごとし

二十二千 ひ四二をとりて上へ二をこえる は のごとし 二天作五 一とをれて五をおきすれば に のごとし

二十一十 とりてひ二をとりて上のけたへ一をこえる ろ のごとくするなり

二 二天作五 とりてひ一をとりて うへの五のつぎをおきれば い のごとくにするなり

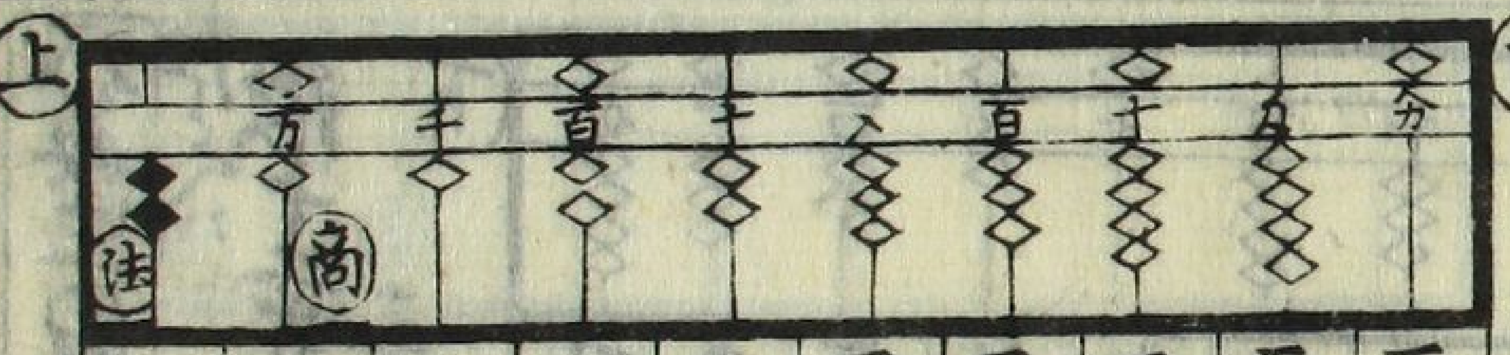
ひだりよりみぎへしらべる



はかけざん

右をかけてかけるに
六万五千七百二十八匁三分九厘五毛を
四つにかけるなり

自分よりかけるなり かけるのことごとく けそのうへにつくるなり



二五十 とりてひ五をとりて 一つにつくるなり か のごとく にするなり

二四八 とりてひ四をとりて 下のけたへ八くるなり よ のごとくにするなり

二九十八 とりてひ九をとりて 下のけたへ八つくなり た のごとくにするなり

二三六 とりてひ三をとりて 下のけたへ六つくなり れ のごとくにするなり

二八十六 とりてひ八をとりて 一につくり 下のけたへ六つくなり う のごとくにするなり

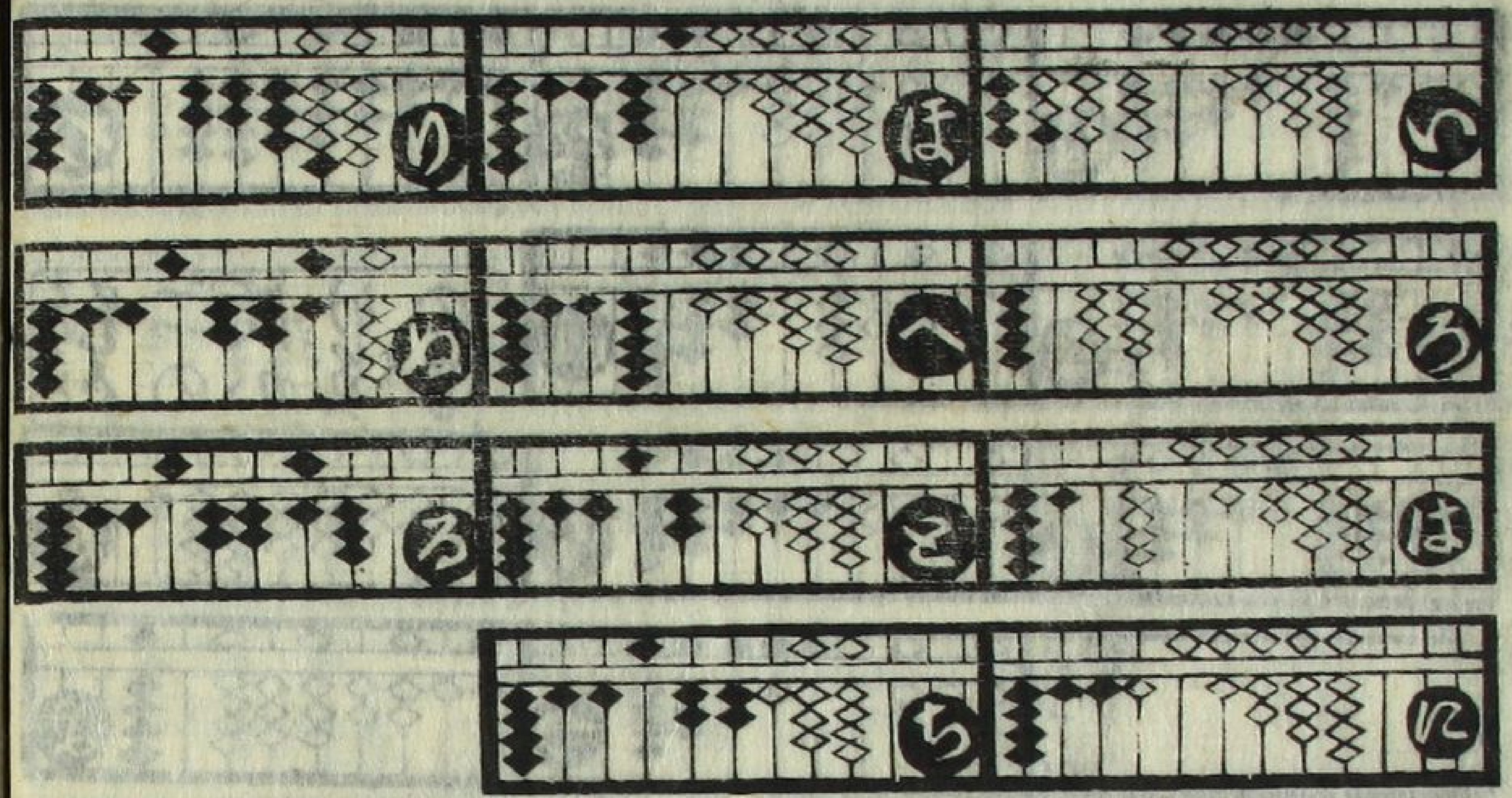
二二四 とりてひ二をとりて 下のけたへ四つくなり つ のごとくにするなり

二七十四 とりてひ七をとりて 一につくり 下のけたへ四つくなり ね のごとくにするなり

一二 二 とりてひ一をとりて 下のけたへ二つくなり な のごとくにするなり

二六十二 とりてひ六をとりて 一につくり 下のけたへ二つくなり ら のごとくにするなり

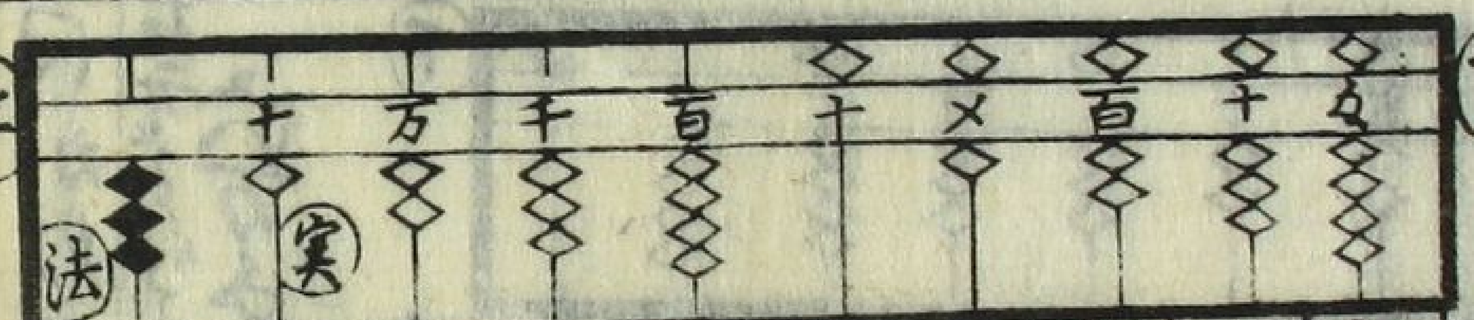
右よりかけたてる



八算三の段の割

たとへば銀十二万三千四百五十六匁七百八十九文と
三でわるときはそのたのごとし

右のわり



九三三十 此九をとり上の三を入て三をくわへる　ろのつのごとし

九三三十 此六の九をとり上の三をくわへる　ぬのつのごとし

六三三十 此六をとり上へ三をくわへる　ちのつのごとし　三一三十一 のこる一を三につくり下のを入一をくわへる　りのつのごとし

六三三十 此六をとり上の二をくわへる　とのつのごとし

六三三十 此六をとり上の六をとり上のを入一をくわへる　へのつのごとし

三三十 此四をとり上へ一をくわへる　にのつのごとし　三一三十一 のこる一を三につくり下へ一をくわへる　はのつのごとし

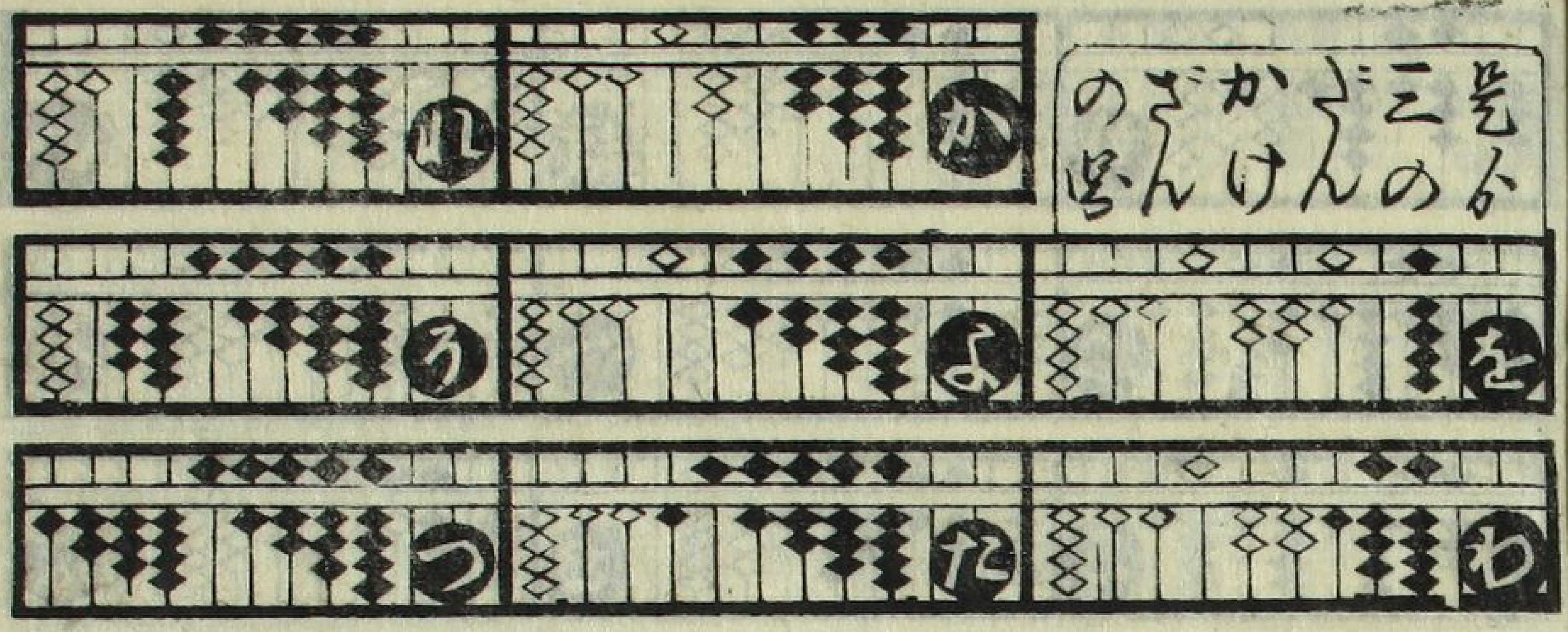
三一二十 此三をとりひ上の一をくわへる　はのつのごとし

三一二十 此三をとりひ上の一をくわへる　ろのつのごとし

三一三十一 此一を三につくり下のを入一をくわへる　いのつのごとし

ひらきのわりざんなり

是ハ三のかけざんのさん

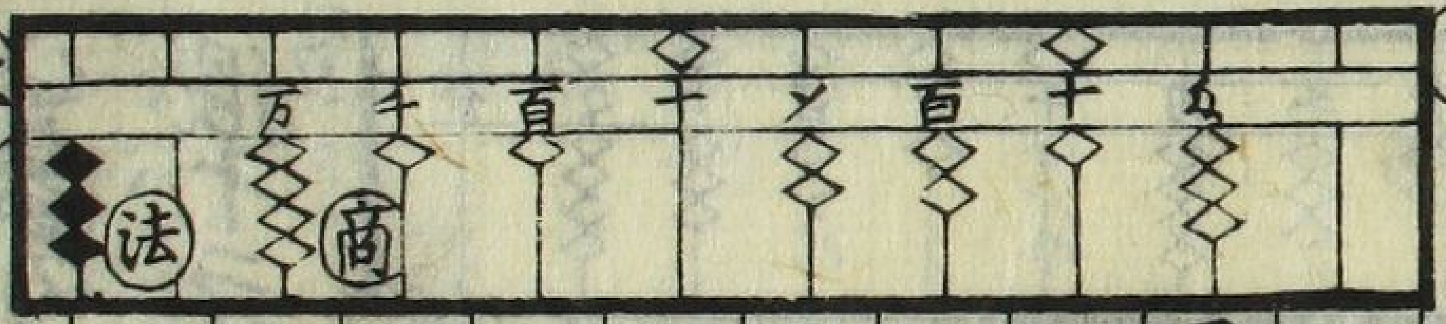


三のかけざんおわり

はかけざん

これハ四万千百五十二匁二百六十三文をもって

右のわり



三三九 此三をとりて下の九をくわへる　をのつのごとし

三六十八 此六を一につくり下のけを入八をくわへる　わのつのごとし

二三六 此二をとり下の六をくわへる　かのつのごとし

二三六 此二をとり下の六をくわへる　よのつのごとし

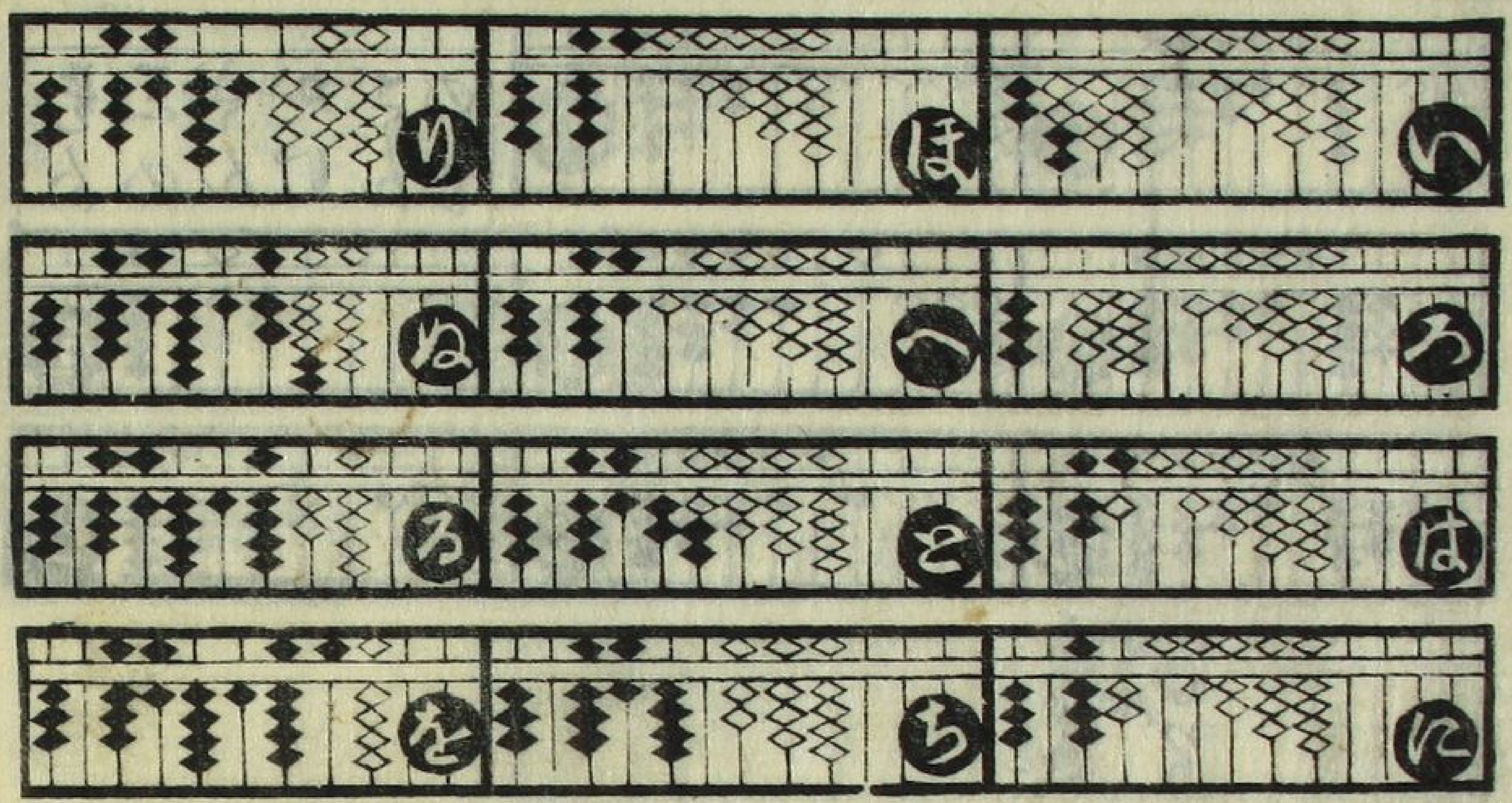
三六十八 此六を一につくり下のを入八をくわへる　たのつのごとし

一三三 此一をとり下の三をくわへる　れのつのごとし

一三三 此一をとり下の三をくわへる　ろのつのごとし

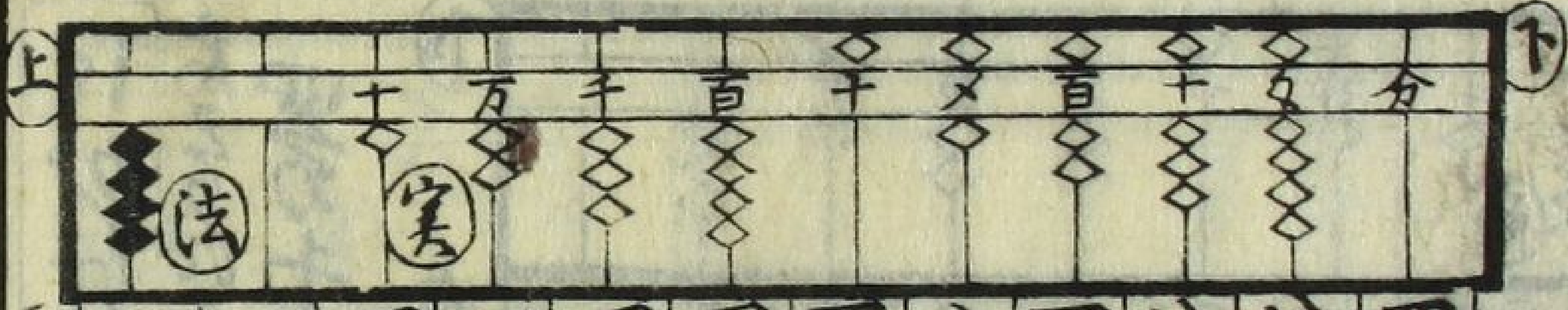
三四十二 此四を一につくり下のけを入二をくわへる　つのつのごとし

ひらきのかけざんなり



八算四の段の割　右同じ

たとへバ銀十二万三千四百五十六匁七百八十九分を四ツよりころわり左のごとし



四二天作五　此ところの二をとらず五をおろす　よのごとくなる

八こ十二　此内八十九上へ二ろおく　わのごとし　四一二十二　此一と二にわり下のたまへ二ろおく　かのごとくなる

八こ二十　此八より上のたまへ二ろおく　るのごとし　四二天作五　此二つ九へ八をおろす　をのごとくなる

四こ二十　此内四九上へ二ろおく　りのごとし　四三七十二　此三と七にわり下のたまへ二ろおく　ぬのごとし

八こ三十　此ところの八をとり上のたまへ二ろおく　ちのごとくなる

四こ二十　此内四九上へ二ろおく　へのごとし　四一二十二　のところ二と二にわり下のたまへ二ろおく　とのごとし

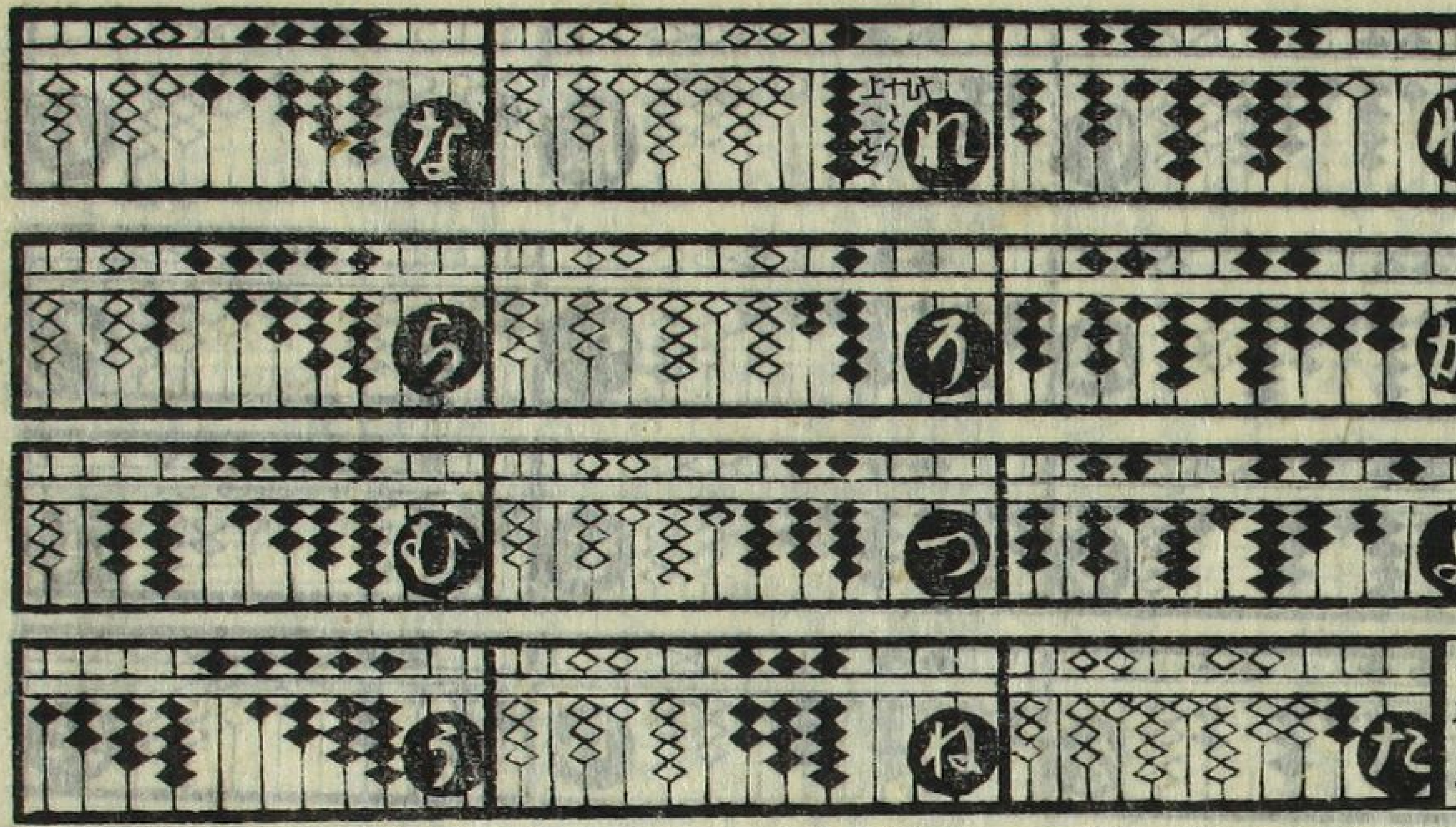
四こ二十　此内四より上へ一ろおく　れのごとし　四二天作五　此二つ五へ八をおろす　ほのごとし

四三七十二　此三と七にわり下のたまへ二ろおく　はのごとくなる

四こ一十　此本の四をとり上のたまへ一ろおく　ろのごとくなる

四一二十二　此一と二にわり下のたまへ二ろおく　いのごとし

ひとつひとつかぞへためす

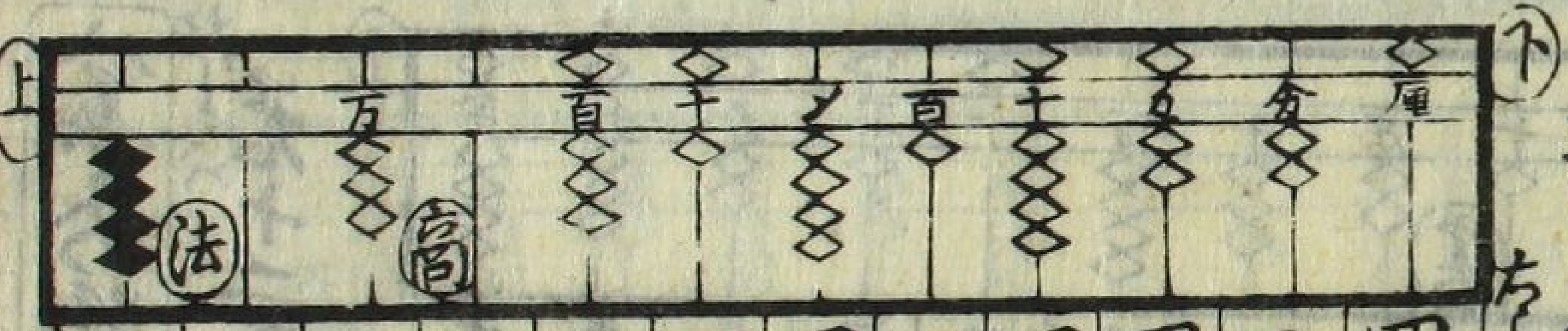


四のかけ

はかけさん　右同じ

たとへバ右の割たる銀三万〇八百六十四匁百九十七文ハ分五厘を

たちかけもどしめ



四八三十二　此八と二につくりより　たのごとし

二四八　此二とより下のけた八へ八をおろす十ほうゆへ上のたまへ一おく　れのごとし

四七二十八　此七と二につくり下のたまへ八をおく　うのごとくなる

四九三十六　此九と三につくり下のたまへ六をおく　つのごとくなる

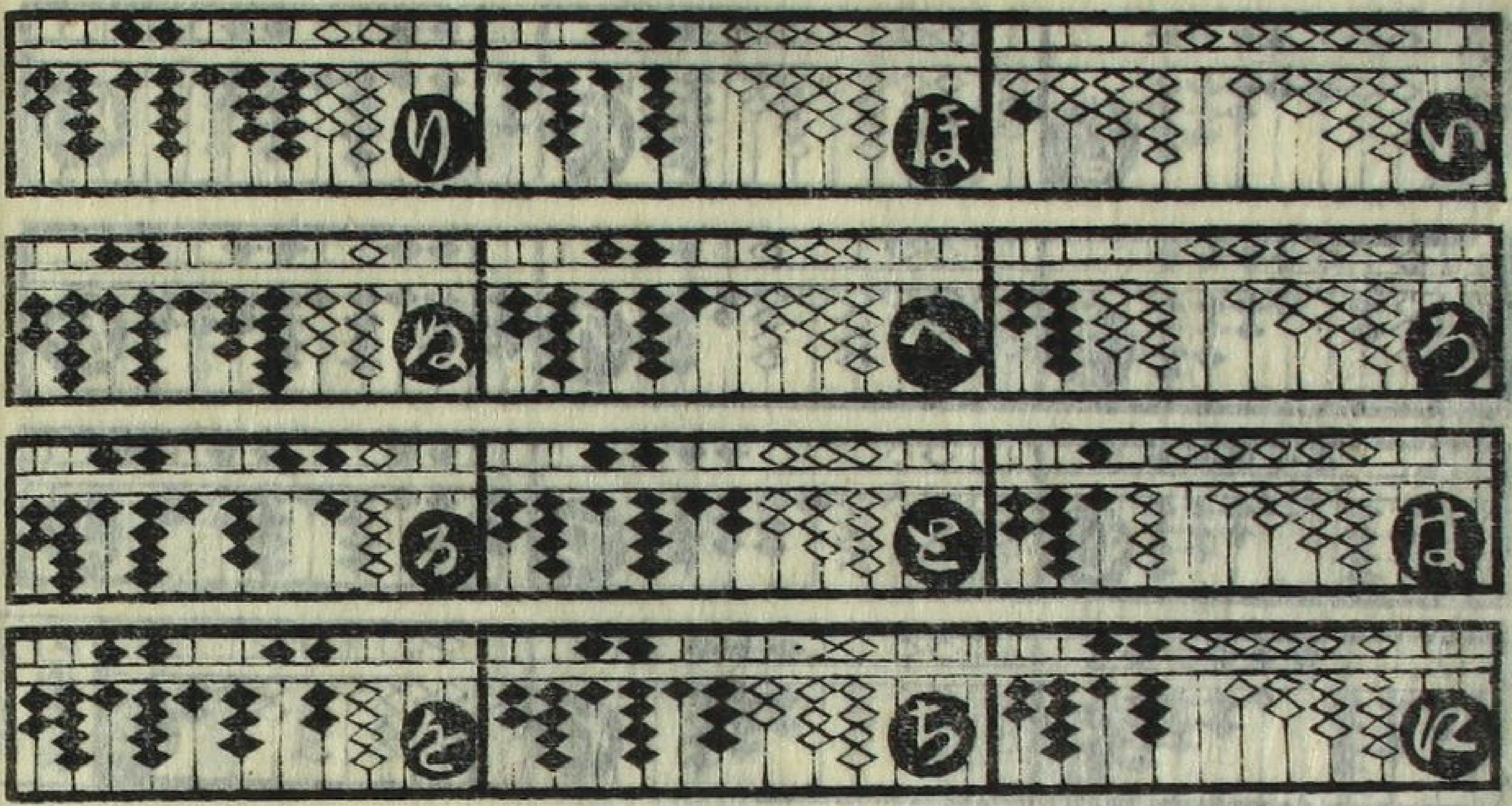
一四四　此二と取り下のたまへ四をおく　ねのごとくなる

四四十六　此四と一につくり下のたまへ六をおく　なのごとくなる

四六二十四　此六と二につくり下のたまへ四をおく　らのごとくなる

四八三十二　此八と三につくり下のたまへ二をおく　むのごとくなる

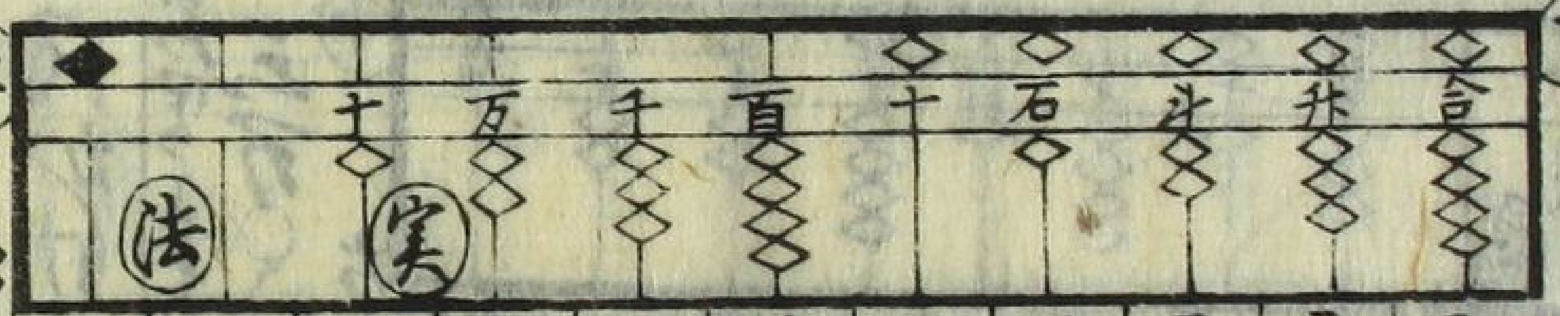
三四十二　此三と一につくり下のたまへ二をおく　うのごとくなる



八算八の段の割

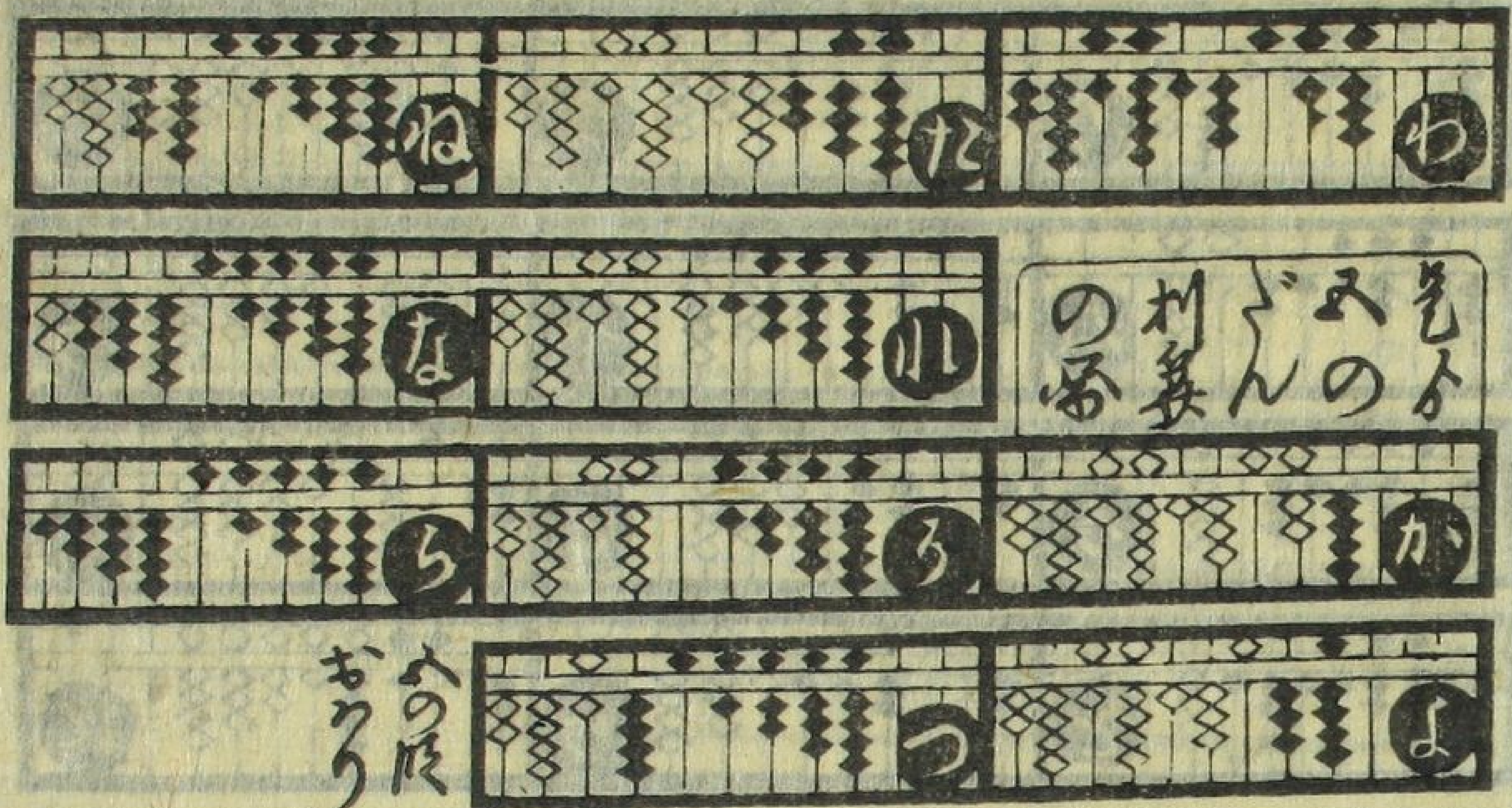
たとへバ 八十二万二千四百八十六石七斗八升九合と
ならべ八にてわるべし右のごとし

右わり



八七二千 上へ一おくる を のごとし 八四加四 八四と八にてつる わ のごとくなる
八六二千 上へ一おくる ぬ のごとし 八三加三 八三と六にてつる る のごとし
八五二千 上へ一おくる ち のごとし 八二加二 八二と四にてつる り のごとし
八五二千 上の へ のごとし 八一加一 八一と二にてつる と のごとし
八四二十 上の ほ のごとくなる
八四加四 八四と八にてつる に のごとくなる
八三加三 八三と六にてつる は のごとくなる
八二加二 八二と四にてつる ろ のごとくなる
八一加一 八一と二にてつる い のごとくなる

右のとをりのちしめ



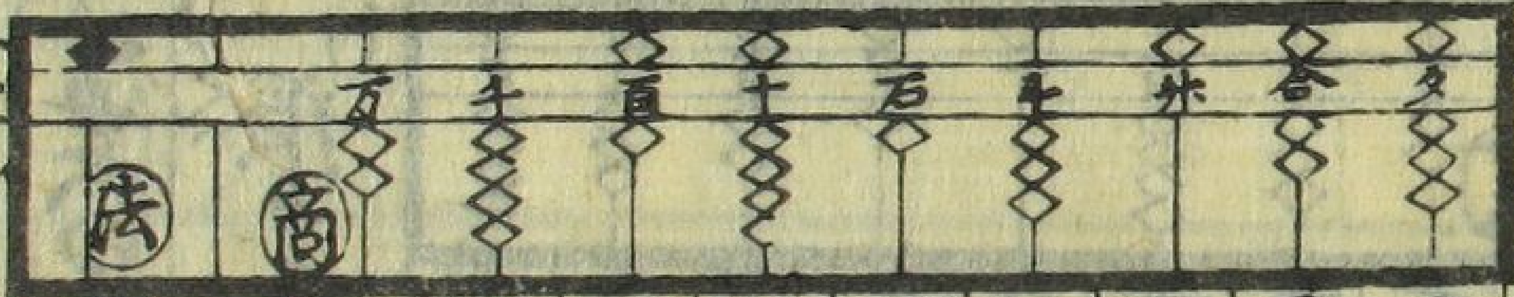
是ハ八のざん割算の答

八の段おわり

八かけさん

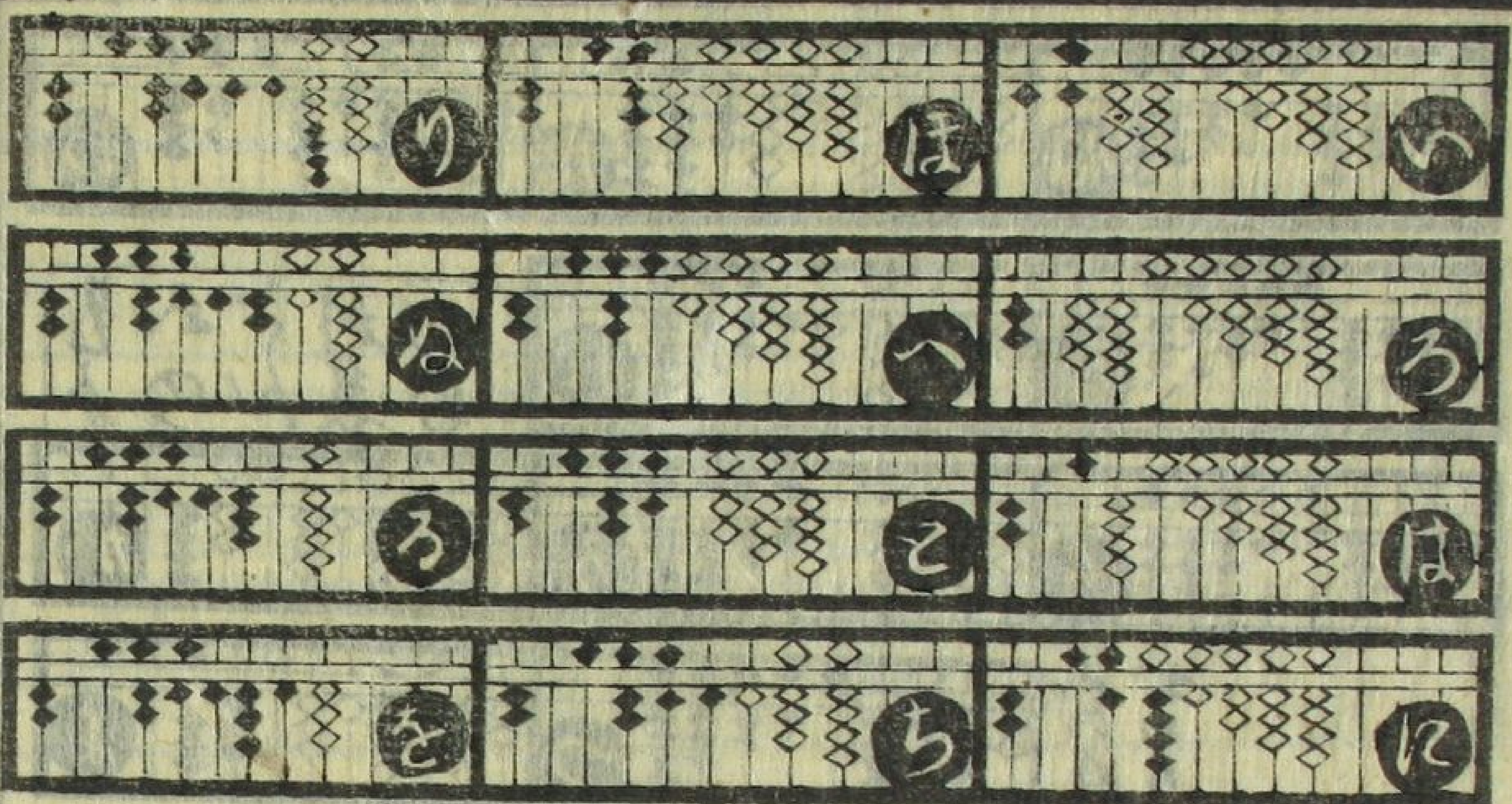
たとへバ 二万四千六百九十一石三斗六升七合八勺
右八ッまでかけバ
右のとをりにかけるべし

右かけ



八八六十四 八八と六十四につる か のごとくなる
七八五十六 八七と五十六につるて下の よ のごとし
六八四十八 八六と四十八につるて下の た のごとし
三八二十四 八三と二十四につるて下の れ のごとし
一八八 八一と八につるて下の う のごとし
九八七十二 八九と七十二につるて下の つ のごとし
六八四十八 八六と四十八につる ね のごとし
四八三十二 八四と三十二につる な のごとし
二八十六 八二と十六につる ら のごとし

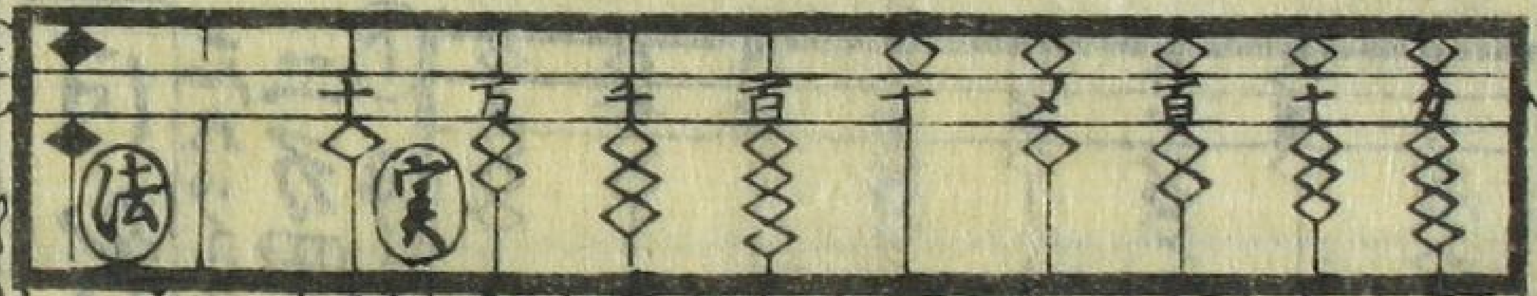
ゆ 六一九十四
して二つまへ
らふつ入と
こまちめち
みそつきの
六七二十と
するも三四ツ
ようそうふ
めちくる三ツ
と合して六
を二千とする



八算六の段の割

指くへ
銀十二万三千四百五十六匁七百八十九を
六つよつ割 此れのとし

右のりの



六六三十六 上へ二つなり を のごとし 六三天作八 此三と入れつくる わ のごとし

六六三十六 上へ二つなり ね のごとし 六七四十二 上へ二つなり ろ のごとし

六七四十二 上へ二つなり ち のごとし 六八四十八 上へ二つなり り のごとし

六七二十 上へ一つおくる と のごとし

六六三十六 上へ二つおくる ほ のごとし 六三天作八 三とえ入れつくる へ のごとし

六四六十四 此四と六入れつくる下の 二へ四つなる に のごとし

六三天作八 此三と入れつくる は のごとし

六七二十 此六の六とり上の 二へ一つおくる ろ のごとし

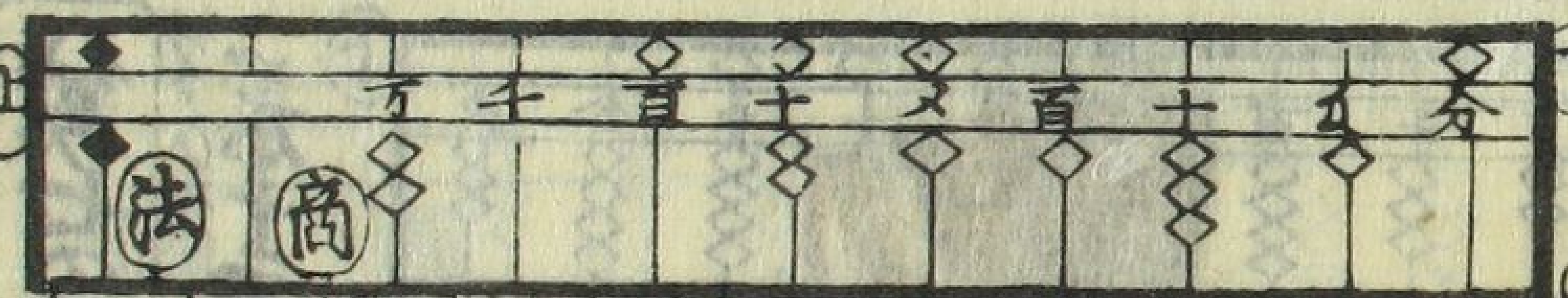
六八六十四 此一とその二をとき 下の二へ四つなる い のごとし

りかけさん

右ちらりれ
二万〇八百七十六匁八百二十匁八分六ツ

うけあらため

右りのめ



八六三十 此八と三よつくる か のごとし

一六 六 此六とりて下の 六つ入るなる よ のごとし

三六十八 此三と一八つくりて下の 八つ入るなる た のごとし

一六 六 此一とりて下の 六つ入るなる れ のごとし

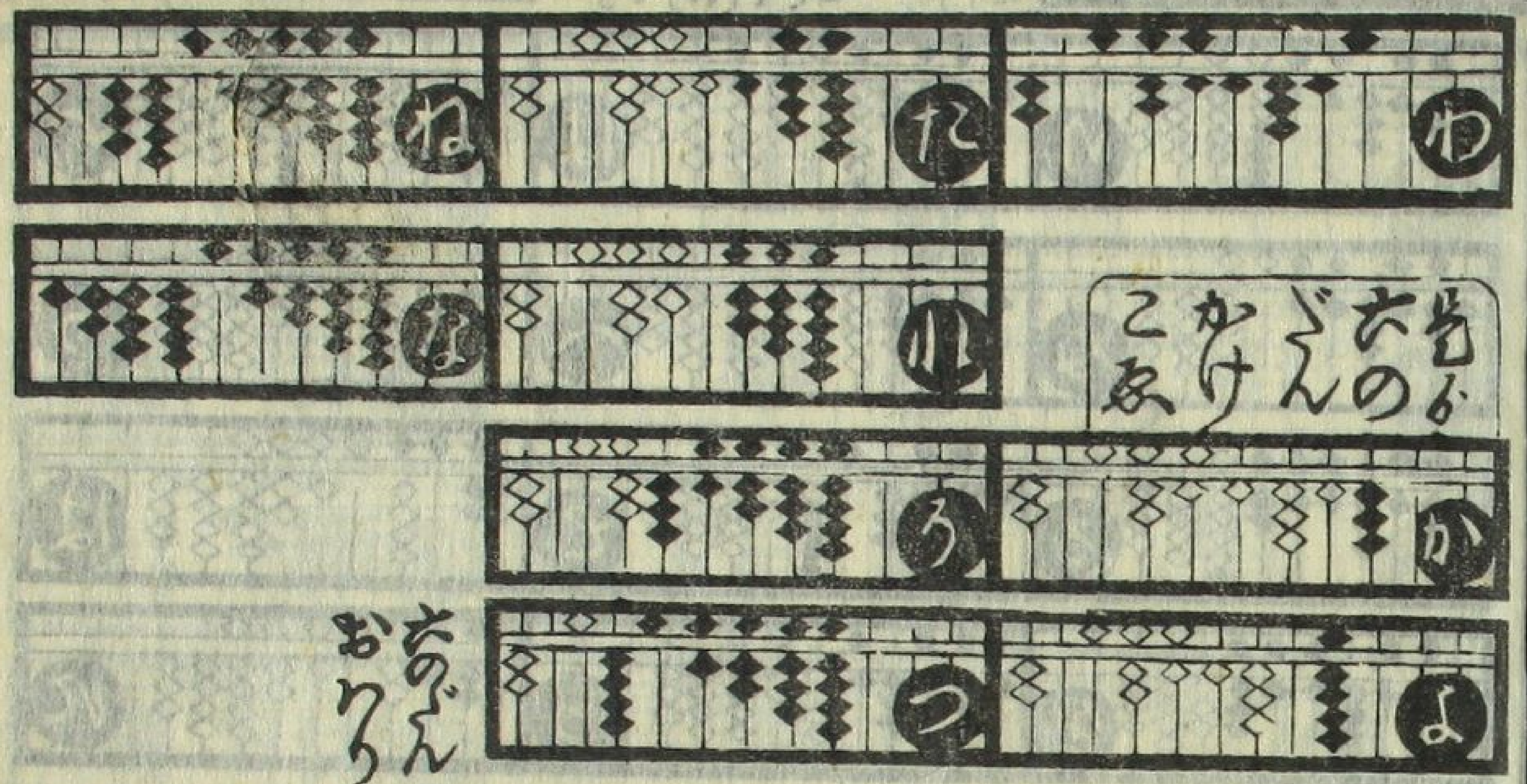
六六三十六 此六と三入れつくりて下の 六つ入るなる そ のごとし

六七四十二 此七と四入れつくりて下の 二つ入るなる つ のごとし

八六三十 此八と三入れつくる ね のごとし

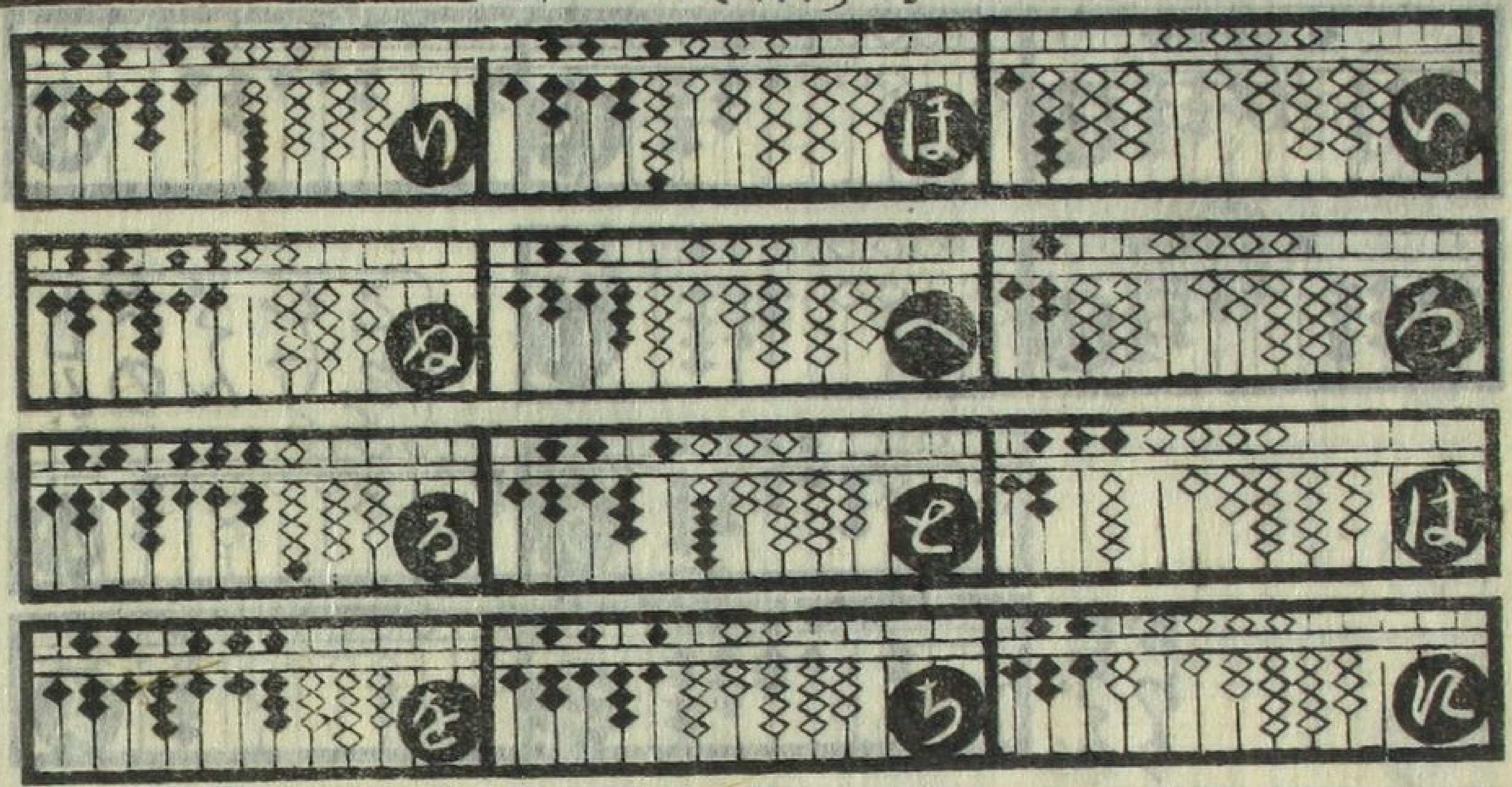
二六 十二 此二と一入れつくり 下へ二つなる な のごとし

是からかけ六のざん
こ成



六のざんおわり

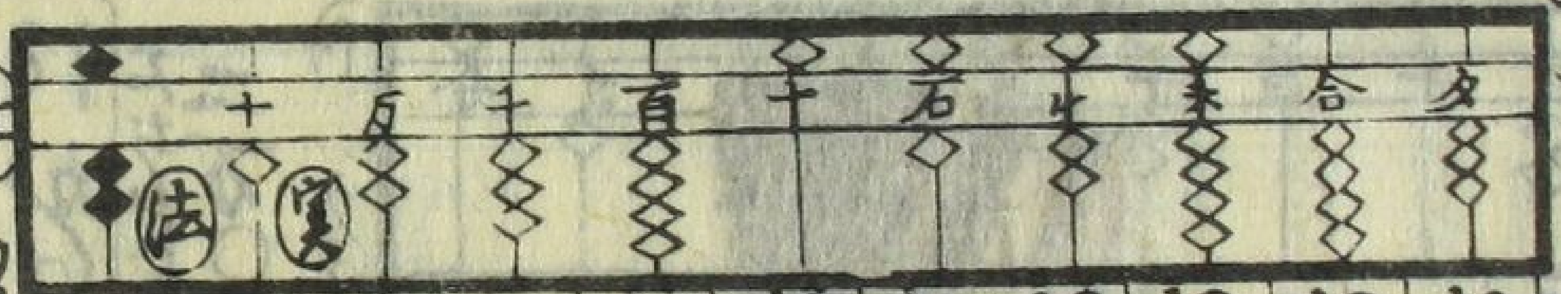
㊁七三下六上へ一つおき ぶをてくろ もちてつかれの 七ゟ千のは 六のよりおく もちさろ一と 合して七を 一千とする ㊁のそれ まおまに うくとあけ



八算七の段の割

右同し

弐十二万三千四百五十六石七斗九升四合三夕
七ツにてわるの事



七ゟ二十 此七とり上へ一おく ⓨの事

七六八十四 此弐の六を八にてり下へ四ツおく ⓚの事

七ゟ三千 此三を四にてり下へ二ツおく ⓦの事

七ゟ千 内七を上へ一とる ⓞのこと 七三四十二 此北にてり下へ二おく ⓡの事

七ゟ千 二七する 上へ一おく ⓝのこと 七ゟ七十三 下へ三おく

七ゟ千 二七する 上へ一おく ⓒのこと 七四十六 此四とにてり下へ八おく ⓡの事

七ゟ千 二七する 上へ一おく ⓗのこと 七五四十六 此四と五にてり下へ八おく ⓣの事

七ゟ千 内七を上の ⓝのこと 七二十六 三千まで下へ六おく ⓗの事

七四十八 此四と八にてり下の九へ八おく ⓗの事

七八七十二 此八の八と七にてり下の九へ一おく ⓡの事

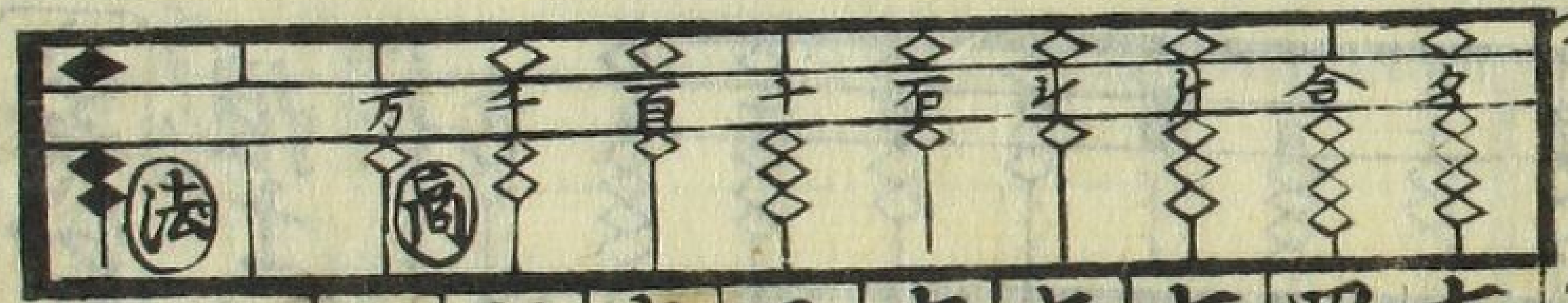
七一加下三 此一ととり下の三おく ⓘの事

ろくろめ

はかけさん

右同し

右七ツにかけれは
壱万七千六百卅六石八斗弁四合九勺七之



くけさしめ

七九六十三 此九と六とつくりて下の二ヘ三とる ⓣのこと

四七二十八 此四と二をつくり下へ八とる ⓡのこと 但 下の八の上の十二の四に一かけ

七八五十六 此八と五にてり下へ六とる ⓡのこと

六七四十二 此六と四にてり下へ二とる ⓣのこと

五七四十二 此五と四にてり下へ二とる ⓝのこと

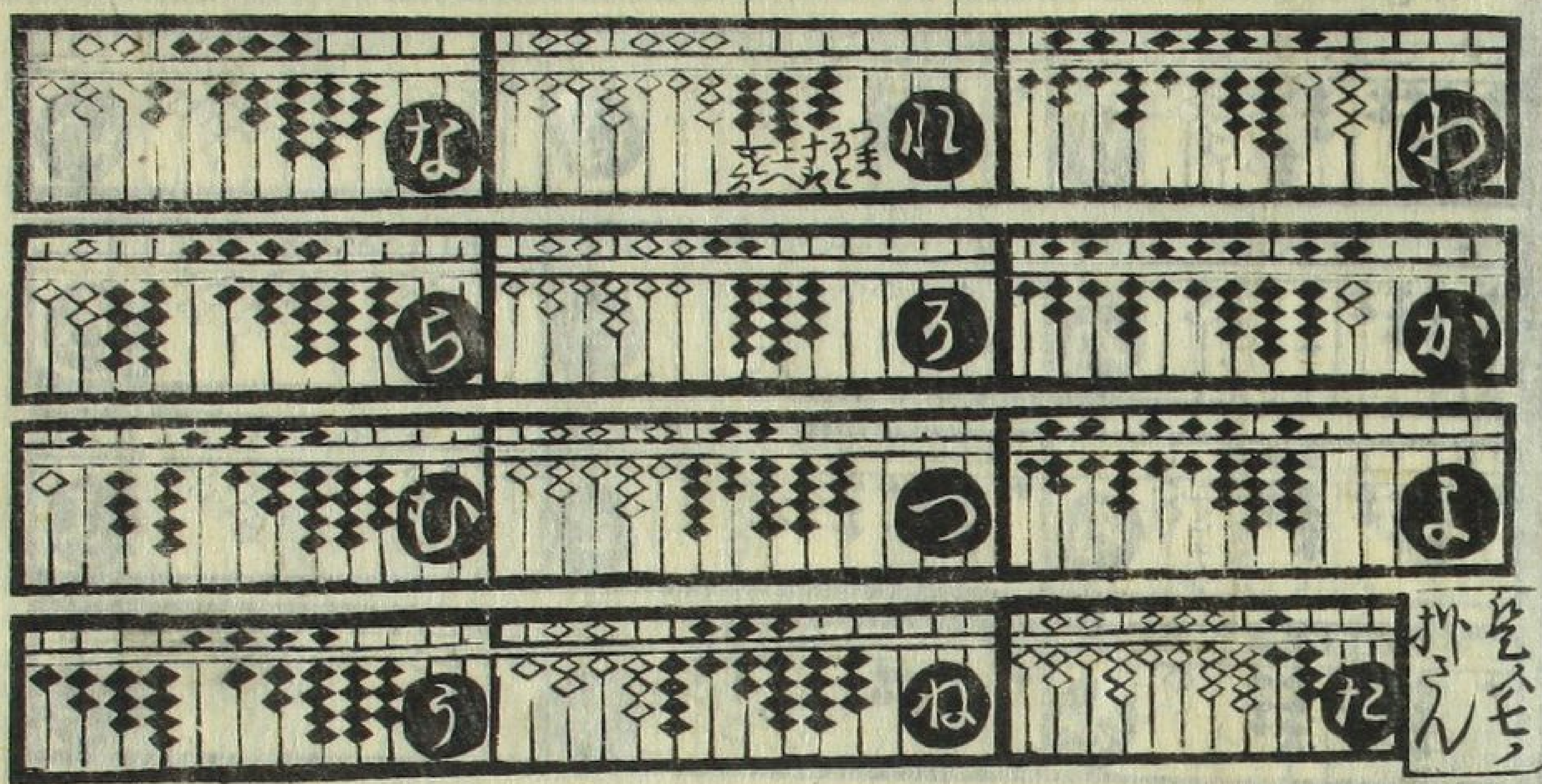
三七二十一 此三と二にてり下へ一とる ⓝのこと

六七四十二 此六と四にてり下へ二とる ⓡのこと

七七四十九 此七と四にてり下へ九とる ⓜのこと

一七 七 此一ととり下の七とる ⓤのこと 但し十一ととるへ一をくる

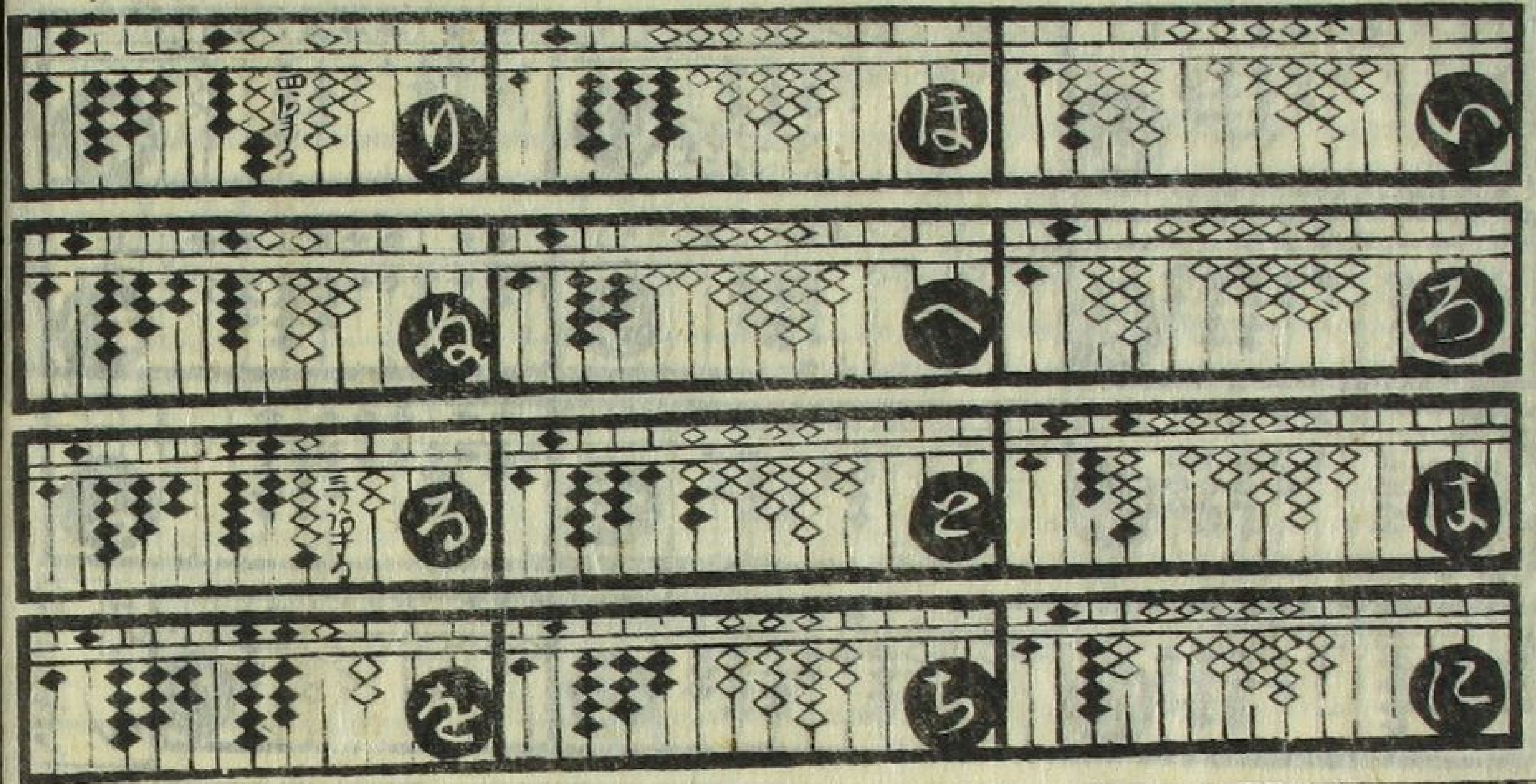
ろくろめ



七さん七ノ

八さん七

〇十五

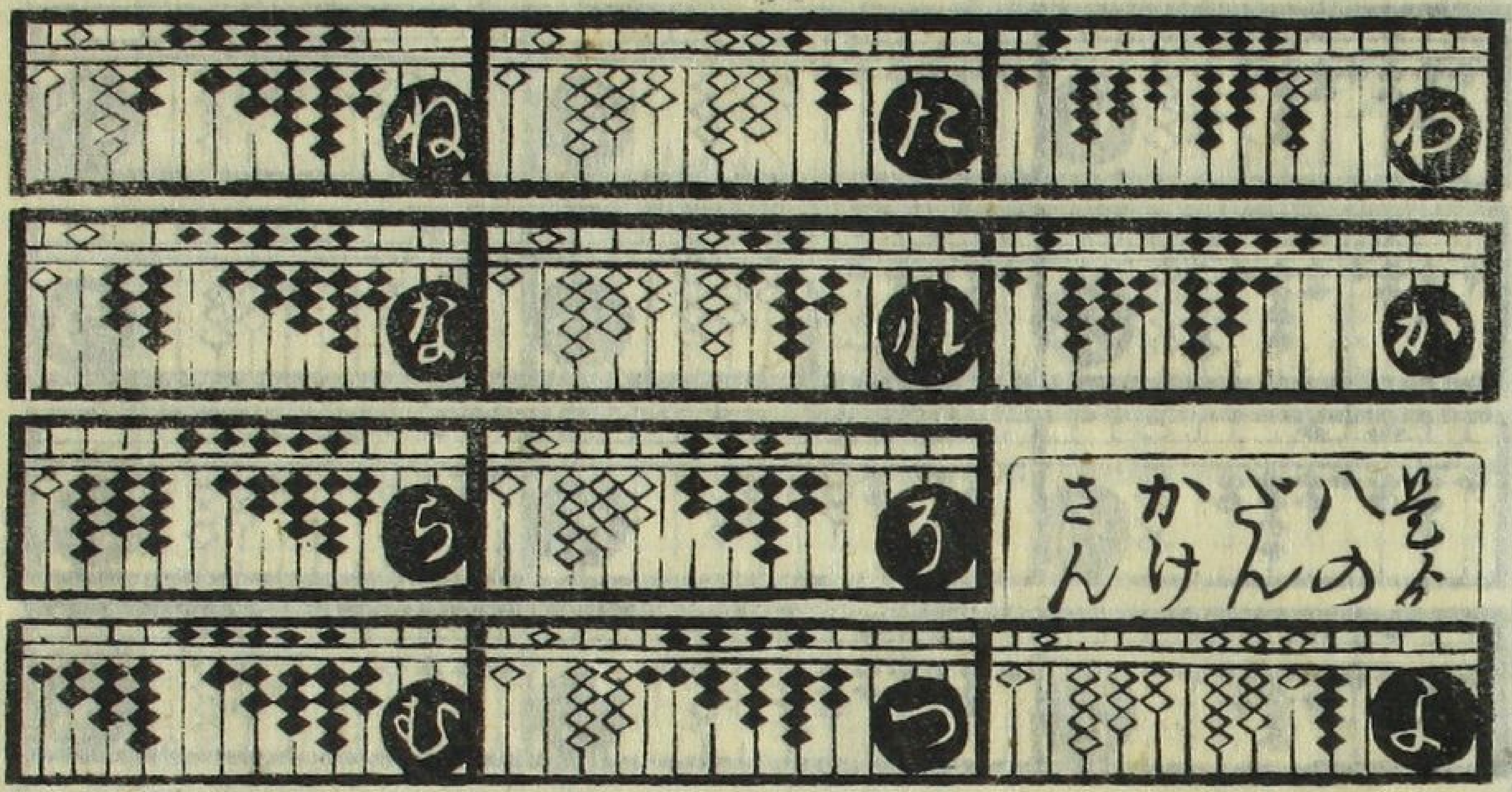


(ぬ)八七八十六ハ
四ツ合ほとして八
十をとるところを
ちりでもちかひ八
の八十二十を
すてるとき四ツ
の一けたのところの
四ツ合をもし
八十十すなる
(る)八七十四
して三ツ合ほとる
ところをこれ
もちかひて八
八十二十とすれ
そへ二へ四ツ合と
ところの三ツを
合て八と
手とする

八算八の段の割

八ッまではらひ
銀十二万三千四百八十六匁七百八十五分二厘を
八ッまて八ツのわり
右同

八四天作六　四を五に　つくる　(か)のごとくする
八八十二　上へ二とあり(を)の八八十一　下へ二とある(わ)のごとし
八千十　上へ一とする　四と六四の(ね)に八八七十四　下へ四とある(る)
八七八十六　下へ六ある　(り)のごとし
八六十　上へ二とある　(ち)のごとし
八五十　上へ二とある(へ)の八一天作二　下へ二とある(と)のごとし
八四十　上へ二とある(に)の八二天作四　下へ四とある(ほ)のごとし
八三天作六　三をそのまゝにて下の(は)のごとし
八四天作五　四を五につくる(ろ)のごとし
八一天作二　一をそのまゝにて下の(い)のごとし

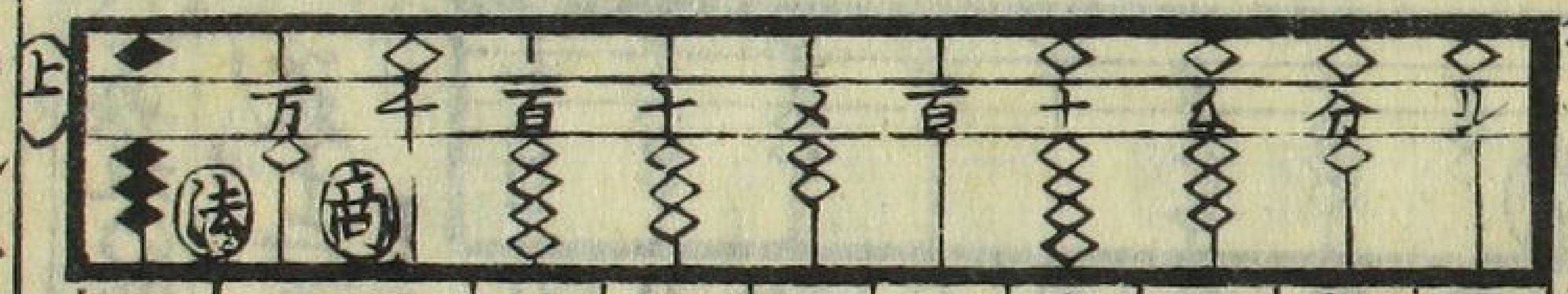


八のだん
かけさん

はつけさん

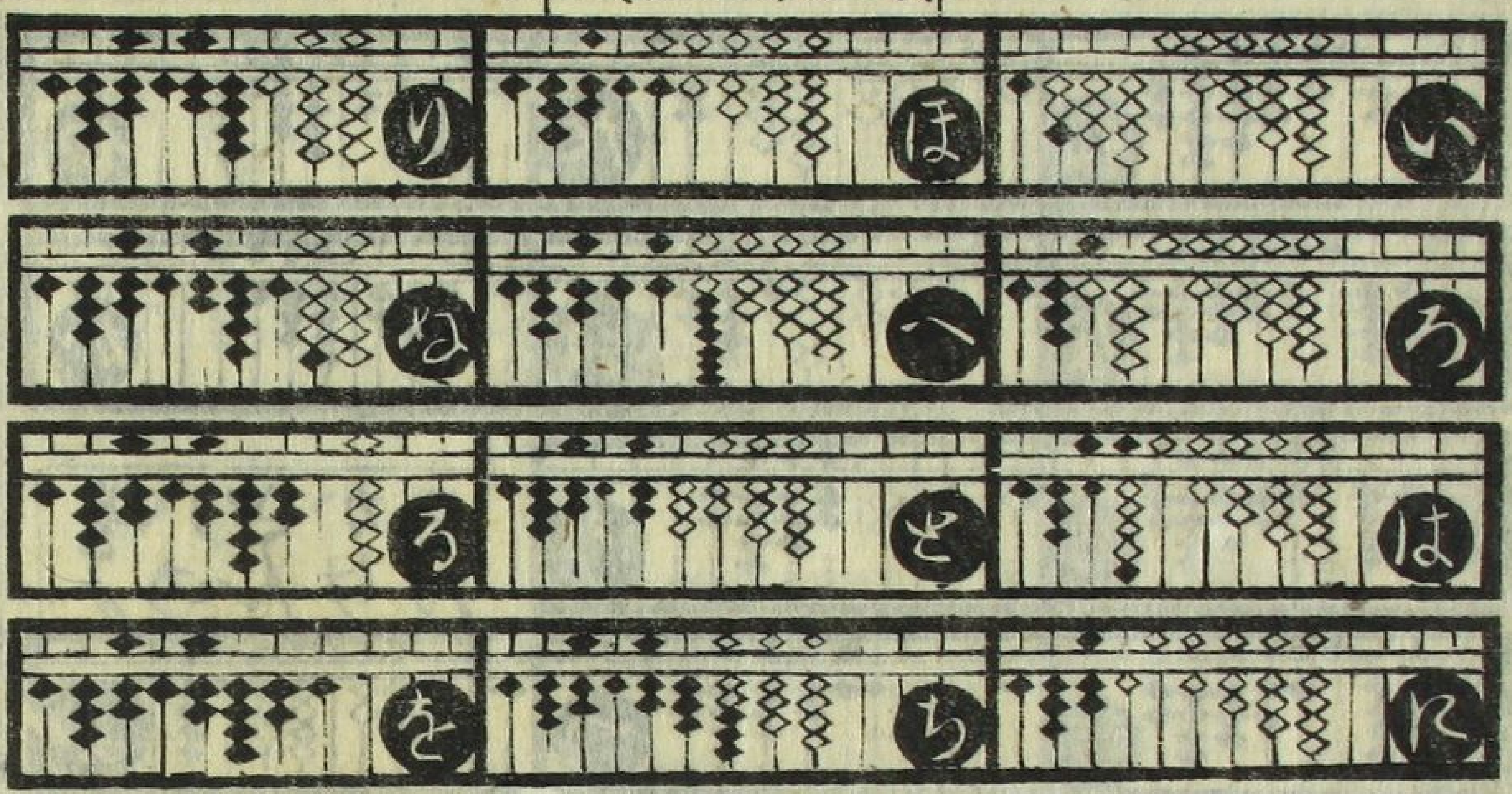
右同

八八ツまで八八
十万五千四百三十二匁〇九十八分六厘九毛六糸
かけさん



八八六十四　四を四につくる(よ)のごとし
六八四十八　八を四につくり下へ一あるは(た)のごとし
八八六十四　八を六にかけ下へ四とある(れ)のごとし
八九七十二　九を七につくり下へ二とある(そ)のごとし
六八四十八　六を四につくる(つ)のごとし
三八二十四　三を二につくり下へ四とある(ね)のごとし
四八三十二　四を三につくり下へ二とある(な)のごとし
五八四十　五を四につくる(ら)のごとし
一八　八　一とり下の八を上へ一おくる(む)のごとし

◯九五六九加六 三万まろ つもとうさく もちろて次の九を二十とするとこれで とうてころの二と合て 九八二千する



八算九の段の割

米十二万三千四百八十六石七斗八升九合を 九ツにわることなり

右日の

九三十二 九ゟ上の(一)へ一あぐる ◯を のごとし

九三十二 九ゟ上の(一)へ一あぐる ◯ろ のごとし

九三十二 上へあぐる ◯り にて九一加下一 一あぐる下へ一入る ◯ぬ のごとし

九三十二 九三十二上へ三入る ◯と にて九三六加下三 下へ三入る ◯ち のごとし

九六加下六 下へ六入る ◯へ の所にて七九六十三 七をとれる

九三十二 上へ二入る ◯に にて九一加下一 下へ一入る ◯ほ のごとし

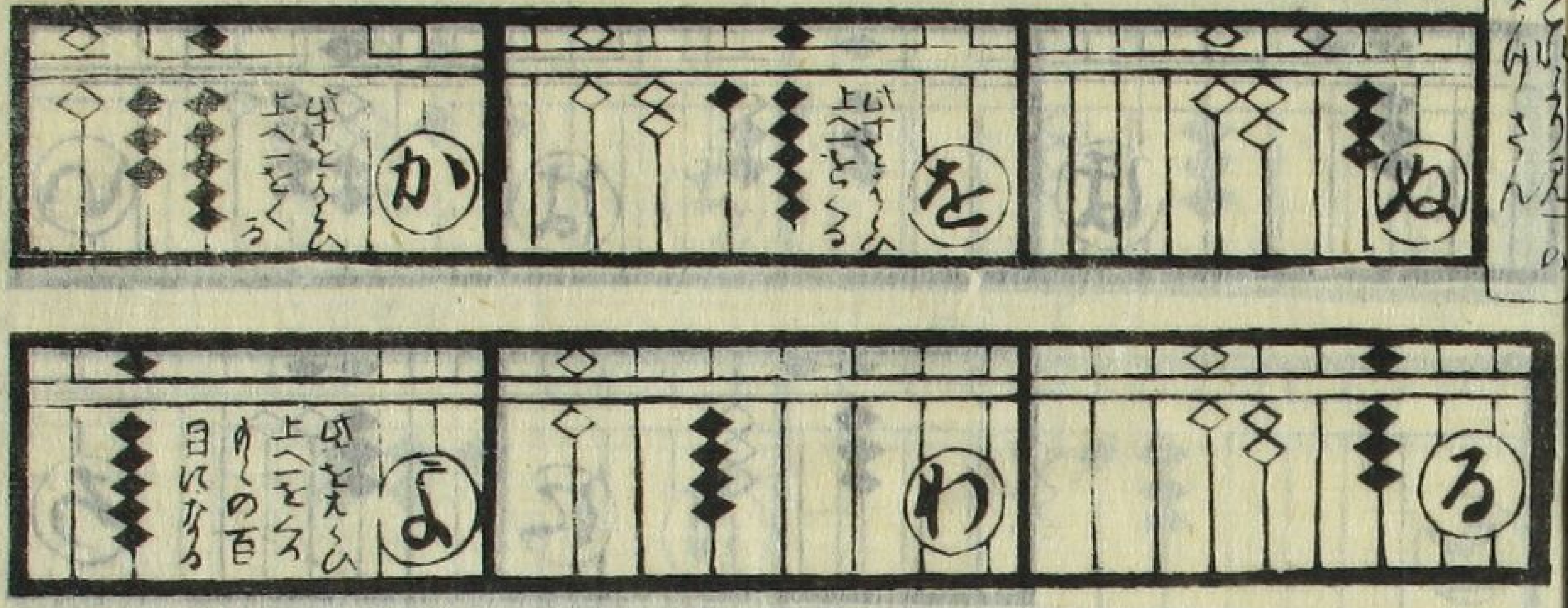
九六加下六 下へ六入る そのまゝにて ◯は のごとし

九三加下三 下へ三入る そのまゝとき ◯ろ のごとし

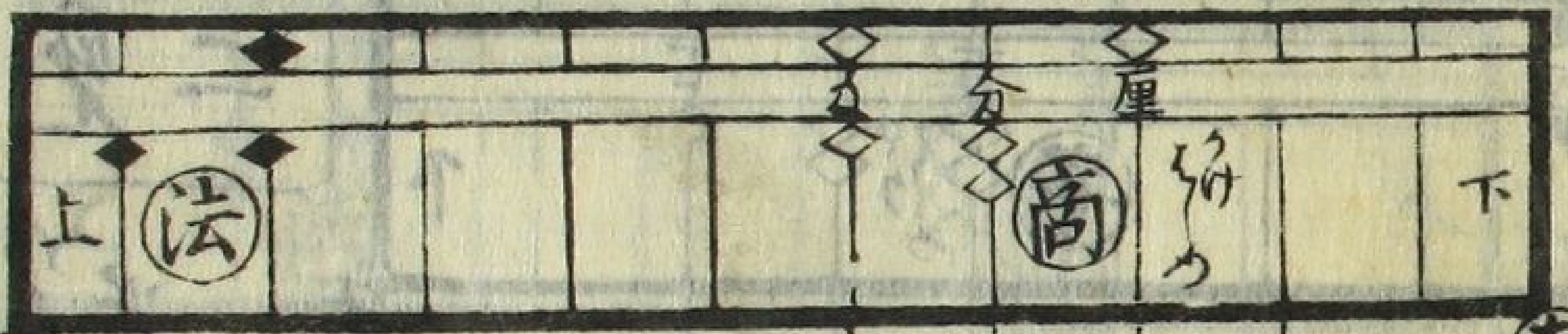
九一加下一 そのまゝさき下のへ一入る ◯い のごとし

そろりそろりの

ゑいちうのへかけさん



月かけ算



右十六にてかけるなり

六百二十六人 六百廿九(?) 是をうりのへくれ かけかけんに 当

くけそろりの

一 法の六を上の六と見合 六六三十 ◯ぬ のごとくなり

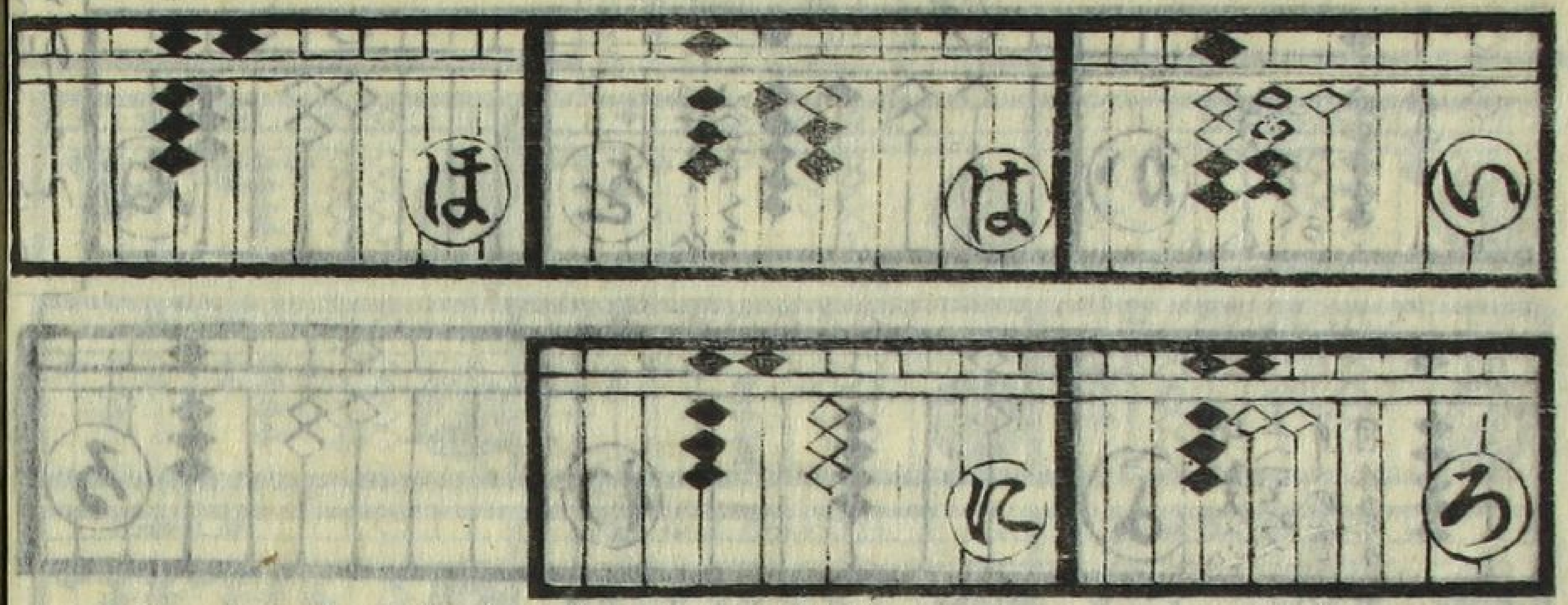
二 一八 八をとりて八を下の(一)へ入る ◯る のごとく

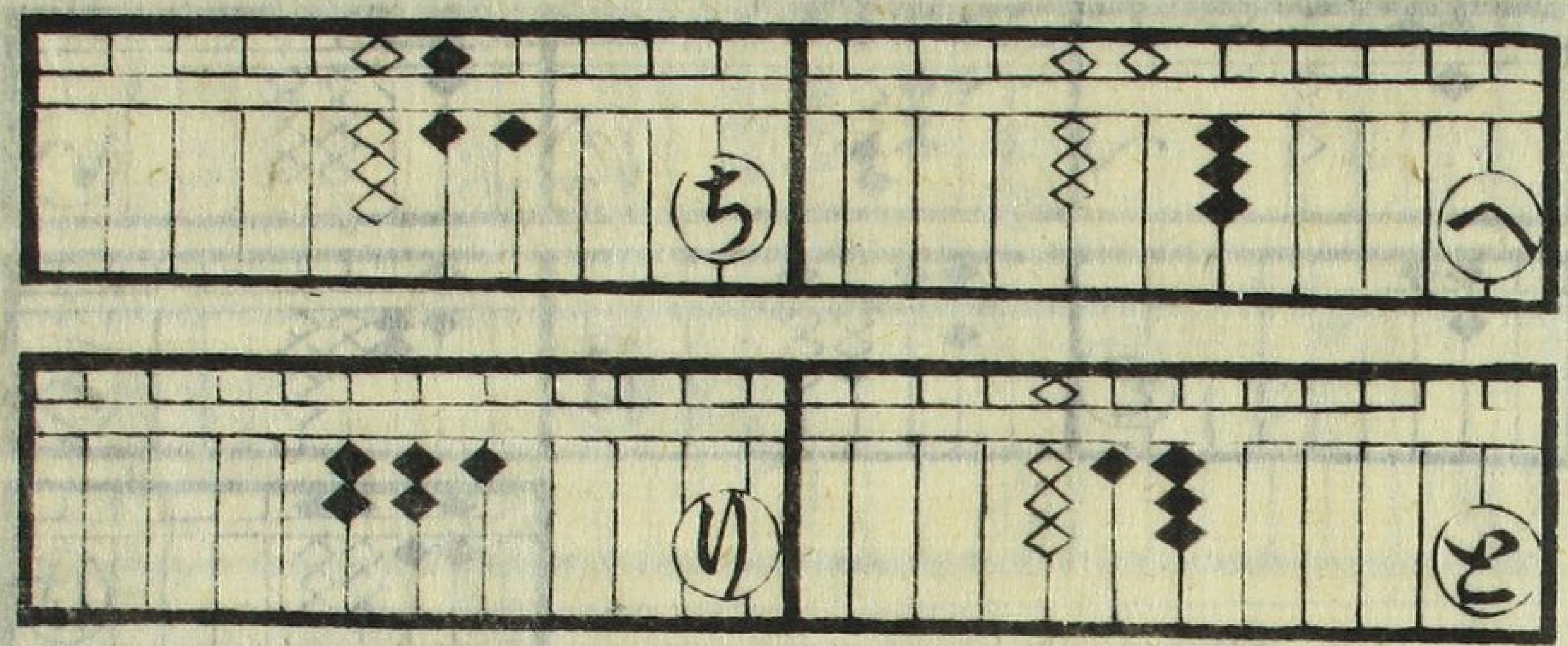
三 上の六と見合 二六十二 一にてかう下の ◯を のごとし

四 一二 二をとりて二を下のへ入る ◯わ のごとし

五 上の六と法の六と見合せて 六六三十六 ◯か のごとくなり

六 一六 六をとりて六を下のへ入る ◯よ のごとく 位一十につまるゆへこれをとる 上の(へ)一おくり 百目になる





見二

わりひく
米二百二十一石を
二十六石にうりすたるとし

答曰

又 六二十引とかいて実の六と法の六見合せ此けさ作く 二十一引て ほのことし

三 六八四十八引と見合此をさ作そ四十八引 下のをさ作そ八ひくすり はのことし 但し八ひけかかへ此をさくらう引たる

四 ねのこる二を法の二と見合てかそ二一天作入此一とうえのをとのえのつくとおろん にのことし

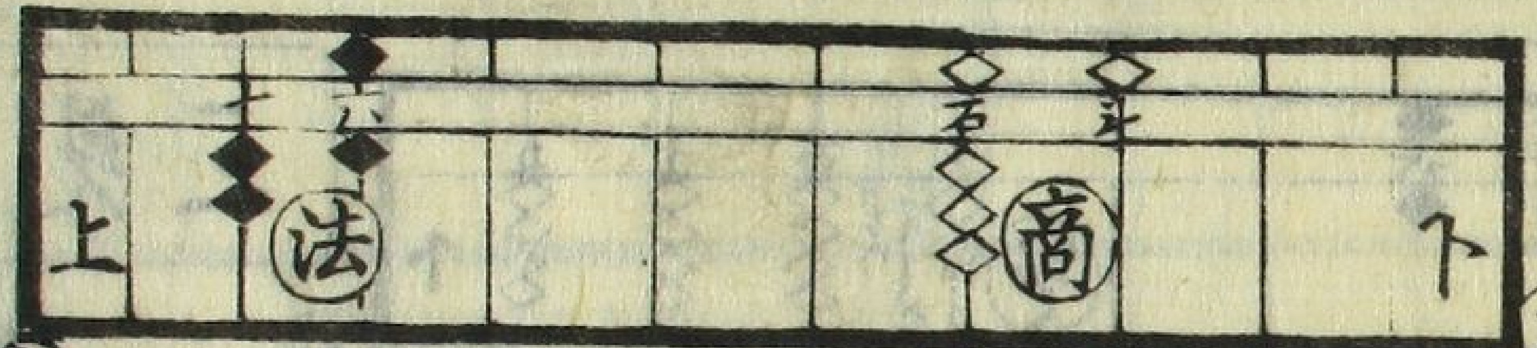
一 見二五十九二とかいて此二と九につくうのとし ねさ六の五と法の六と見合めひ 六九五十四ひくれぬ

二 逢一進一とかいて九の内一とりて下のをへ二をうつ ろのことし

はかけ算

右二十六にうれハ
八石五斗
答曰

くりさしめ



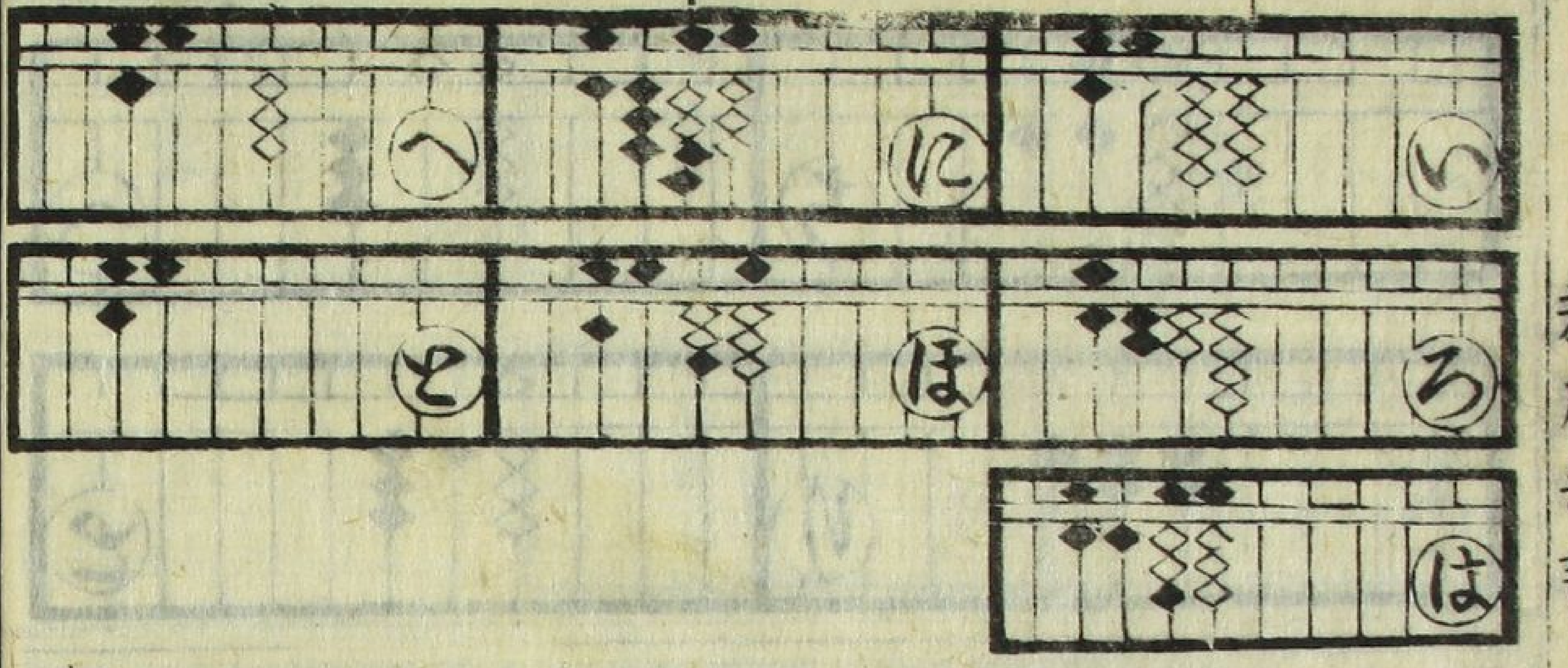
一 八六二十とかいて上のをさの八と法の六と見合ひて此をさへ三とをき へるすり へのことし 加る

二 二八十とかいて此をさの八と二につくる とのことし

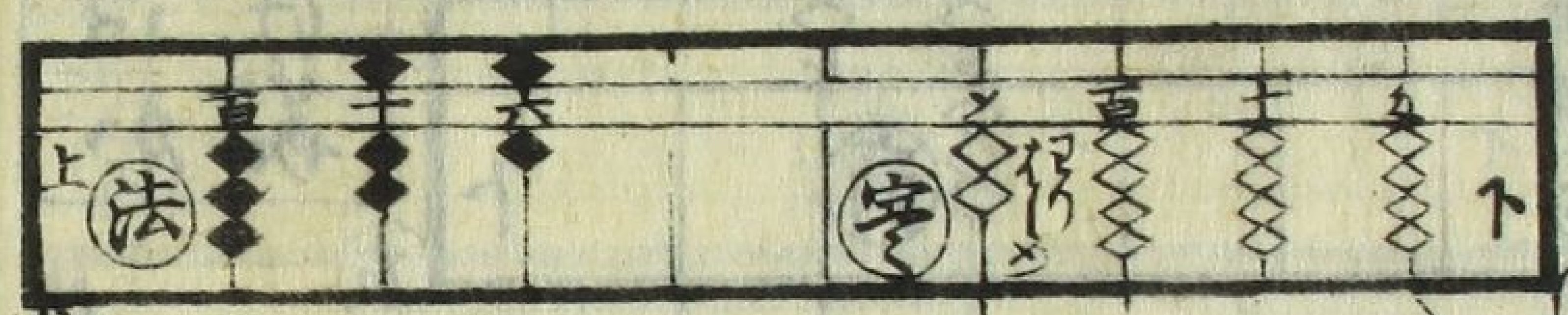
三 六八四十八とかいて上のをさの八と法の六と見合此をさへ八をとへる 四をそえ下のをさへ八をえ入る ちのことし

四 二八十六とかいて此けさの八と法の八と一につくり下のをさへ六をえくるすり 二とえんたをせよひてくるの りのことし 加る

圖の五〇八卅六ひけるとき上の四をさ
三十引て七十のこると
して一ヲ
次の
七〇へ
下の
六引て四の
のこると一
四下へ入る



見三



あらひハ

銀二〆四百四十四匁

二百七十六匁にてわり

おほゆ

七 八〇二十一とのぞき右の二をさめの八と左りの〇けかれの〇二十一引て見合とひて と のごとし

三 六〇八卅六一引とのぞき右の六と左りの六のいひく は に 下のゝとはて九の〇ち二ゝ とのぞき二ゝと は の 上のゝ六三十と合せて 三引

八 法の九とを 六〇二十

六 五七卅八一 へ のごとし

二 六七四十二引とのぞき右の七と左りの七 下のゝとはて四十引 ろ のごとし

四 三二卅一 法の三とを右の三と見合 に

一 法の三と合 三二六十二とのぞき法二を いのごとし

右二百七十六にてわれバ

六匁八分かつする

おほゆ

一 実の六と法の二と見合せ 八六二十とのぞき 二十とをく ち のごとし

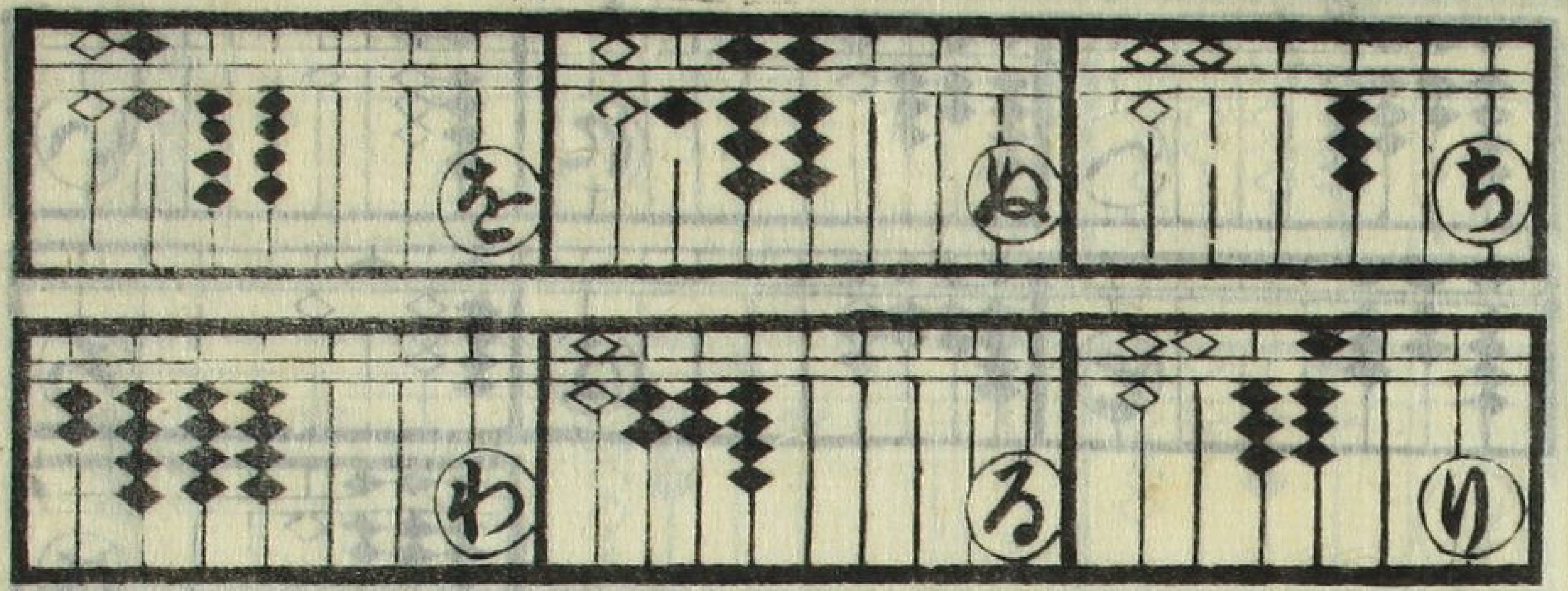
二 実の六と法の七と見合せ 八七卅八とのぞき りの

四 六六卅六とのぞき法の六と見合せて る のごとし

三 法の六と法の三と見合 二三六十八 ぬ の

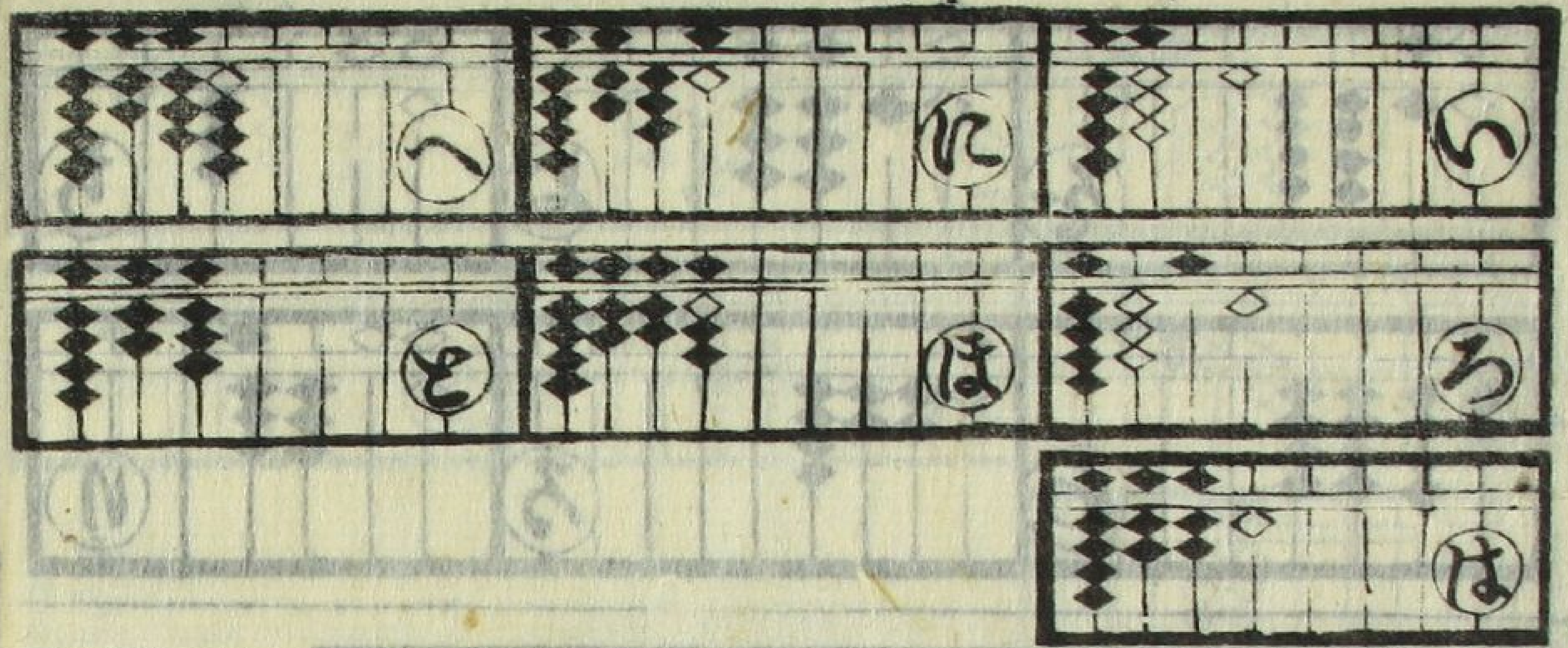
八 六七四十二とのぞき を のごとし

六 法の六と法の三と見合 二六十八とのぞき わ のごとし



日掛さん

四五卅五
これまへの
よくよくよう
ひきおろす



見四

あるひハ
米四千四百一石
四千八百石ニうるとき左のごとし

六
四四と二十とおいて此ぶんを四引（へ）のごとし
上のたまへ一くりこむなり

七
上のたまの八と左の八とを見合せて八八四十八引
とのこつ此けたのくら四ところひくなら（と）のごとし

四
八七卅八一とおいて左の七と左の八と見合せて二引
下のたまへ八をとくそへ二引なり（に）のごとし

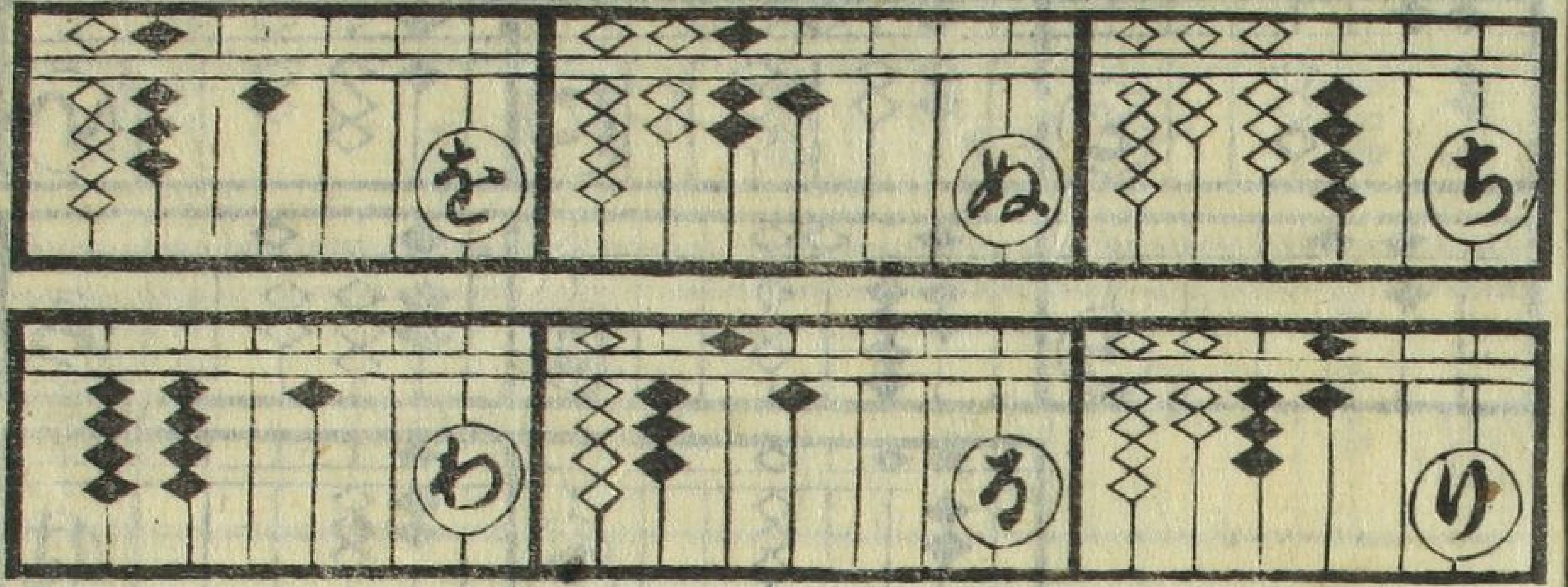
五
四三七十二とおいて三と七とをかける
の四と見合ほせ下のたまへ二くりこみなる（ほ）のごとし

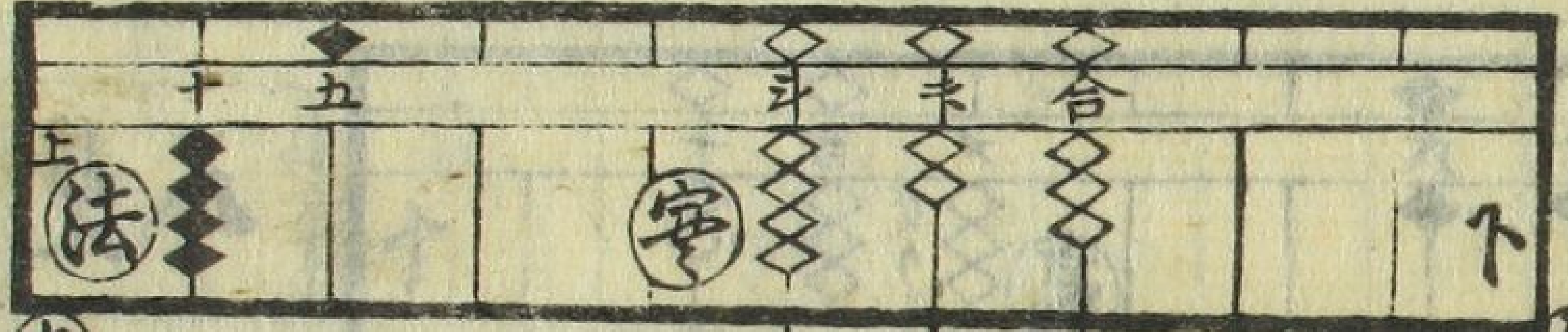
二
八九四十八とおいて左の九と左の八と見合せ八ひかれて四引
下のたまへ八引なり（ろ）のごとし

三
四三七十二とおいて此二と
七をかけて下のたまへ二くりこむなる（は）のごとし

一
見四二作九四とおいて此たまの四と
九にかけて下のたまへ四と
くるる（い）のごとし

おわり





月払さん

右四十八ニ払ハ
九斗七升八合ツつまり
くりこしのごとし

一
上の九の八と左の八と見合八四十八とおいて此まへ四とくる（ち）のごとし

二
此八と左の四と見合四八卅二とおいて八と三にこして下のたまへ二くりこむ（り）のごとし

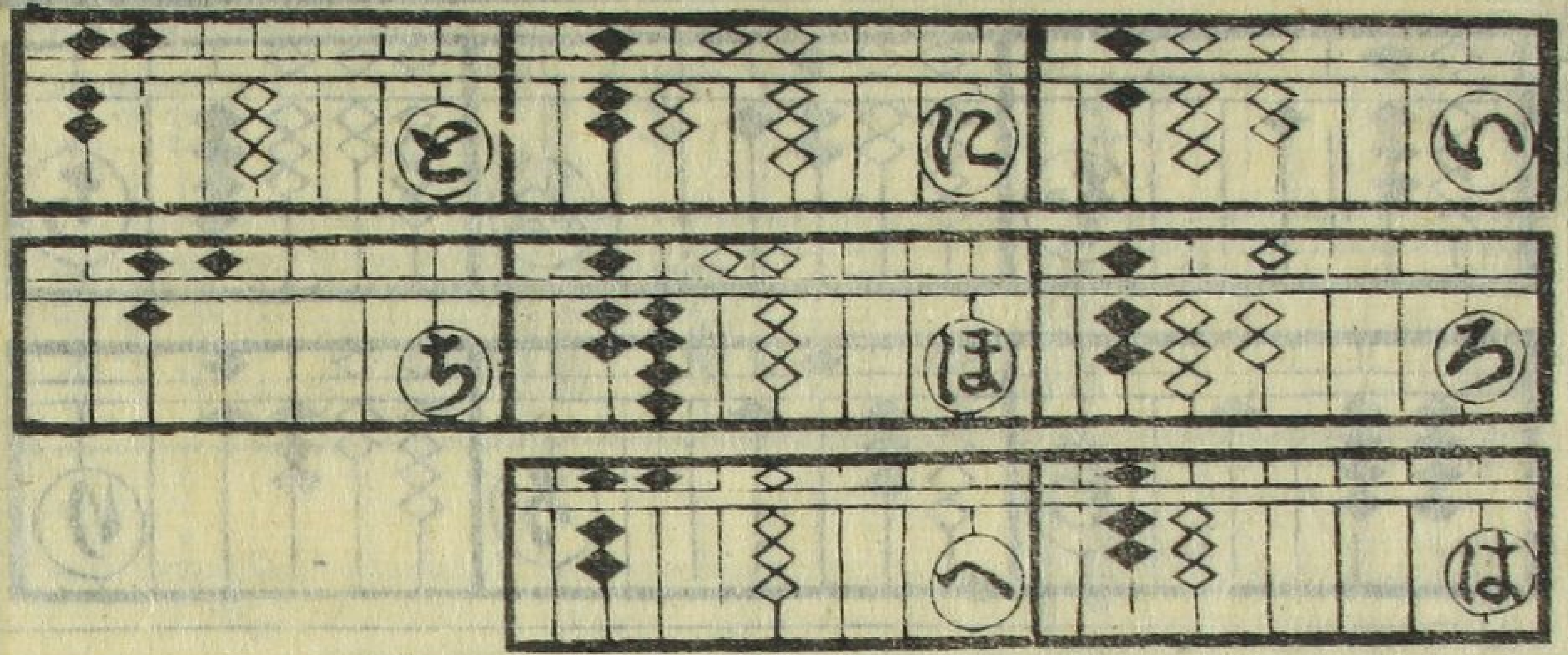
三
上のたまの七と左の八見合七八五十六とおいて此たまへ六くりこむ（ぬ）のごとし

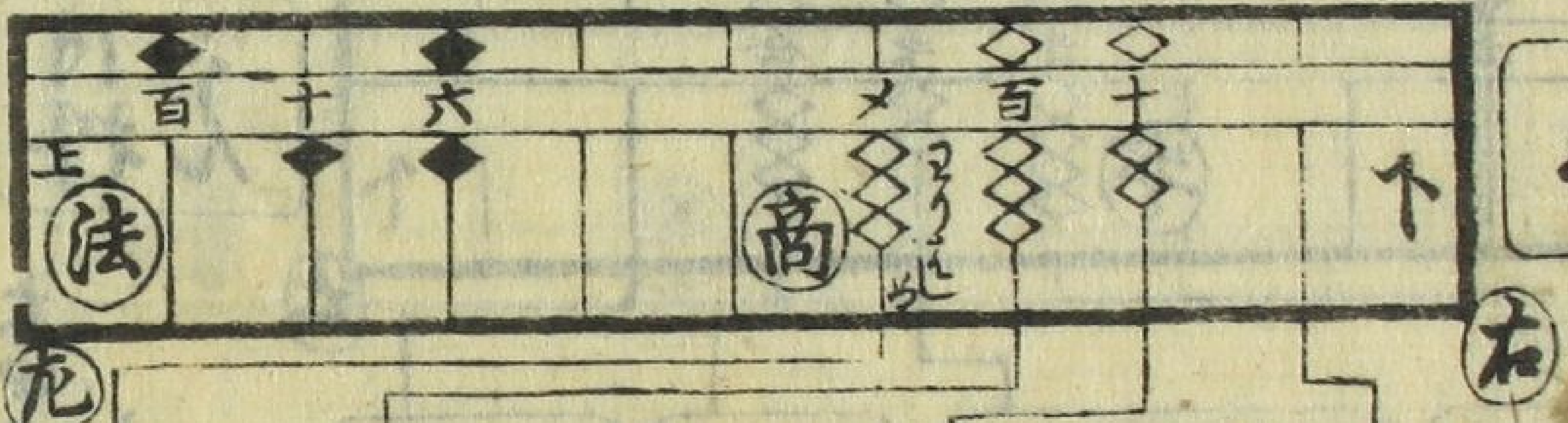
四
此七と左の四と見合四七廿八とおいて七と二にこして下のたまへ八くりこむ（る）のごとし

五
上のたまの九と左の八と見合八九七十二とおいて此たまへ四引下のたまへ八くるる（を）のごとし

六
此たまの九と左の四と見合せて四九三十六とおいて此九と三にこして下のたまへ六くりこむる（わ）のごとし

おわり





見一

ねうひハ
銀三〆八百七十匁
右十六まいにてうるの元のとし

右のわり

七 右の三〆とめの八と左の一と見合て 一八八ノ とのつてそこの八を八くにこへ入をひく ⓣのとし

八 右の三をさめの八と左の法の六と見合せ 八六廾ノ とのつて此をたの八のとこへ三をひくとなる ⓒのとし

三 一七七ノ とのつて法の二と右の下と見合 △ 此をさらて七ノとなる ⓗにの

四 右の七と左の六と見合 六七四十二ノ とのつて其の ひく下のをく二ノとなる ⓝにのし

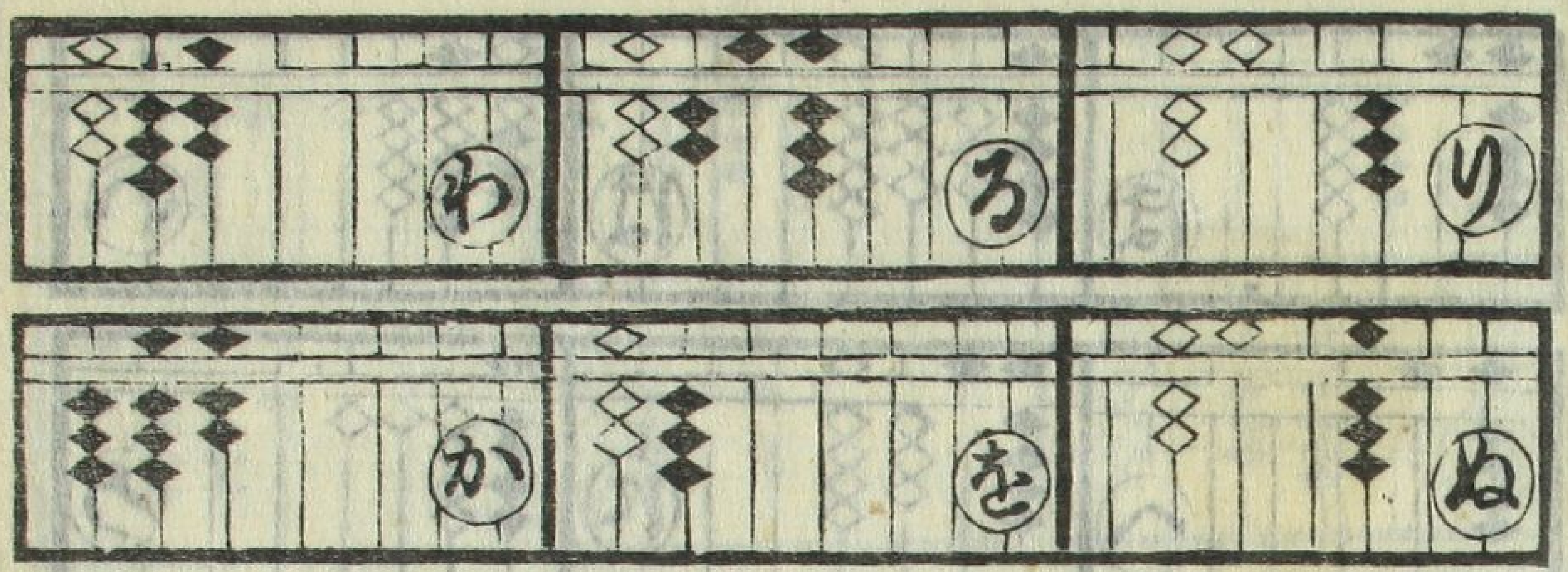
六 此をさへ八を法のあいてこるれ

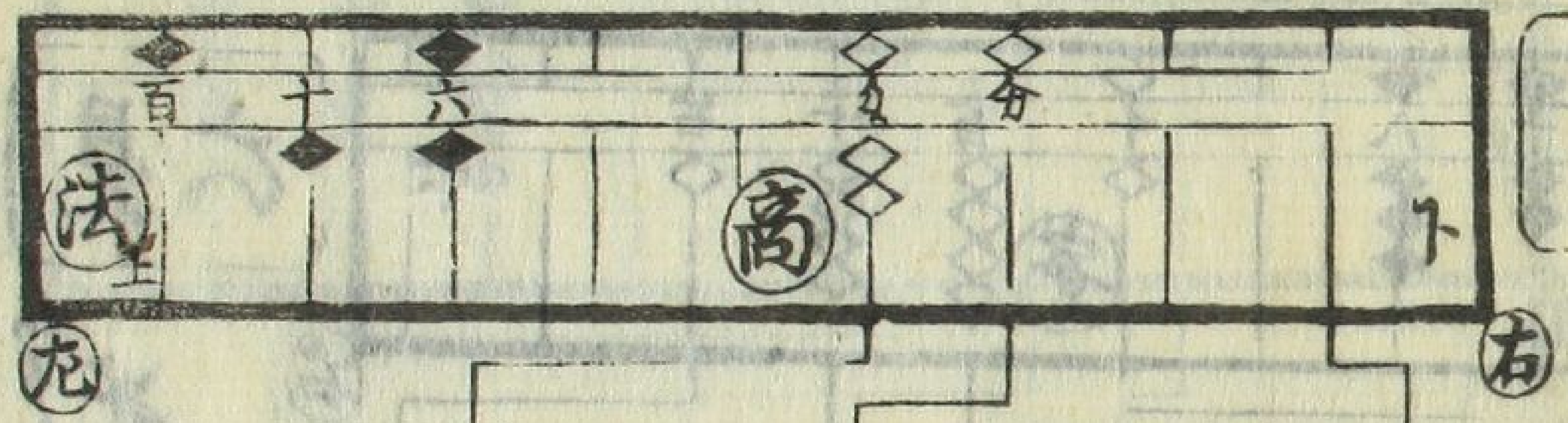
八と十 とのつて此をくのあを そえひ上のをくさくなる ⓗへのとし

二 八と干 とのつて此をくにて八をふひ 上のをくへ入くる ⓡにのとし

五 此をくの二と左の八と見わせ 八二如二ノ とのつて二を四につくる ⓗのとし

一 八二如二ノ とのつて此二を六につくる ⓘのとし





同
掛さん

右の百十六にかければ
七〆五分二りんとなる

右のわり

一 右の八と左の六と見わせ 八六四十八 とのつて此をくに三となる ⓡにの

二 右の八と左の一と見わせ 一八八 とのつて此をくへ入くる ⓝにの

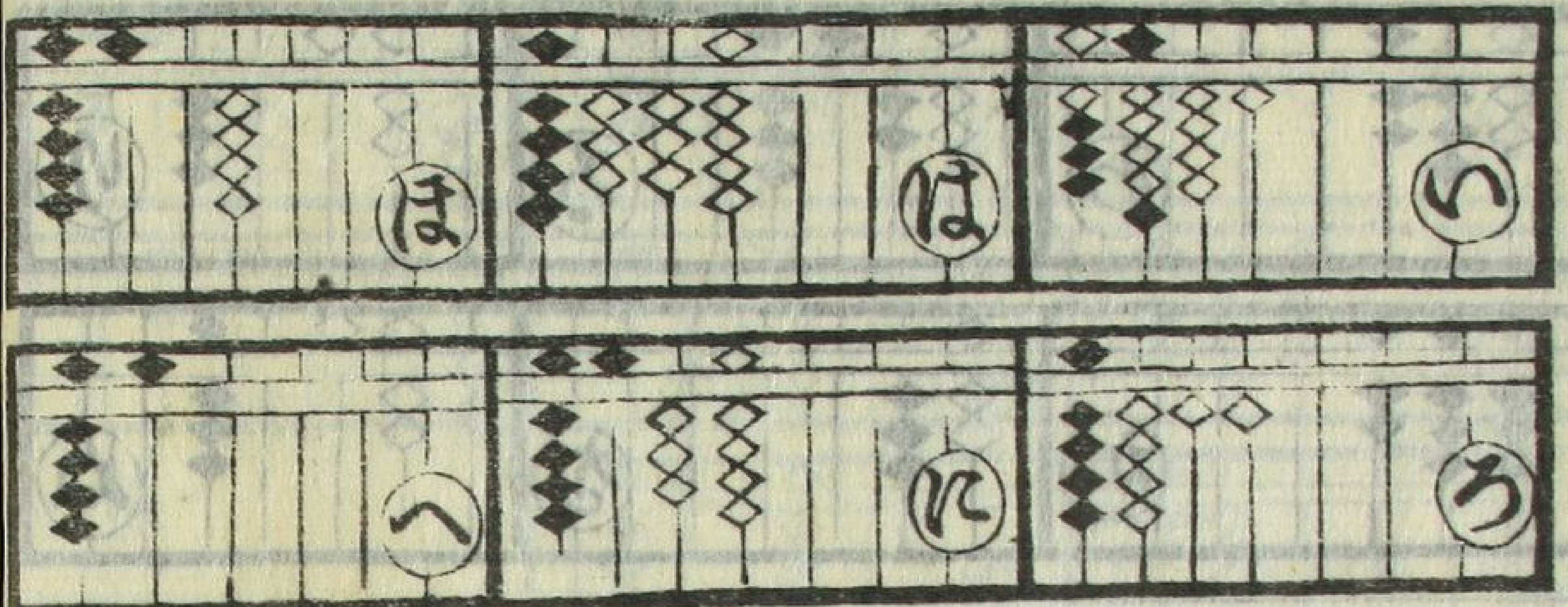
三 右の八と左の八と見合 八八六十四 とのつてそこの右くのそへ入くへ入くる ⓡのとし

四 此をくの七と左の六見合 六七四十二 とのつて右の七をとりて下へ 四をくめく二を三をくめ四を上へその下 二をくる △十につきると 上へ一をくる ⓞのとく なる

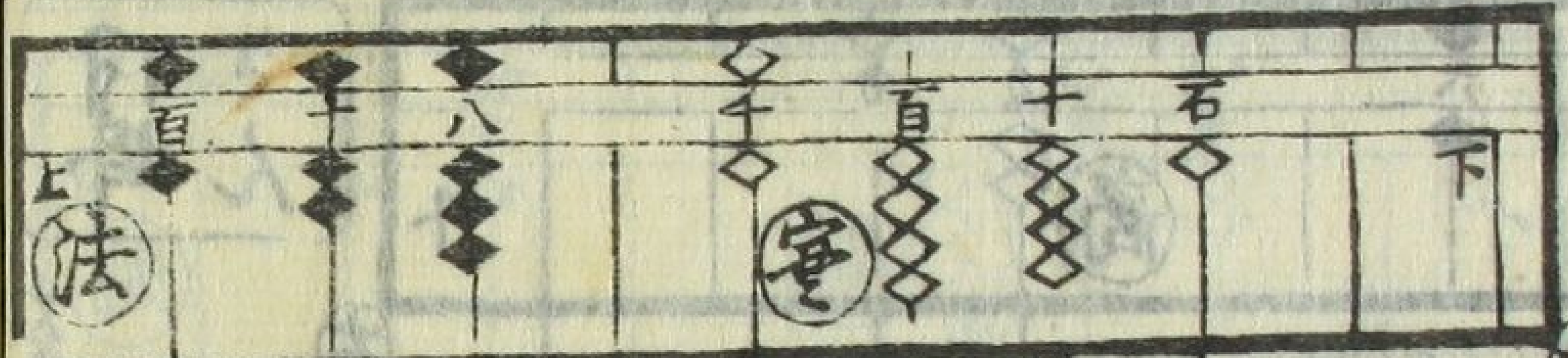
九 右の七と左の一と 見合 一七七 とのつて七をとり三をさて 下へ七をくるなり ⓦのとく なる

六 八七四十八 とのつて此七を三につきり 下のをく入をくるなる ⓚのとく なる

國の八九



見六



ならひ へ 米六千四百四十一石を六百七十八よろづの右のごとし

おくりの

六 六八四十引とつて右の六と左の八と見合このたくさの四十とひきさるふさん へ のごとくする

三 六九十二引とつて右の九と左の八と見合此たくさにて二引 七十引下のたくさにて三引すり は のごとし

五 六七二十六引 とり入て右の六と左の七と見合此たくさにて三十引下のたくさにて六ひく ほ のごとし

二 七五九十二引とつて右の九と左の七と見合此たくさにて六引下のたくさにて三引すり ろ のごとし

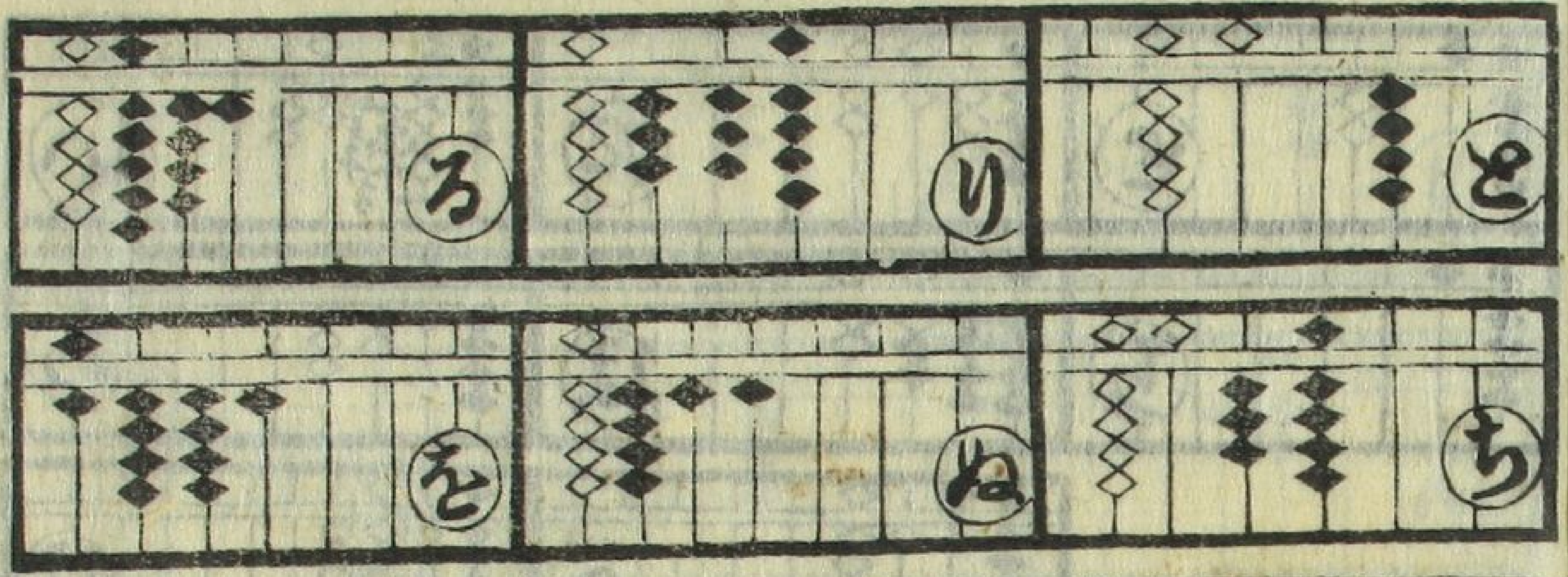
四 六三天地八とつて此たくさの三さみにつける に のごとし

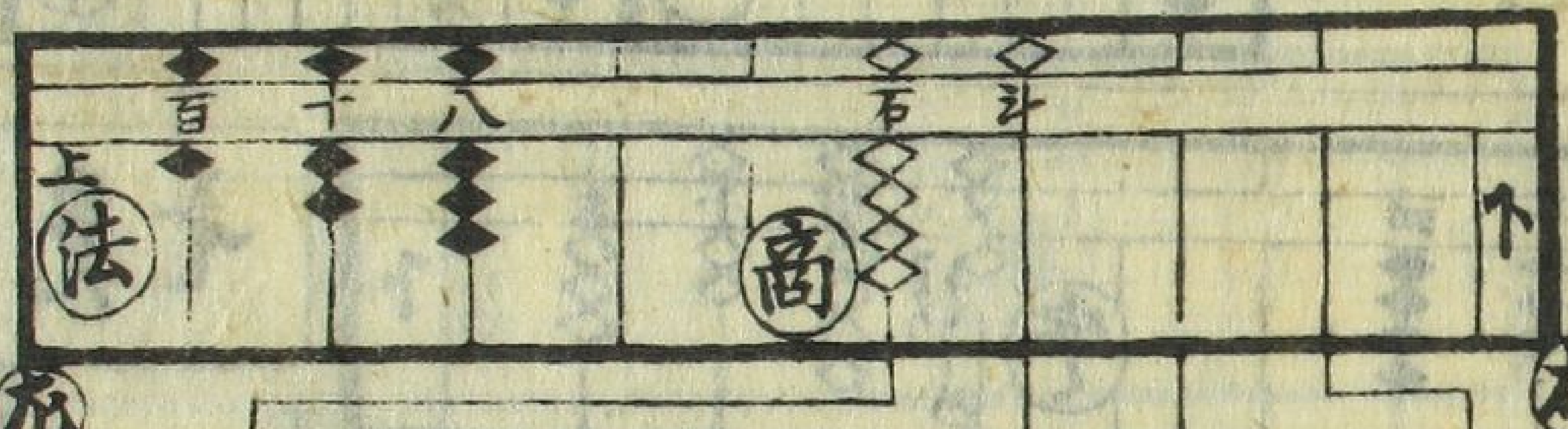
一 見六五天地九六とつて此六と九にて下のたくさへ六くはへる い のごとし

わりてんしめ

りん六

同引さん





六百七十八よりこれにて九石六斗つまり

おくりの

一 右の六と左の八と見合 六八四十とつて此四十の七をとる と のごとし

うけてさしめ

二 右の六と左の七と見合 六七四十二とつて此たくさへ三くはへ下のけたへへる ち のごとし

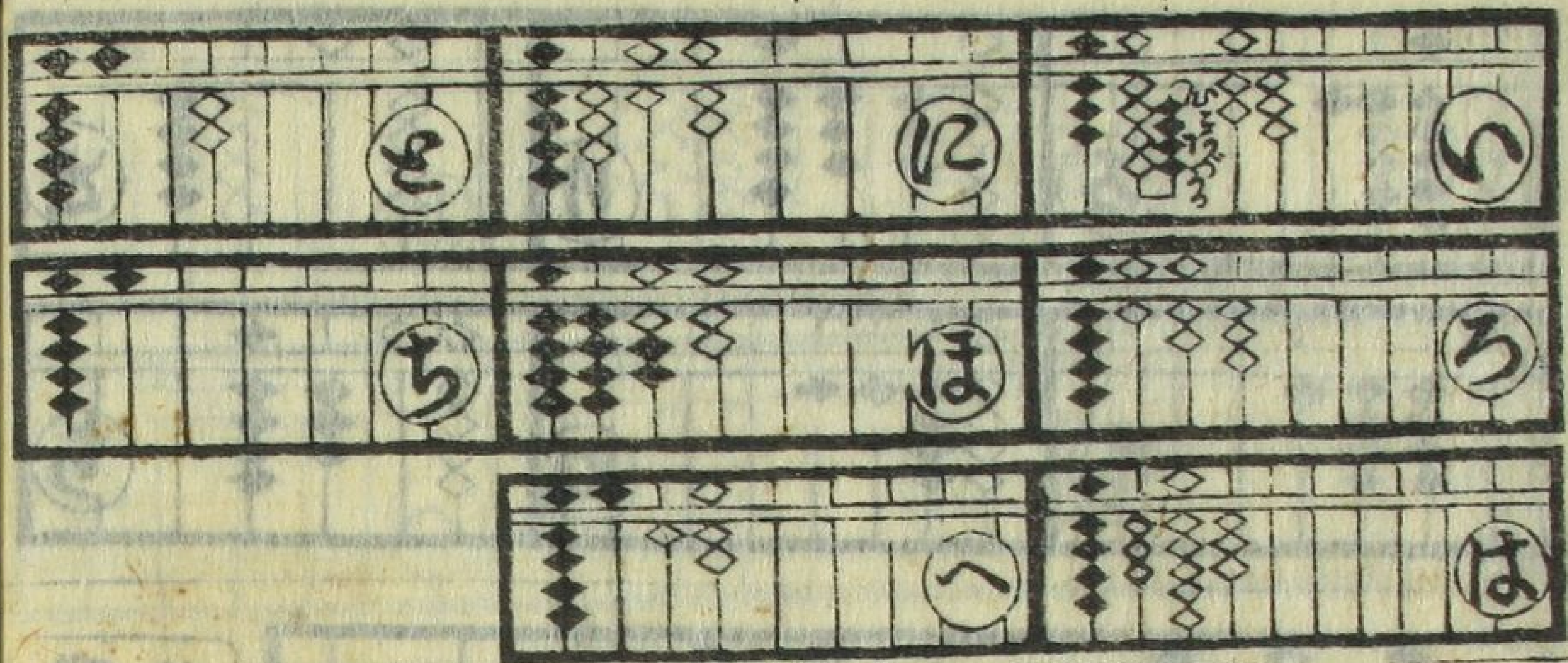
四 右の九と左の八と見合 八九七十二とつて此たくさへ七をくはへ二をひきる ぬ のごとし

三 此たくさの六と左の六と見合 六六三十六とつて三十六を三にへるにつける り のごとし

五 右の九と左の七と見合 七九六十三とつて此たくさへ六をくはへ下のたくさへ三をよせる る のごとし

六 此たくさの九と左の六と見合 六九五十四とつて九と四にへるつくり下のたくさへ四くはへる を のごとし

国の三九廿七ひくる回の四の三十六引もまへのごとく上より引おろすべく

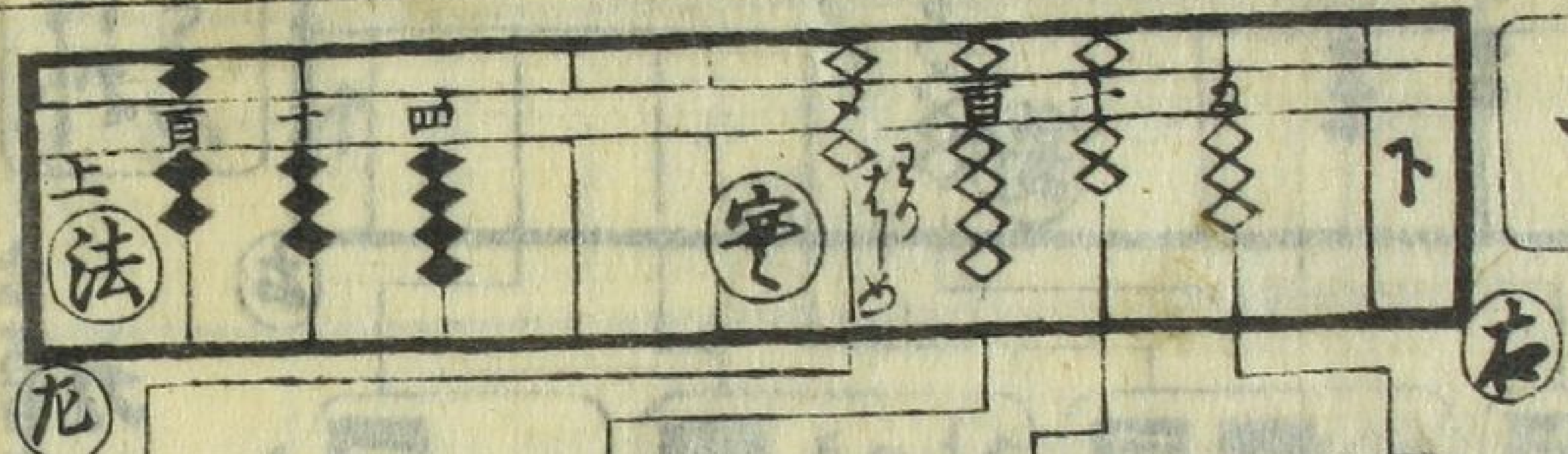


七見

あるひハ

銀六貫九百七十三匁を

七百三十四匁にかけるとき左のごとし



四 四九廿六引とのぞいて左の九と右の四と三引下げて六引 に のとこ

八 四八三十二引とのぞいて右の八と右の四八合ばんにて二引 ち のとこ

六 七と三十とのぞいてばんにて七をり上のばんへ一おくる へ のとこ

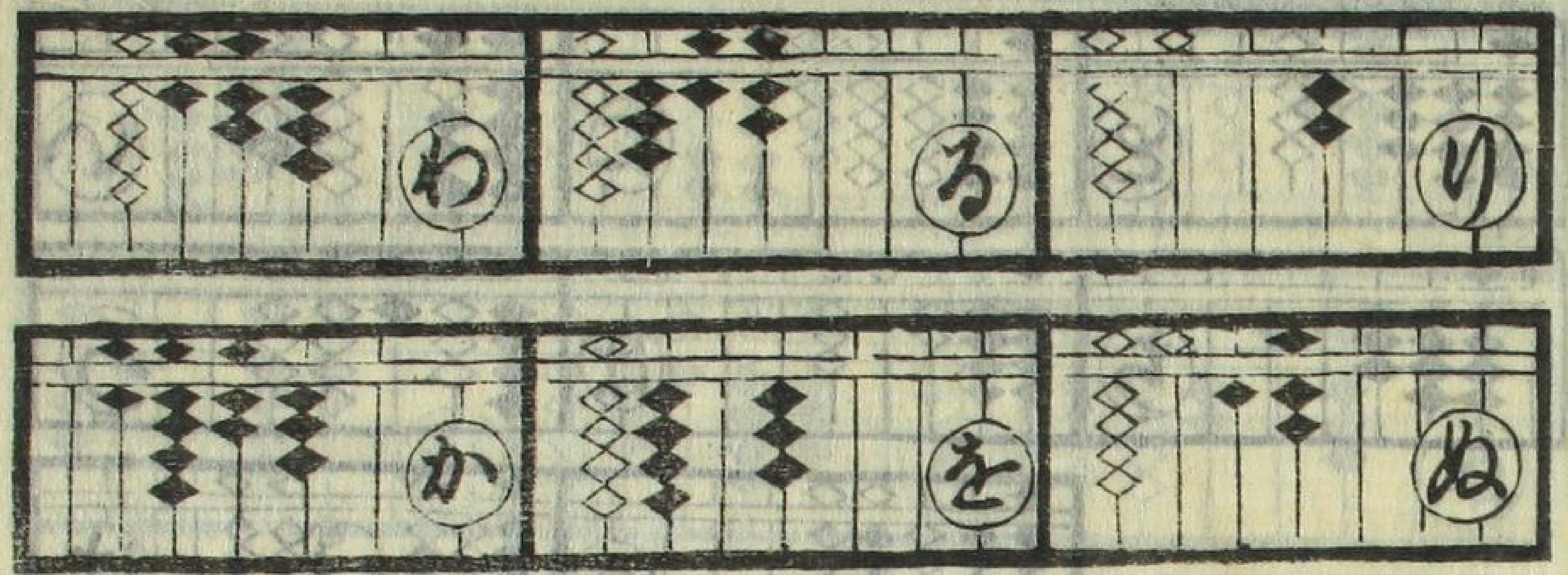
七 三八二十四引とのぞいてばんにて一引下にて八引 と のとこ

二 七と三十とのぞいてばんにて七をり上のばんへ一おくるなり ろ のとこ

三 三九廿七引とのぞいてばんにて三引下のばんにて七引 は のとこ

五 七三廿一二とのぞいて三と四につぐ下のばんへ二をくる ほ のとこ

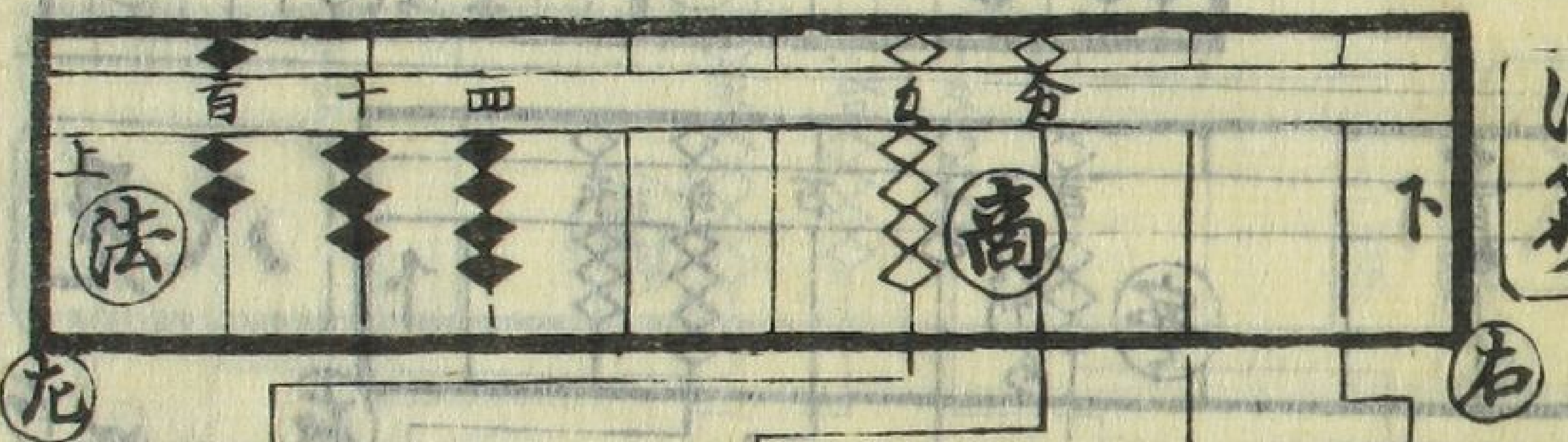
一 七六八十四下とのぞいて六と八につく下のばんへ四をくる い のとこ 但し四のあまると分りて七と二十とする



かけ算

六七百三十四にかけるとき

九匁八分三リ



一 四八三十二 とのぞいて八を二おく り のとこ

二 左の八と右の三と八合 三八二十四 とのぞいて下のばんへ ぬ のとこ

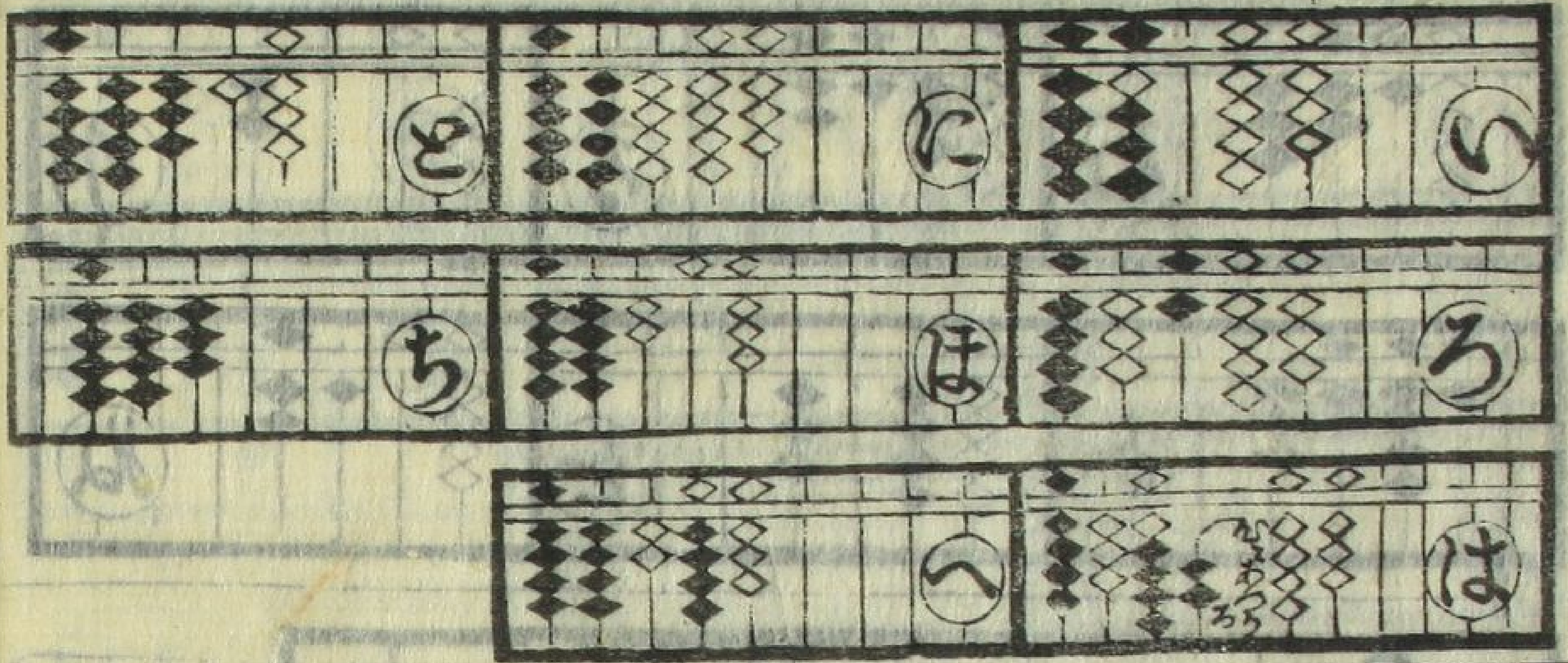
四 左の九と右の四と八合 四九三十六 とのぞいてばんへ三をくる を のとこ

三 ばんさの八と右の七と八合せ 八七五十六 下のばんへ入る ろ のとこ

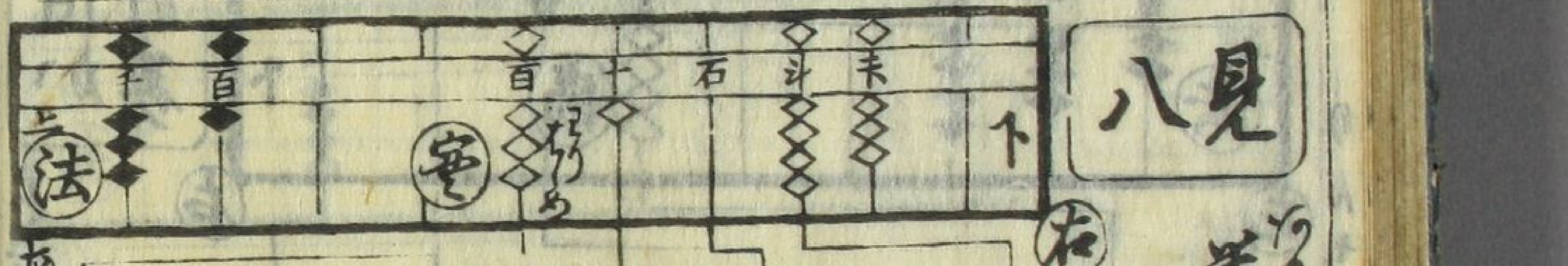
八 左の九と右の三と八合せ 三九廿七 下のばんへ七をくる わ のとこ

六 ばんさの九と右の七と八合せ 七九六十三 とのぞいて三をくる か のとこ

三の上六九五十四引かと上より引おろす
三の八三九十六八六二のうちぬき六六をひにゆうちそ
次の八合七十と二ツとりて八合七十とする



見八



米八百指石九斗八升を八斗六百にてわりたのこし

おわり

七 八合二十とりて左の四をとめの九の四のと にし

八 左の二十と左の六と見合て三十八と引 三斗十八引 ち のごとくする

四 每はちに二あまるゆへそのうち四のとし八とたて一ヘへらる 八合二十する

に のごとし

五 左の四と左の六と見合 四六廿四引とい云

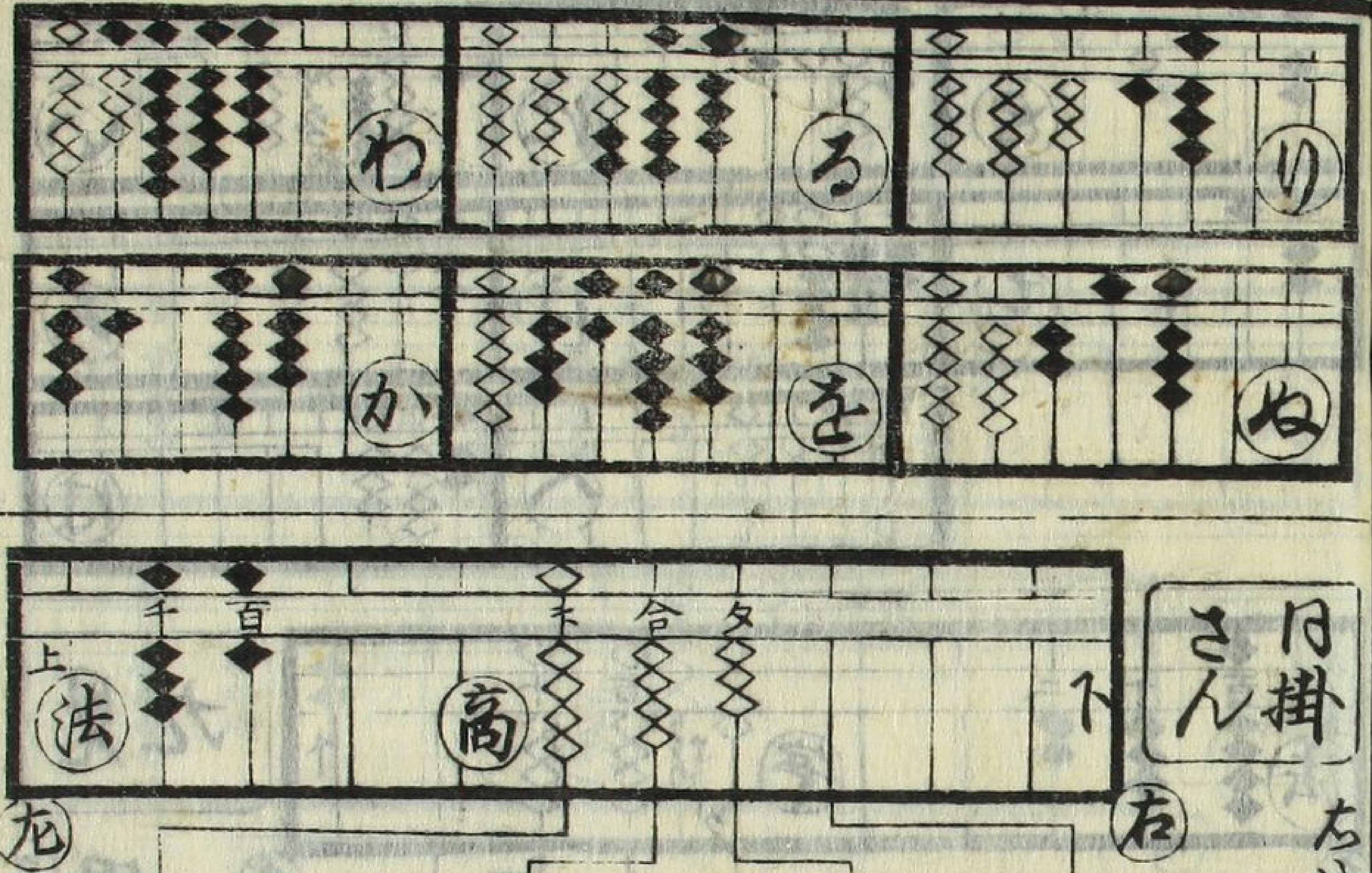
六 はちにてそ二のうちを左の八と見合て 八二か下四 下のたまへ四へる へ のごとし

二 六五十四引 見合はちにて左の九と左の六とを四引 ろ のごとし

三 はちにてろ三を左の八と見合て 八三か下六 下のたまへ六へる は のごとし

一 見八無加九八 かにつくる下のたまへ八へる い のごとし

月掛さん



右八斗六百にてわれば九斗四合三夕ツすり

おわり

一 はち上の二と左の六と見合 三六十八 下のたまへ八へる り のごとし

二 はちの三と左の八と見合 三八二十四 下へ四へる

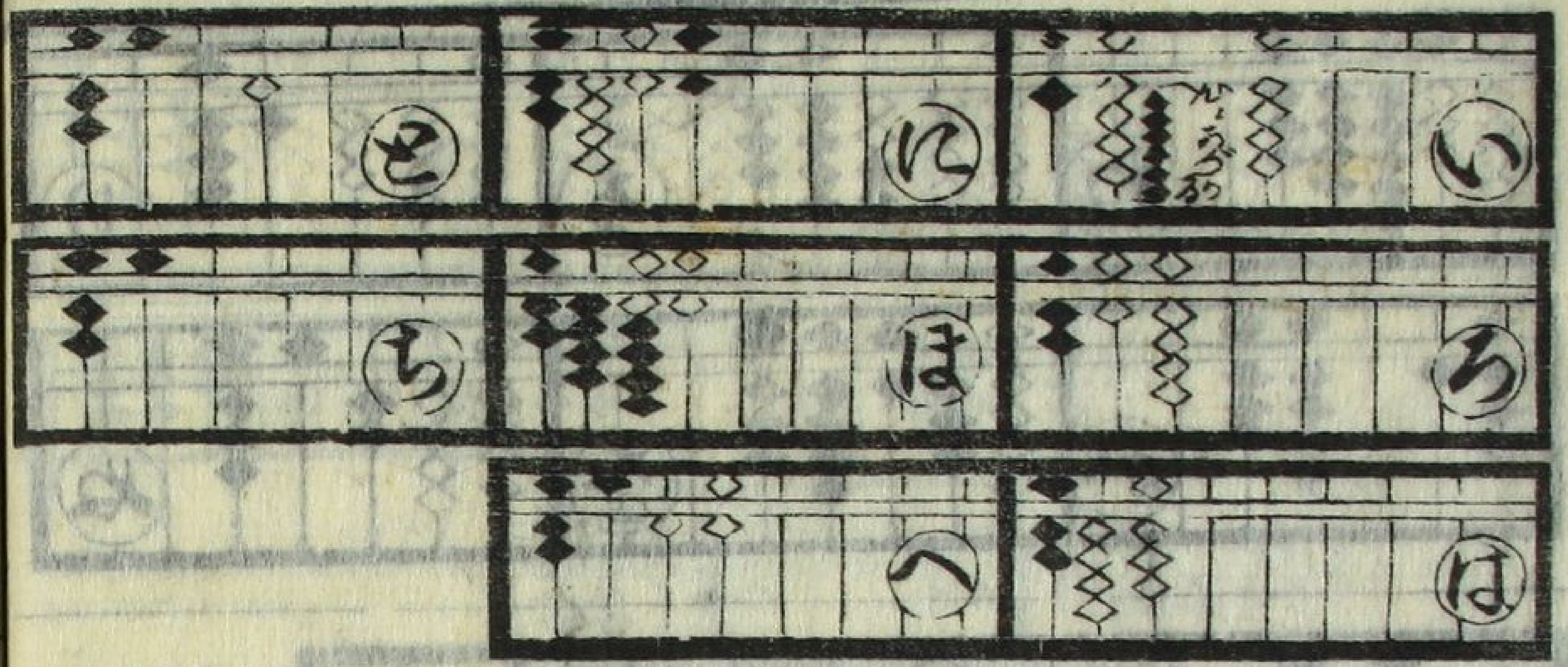
三 上のたまの四と左の六と見合 四六二十四 下のたまへ四へる ぬ のごとし

ろ のごとし

四 はちの四と左の八と見合 四八三十二 下のたまへ二へる を のごとし

五 上のたまの九と左の六と見合 六九五十四 下のたまへ四へる わ のごとし

六 はちの九と左の八と見合 八九七十二 下のたまへ二へる か のごとし



見九

根六〆九百九十目 九百三十二にて割れば何ほどに成るぞといふ

おはり

八 右の左の二と見合せ 二八十六 と払ひて此たびは ちのごとし

四 二七十四 と払ひて此たびの七と左の二 にのごとし

六 九と二十 と払ひて ほのごとし

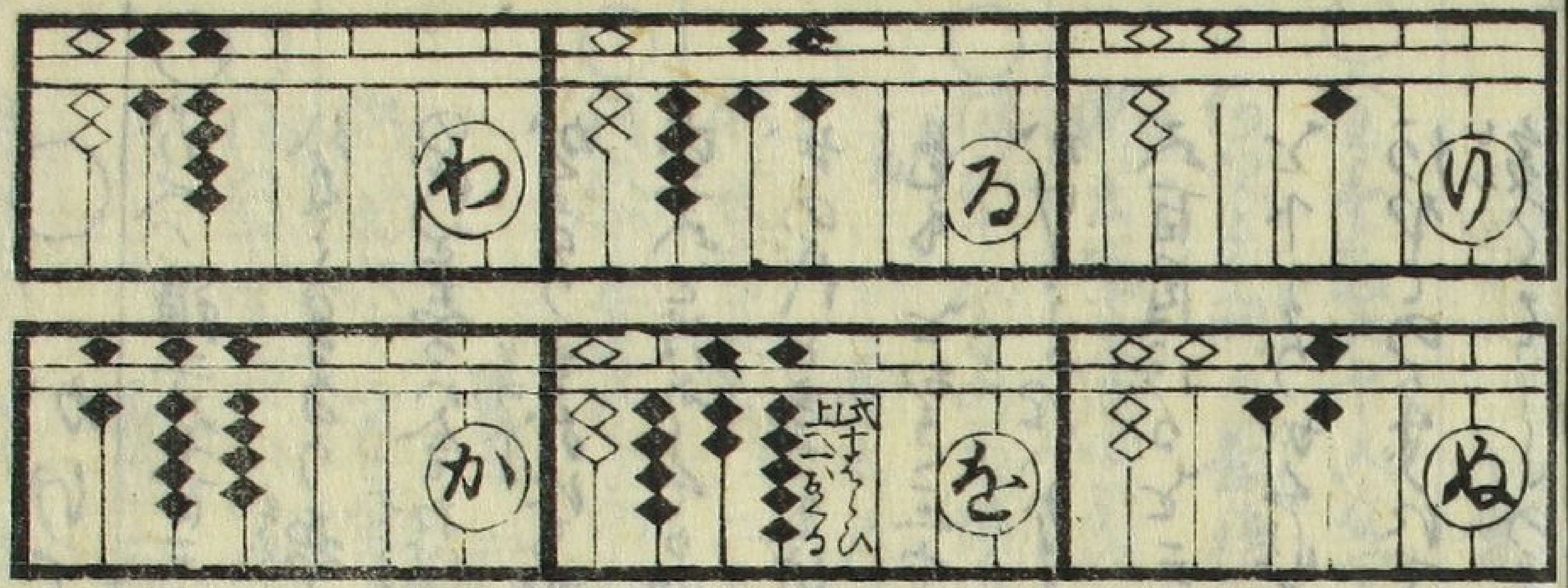
七 三八廿四 と払ひて へのごとし とのごとし

二 九と二十 と払ひて ろのごとし

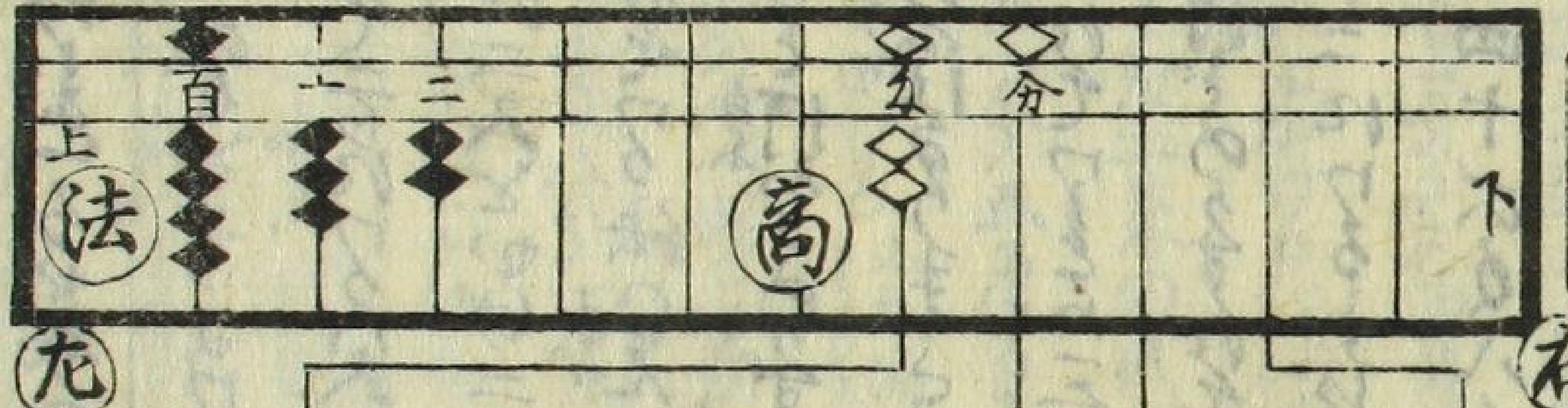
三 三七廿一 と払ひて はのごとし

八 九四 下四 ほのごとし

一 九六五十六 と払ひて いのごとし



見掛さん



右九百三十二にて割れば 七匁八分四厘

おはり

一 右の左の二と見合 二八十六 と払ひて りのごとし

二 右の八左の三と見合 三八廿四 と払ひて ぬのごとし

四 右の七左の二と見合 二七十四 と払ひて をのごとし

三 此たびの八と左の九と見合せ 八九七十二 るのごとし

八 右の七と左の三と見合せ 三七二十一 わのごとし

六 此たびの七と左の九と見合せ 七九六十三 と払ひて かのごとし

○かけてわる算の事

○たとへバ銀二〆七百三十六匁と云をわるにハ下より五とかける一〆三百六十八匁となるなり二にわるハ五とかけ四にわるハ二五とかける又金算用に一歩の代を知るハ金相場に二五とかけ二歩ハ五とかけ三歩ハ七五とかける同しかくなり其外にもかけてわる法ハ先一とおきこれを十六匁にわれハ六二五となる此六二五と法にかけてとけると何ほどのかずも十六匁にわるなり右の二朱一歩二歩三歩の代を知るも此道理なりまことのひハ三十二にわるをかけてわるにハ是も一とおき三十二にてわれハ三一二五となる此三一二五と法にしてかけるこれハなにほどのかずにても三十二にわるなりまた銀一〆五百目あるを三十二にわるこれも一〆五百目とおき右の三一二五と下よりかくれバ四十六匁八分七り五毛と知るべくなりたとひ何ほどのかずにてもわるべし何ほどなりと知れどもそろばんのけいさんず多くおこのわられぬ分ハかけ知るべし何ほどハ同しことと知るべし

○金算用

○金壱両に六十五匁四分の相場の時金一歩の代を何ほどと問
答云拾六匁三分五厘なり
術に云六十五匁四分に二五とかける 又相場を四のさんにてもよし

○同六十六匁のね場のとき二朱の代何ほどと問
答云 八匁二分五厘なり
術に云六十六匁に一二五とかける 又ね場を八のさんにても知るなり

○同六十三匁五分のね場の時一歩二朱の代何ほどと問
答云 弐十三匁八分一厘二五なり
術に云六十三匁五分に三七五とかける

○同六十四匁二分の時金二歩の代何ほどと問
答云三十二匁一分なり
術に云六十四匁二分に五とかける 又そうばを二のさんにても知るなり

壱歩の代を知るかけ之表
四
五二十
五五二十五
五六三十
二四八
二五十
二六十二

二朱の代を知るかけ之表
五六三十
一六六
二六十二
二六十二
五六三十
一六六

一歩二朱の代を知るかけ数
五五廿五
三五十五
三七廿一
五六三十
三六十八
五七三十五
三五十五
三三九
六七四十弐

二歩の代を知るかけ之表
二五十
五六三十
四五二十

○金ねだん六十四匁八分の時金一両三歩二朱の代なにほどと問　答云百二十一匁五分

術云先金一両の一を実におきさて次へ三歩の法七五と並おき又二朱の法一二五と置て都合一八七五となるこれへ右のねだん六四八と法にしてかけるなり

余もこの類これに准じて知るべし

○金ねだん五十八匁五分の時金五十三両二歩二朱の代何程と問　答云三〆百三十七匁〇六二五

術云先実に五十三と並べ次へ二歩の法五とおきさて又二朱の法一二五と置て都合五三六二五となるこれへ右のねだん五十八匁五分を法に並実へかける

○余右に准じて知るべし

くけ之忽

五八四十	五六三十	四七二十八	八八六十四	六八四十八	一四　四
四五二十	七八五十六	六七四十二	四八三十二	一八　八	一六　六

くけ之家

五五廿五	五五廿五	二八十六	五六三十	五六三十	三八廿四	五五廿五	五五廿五
五八四十	二五十	二五十	六八四十八	三五十五	三五十五	五八四十	

○金にてねだんを知る仕かけはたとへばねだん六十四匁なるに一匁まし六十五匁とみて考ふ

○同五分仕かけはねだん五分まして考ふなり　○金一両仕かけなりたとへば六十三匁のねだんなるとき金九六か下六へ九をかけ二十として七十匁と定る七十匁金とみてつかふなり又二両仕かけはねだんと八匁にてみるなり又一両より仕かけは八匁にてみるなり半仕かけは七匁にてみるなり又一両よりの

この損益のところはくはしく知るにあるべし

○金一両の一を並これを二にかけこれは五となるこれを二歩の法とするこれを二にかけ置てこれは二五となるこれと一歩の法とする又同一を八にてこれは一二五となるこれを二朱の法とするなり

○たとへば損益味合にて五十目にてうるの先のねだんをしれ金一両仕かけにしてたとへを知る五十目をかけてうるにはいかほどかかけてうりてよきぞといふときはまづ金ねだん六十五匁なるは一匁をまへて六十六匁として、これを法にして右のねだん六十五匁を並これは九八四余となる是九八四を法にし五十の五十目をとりてこれで五十目にかけるなり損益にしてもねだん五十目にてうるなり仕かけ一匁五分ましの仕かけるときはねだんに一匁五分ましになるなり

○金一両代六十八匁二分のとき銭相場九匁五分にて此百両の銭多少ありやと問

答云　七〆二百四十二文

術に云金相場六十八匁二分を銭九匁四分にて割ば七〆二百四十五文となる此百文を九六にかけて七〆二百四十二文余あり

○金壱歩に代十六匁五分とのとき銭相場九匁五分の時に何ほどと問

答云　壱〆八百十二文六余

術に云先に十六匁五分を銭九匁一分にて割ば壱〆八百十三文一七となる此百より内の十三文余とのける二〆八百十二文六余となる也

又百文より内の九六とし百文は四十文也四ツ目と引ても同じ事なり是ハ何にてもよし算用之事なり

ことハ九六とうけるがよし

九にそろばんこ来　九六かけ六　九二かけ二　九さん一十　九四かけ四

九六とうけるこ来　四六二十四　四六二十四　四九三十六　四九三十六

九一のそろばんこ来　九一かけ一　九七かけ七　一八八引　一壱一引　九さん一十　一一壱引　九さん一十　九一かけ一　九二かけ二　一三三引

九六のうけこ来　六七四十二　七九六十三　一六六　一九九　三六十八　三九二十七　一六六　一九九

○金四十八両 銭相場六十四匁 銭相場九匁二分にして此銭多少と問

答云　三百三十三〆九百十三文四八

術に云先に四十八両に相場六十四匁をかければ此代三千七十二匁となる此を銭相場九匁二分にて割ば三百三十三〆九百十三文○四八となる此百文より内十三文をのける三百三十三〆九百十二文四八となる

○金小判十八両三歩二朱一朱を二両付六十四匁にて銀何程と問

答云　九百六十三匁三分三厘七毛八

術に云先に十八両三歩二朱一朱を四に掛る又二朱の下を四ニ割る又二歩の下を四ニ割る十八両九分と成是に六十四匁をかけて九百六十三匁三分三厘七毛八となる

此一朱を以て二両と四ニ割る一歩を二両と一歩との一朱を又四ニ割ると一朱と成る又一両を以て金一両を二朱と成る

六十四匁にて一朱と成る 十六匁にして一朱なり

六十四匁のうけこ来　四八三十二　四四十六　六八四十八　四六二十四

九五二分そろばんこ来　九三かけ三　九三かけ三　九三かけ三　九八かけ八　二九十八引　一二二引　九さん一上　二三六引　二三六引　二三六引　九さん一十　九一かけ一　九二かけ二　二三六引

九六のうけこ来　三六十八　一六六　三九二十七　一九九

一条のそろばんこ来　四一二十二　四二天作五　一二朱下そろばんこ来　四二天作五　四さん一十　四二天作五　一二十二　三ア下そろばんこ来　四二天作五　四さん一十　四三七十二　四さん一十　四三七十二　四さん一十　四二天作五　四二天作五　四一二十二

六十目のうけこ来　八六二十　八六六十四　六六三十六　六九五十四　一六八四十八　八六三十　一六六

○金相場五十八匁の時一歩の代なにほどぞ
答云 十四匁五分
術云 五十八匁を四のだんにてわる
○同相場にて弐朱の代何ほどぞ
答云 七匁二分五りん
術云 五十八匁を八のぶんにてわる

一歩のわりこゑ	四之一十　四一二十二 八之二十　四二天作五
二朱のわりこゑ	八之六十二　八之一十 八二加下四　八四天作五

金相場五十八匁五分
一歩ハ 十四匁六分二りん五
弐朱 七匁三分一りん二五

同二分の時ハ
一歩 十四匁五分五りん
二朱 七匁二分七りん五

同三分 ア十四匁五ト七りん五 朱七匁二ト八りん七五
同四分 ア十四匁六ト 朱七匁三ト
同五分 ア十四匁六ト二りん五 朱七匁三ト一りん二五
同六分 ア十四匁六ト五りん 朱七匁三ト二りん五
同七分 ア十四匁六ト七りん五 朱七匁三ト三りん七五
同八分 ア十四匁七ト 朱七匁三ト五りん
同九分 ア十四匁七ト二りん五 朱七匁三ト六りん二五
五十九匁 ア十四匁七ト五りん 朱七匁三ト七りん五
同一分 ア十四匁七ト七りん五 朱七匁三ト八りん七五
同二分 ア十四匁八ト 朱七匁四
同三分 ア十四匁八ト二りん五 朱七匁四ト一りん二五
同四分 ア十四匁八ト五りん 朱七匁四ト二りん五
同五分 ア十四匁八ト七りん五 朱七匁四ト三りん七五
同六分 ア十四匁九ト 朱七匁四ト五りん
同七分 ア十四匁九ト二りん五 朱七匁四ト六りん二五
同八分 ア十四匁九ト五りん 朱七匁四ト七りん五
同九分 ア十四匁九ト七りん五 朱七匁四ト八りん七五
六十匁 ア十五匁 朱七匁五ト
同一分 ア十五匁〇二りん五 朱七匁五ト一りん二五
同二分 ア十五匁〇五りん 朱七匁五ト二りん五
同三分 ア十五匁〇七りん五 朱七匁五ト三りん七五
同四分 ア十五匁一ト 朱七匁五ト五りん
同五分 ア十五匁一ト二りん五 朱七匁五ト六りん二五
同六分 ア十五匁一ト五りん 朱七匁五ト七りん五
同七分 ア十五匁一ト七りん五 朱七匁五ト八りん七五
同八分 ア十五匁二ト 朱七匁六ト
同九分 ア十五匁二ト二りん五 朱七匁六ト一りん二五
六十一匁 ア十五匁二ト五りん 朱七匁六ト二りん五
同一分 ア十五匁二ト七りん五 朱七匁六ト三りん七五
同二分 ア十五匁三ト 朱七匁六ト五りん
同三分 ア十五匁三ト二りん五 朱七匁六ト六りん二五
同四分 ア十五匁三ト五りん 朱七匁六ト七りん五
同五分 ア十五匁三ト七りん五 朱七匁六ト八りん七五
同六分 ア十五匁四ト 朱七匁七ト
同七分 ア十五匁四ト二りん五 朱七匁七ト一りん二五
同八分 ア十五匁四ト五りん 朱七匁七ト二りん五
同九分 ア十五匁四ト七りん五 朱七匁七ト三りん七五
六十二匁 ア十五匁五ト 朱七匁七ト五りん
同一分 ア十五匁五ト二りん五 朱七匁七ト六りん二五
同二分 ア十五匁五ト五りん 朱七匁七ト七りん五
同三分 ア十五匁五ト七りん五 朱七匁七ト八りん七五
同四分 ア十五匁六ト 朱七匁八ト
同五分 ア十五匁六ト二りん五 朱七匁八ト一りん二五
同六分 ア十五匁六ト五りん 朱七匁八ト二りん五
同七分 ア十五匁六ト七りん五 朱七匁八ト三りん七五
同八分 ア十五匁七ト 朱七匁八ト五りん
同九分 ア十五匁七ト二りん五 朱七匁八ト六りん二五
六十三匁 ア十五匁七ト五りん 朱七匁八ト七りん五
同一分 ア十五匁七ト七りん五 朱七匁八ト八りん七五
同二分 ア十五匁八ト 朱七匁九ト
同三分 ア十五匁八ト二りん五 朱七匁九ト一りん二五
同四分 ア十五匁八ト五りん 朱七匁九ト二りん五
同五分 ア十五匁八ト七りん五 朱七匁九ト三りん七五
同六分 ア十五匁九ト 朱七匁九ト五りん

六十七匁	同七分	同四分	同六一分	同八分	同五分	同二分	同九分	同六分	同三分	六十四匁	同七分
ア十六匁七卜五	ア十六匁六卜七五	ア十六匁六卜	ア十六匁五卜二五	ア十六匁四卜五	ア十六匁三卜七五	ア十六匁三卜	ア十六匁二卜二五	ア十六匁一卜五	ア十六匁〇七五	ア十六匁	ア十五匁九卜二五
朱八匁三卜七五	朱八匁三卜三七五	朱八匁三卜	朱八匁二卜六二五	朱八匁二卜二五	朱八匁一卜八七五	朱八匁一卜五	朱八匁一卜一二五	朱八匁〇七五	朱八匁〇三七五	朱八匁	朱七匁九卜六二五

同七一分	同八分	同五分	同二分	同九分	同六分	同三分	六十五匁	同七分	同四分	同四一分	同八分
ア十六匁七卜七五	ア十六匁七卜	ア十六匁六卜二五	ア十六匁五卜五	ア十六匁四卜七五	ア十六匁四卜	ア十六匁三卜二五	ア十六匁二卜五	ア十六匁一卜七五	ア十六匁一卜	ア十六匁〇二五	ア十五匁九卜五
朱八匁三卜八七五	朱八匁三卜五	朱八匁三卜一二五	朱八匁二卜七五	朱八匁二卜三七五	朱八匁二卜	朱八匁一卜六二五	朱八匁一卜二五	朱八匁〇八七五	朱八匁〇五	朱八匁〇一二五	朱七匁九卜七五

六十七匁二分	同九分	同六分	同三分	六十六匁	同七分	同四分	同五一分	同八分	同五分	同二分	同九分
ア十六匁八卜	ア十六匁七卜二五	ア十六匁六卜五	ア十六匁五卜七五	ア十六匁五卜	ア十六匁四卜二五	ア十六匁三卜五	ア十六匁二卜七五	ア十六匁二卜	ア十六匁一卜二五	ア十六匁〇五	ア十五匁九卜七五
朱八匁四卜	朱八匁三卜六二五	朱八匁三卜二五	朱八匁二卜八七五	朱八匁二卜五	朱八匁二卜一二五	朱八匁一卜七五	朱八匁一卜三七五	朱八匁一卜	朱八匁〇六二五	朱八匁〇二五	朱七匁九卜八七五

○銀算用

○銀三百十匁の代を金ね段六十目之への金にして
何程と問　答云　五両二朱と半銀二匁五分
術云三百十匁を実に金ね段六十目を法にして
して三百十匁を一両と割商に五両とのこり十匁に八歩を
かけ四百八十匁となる六十目と八で割七分五りん（二朱のかはり）これを法
にして実にのこる十匁とわる実五両弐朱と半銀
二匁五分とあるなり

○銀三貫文之代ね段九匁三分にして此銭何程と問
答云　三百七十二文二六七二
術云三貫文を実に九匁三分を法にして
実とする三百七十二文とわる此内百より因の
七十六文三二二九六とわけて三百七十二文二六余と成
まるくはんしきの七十文より定七二文八分ありもする
これをつき算用の志るしはなくと算用なり

六十目にてわる象
六三天作八
先の法をとるる象
八六七十四
七四とて実とわる象
八四天作八
七一かト三　八八引
但三の内八引
二八のわる

九匁三分にてわるのを象
九三かト三　三三九引
九七かト七　三七二十引
九八かト八　九五二一十
三六十八引
九六のかける象
二六十二　二九十八
三六十八　三九二十七
六六三十六　六九五十四
六七四十二　七九六十三

○銀一貫目にて六十四匁六分五厘の金にして何程と問
答云　十八両一歩二朱と銀七匁七分七厘
術云　実に一貫目と置、六十四匁六分五厘を法にしてこれを
法にして一貫目と二重に割、商に十八両となる。一両より上へ
あまる銀へ二十一匁となる。右の法を四にかけ十六
匁二分八厘となる。是一歩の代なり。これを法にして実
銀へ二十一匁を一歩に割る。高十八両の次へ一歩とかく
是も又銀十四匁八分五厘となる。初法の二十八一八とかけ
二十二匁と同へ八〇七八となるこれ二朱の代なり是を法にして
実の十四匁八分を二朱に割る十八両一歩の次へ二朱とかく残る一
に二朱として銀七匁七分七厘八毛とあまるなり

六四六五にてわる也
六一かけ下四　一四四引
一六六引
四八二十引　六二天作八
八六三十引
四二天作八
四七と一十　四二天作八
法と四にかける也
四七と一十　四七と一十
一六八にてわる也
一七と一十　一六六引
一一引　一八八引
法と二にかける也
二一天作八　六七と三十
二一天作八　四七と二十
二一天作八
文にかける也
八一かけ下二　一七七引
一八八引

○銀九十八匁なり銭九匁四分五厘にして此の金は
何程と問　答云　十両と百廿四文余
術云　九十八匁と実に置九匁四分五厘を法にしてわる
十両と百二十文余となる内北文より二百八十文をひく
又四十八文余は九十六文とかける事なり

九四にてわる也
九七と一十　一四四引
九四かけ下四　四四十六引
九二かけ下二　二四八引
かくれは九六とかける也
八六三十　八九四十八
二六十二　二九十八

○銀八百七十八匁なり銭九匁四分五厘の相場にして此
銭何程と問　答云　九十二貫九百二十九文余
術云　八百七十八匁と置九匁四分五厘を法にしてわる
わる九十二貫〇八百四十九文余となる内四十八文より四十八の
一文六分として六文より四十四のめを引是も百文より
内のもりし九十六とかける也

わりこ之
九八かけ下八　九七と一十
四六二十四引　八八二十八引
九八かけ下八　四八三十二引
八八四十引　九四かけ下四
四四十六引　四八二十引

○又九十八匁なり是を内一割引て何程となる
答云　八十八匁二分なり
内一割引は九とかける　内一割半引は八半とかける　内二割引は八とかける
内一割ましは九にてわる　内一割半ましは八半にてわる　内二割ましは八にてわる
外一割引は十一にてわる　外一割半引は十一半にてわる　外二割引は十二にてわる
外一割ましは十一とかける　外一割半ましは十一半とかける　外二割ましは十二とかける
△一両引は六十五匁の内一分引九匁五分とかける　二両引は九匁八分とかける
外引は九匁五分とかける　△一両ましは六十五匁二分とかける　二両ましは六十五匁二分とかける
手余はみこれは准して考へし　合位けはおれなり

○銭遣用

○銭三百六十文にて一匁九分一厘のお場にして此銀何程と問

答云 三匁七分九厘七八四となる

術云 三百六十文を実に置 此六十文分を九六にて割る 三百六十二文四分となる これに一匁と代九匁一分をかける

九十六にて割る法
九六かけて 六六八三十六引
九一をかける法
一 四 四 四九三十六
一 二 二 二九 十八
一 六 六 六九八十四
三 三 三九二十七

○銭八貫二百二十八文にて銭の相場九匁にして此銀何程と問

答云 七十四匁一分七厘六毛〇四

術云 実に八貫二百二十八文を置 此二十八文分を九六にて割る 八貫二百二十八文九文六となる これに銭お場九匁をかける

九六にて割る法
九三か下三 三六十八引
八九〇次作九九
六九五十四引
九をかける法
六九八十四 五九四十五
九九八十一 三九二十七
二九十八 八九七十二

○銭七百三十文にて延べ銭九匁八分〇〇一六あり此銭お場何程と問

答云 九匁三分之人

術云 実に九匁八分〇〇一六と置 これに七百三十文 法に置此三十文分より三四の一文二ア あとぶし 七百三十文二アを法として右の九匁八分〇〇一六をわる 九匁三トグへと志てあり

わり算
七六八十四 七を一十
三九二十七引 一九九引
二九十八引 七二か下六
七を一十 三三九引
一三三引 一三六引

○銭十二貫七百四十八文にて毛を三十六人にあて一人に何程と問

答云 三百五十二文ツ

術云 十二貫七百四十八文と実に置 此内十二貫七百文えかりを九六にてわる 銭十二貫二百四十文となる これを三十六にてわれば三百四十文となる 此内三百文むかりを九十六にてわれば三百五十二文ツと志て 余り二匁も文九十六にては三百五十二文より三四の十二文めぐ足もありけしるあり

九六のかける法
六七四十二 七九六十三
二六十二 二九十八
一六 六 一九 九
三十六わり算
三一三十一 三六十八引
三一三十一 三を一十
四六二十四引
三百を九六にてわる法
九三か下三 三六十八引

○銭八十七〆八百文あり是を金にして何程と問
金にして六十六両　銭相場九〆八分
答曰　八両一歩二朱と銭百九十二文余
術曰　銭八十七〆八百文に九〆八分を以てわるとこの代
銭八百四十六文二分二厘となる是を金にして銭相場
六十六両と法に置て実一両を割と商八両となる時
廿六文二分余りとなる此法を置て実の六十六両を四にて割
十六両五分余りとなる法の二十六両二分余り
と上一両を割八両の次へ一とある是一歩なり法十五
の二文法を二にてわる八両一分二厘となる是を
右実にのせる十五とある八両一歩の次へ一とある是
二朱なり商は八両一歩二朱と銭一〆八下七と
入とある此一匁八分七厘入を銭相場九〆
八分にてかけ八百九十七文二分とある此内九十文
より四九二文六分めと引残り百九十二文七分と
是くも九十七文三入と九六〆けさるへし

法入分かりけ乙家　八九四十八
八八二十八　七九六十三
八七三十八　八九四十八
六八十二　法四のわり乙家
六八をてわり乙家　八八四十八
四二一十
四三一十　四二三六八
四二六八
一六　二八をてわり乙家
一三一十　一六六引
一二二引　一八八引
文法を二にてわり乙家
二一天作八　六三三十
二三一十　四二二十
二一天作八
八二天にてわり乙家
八一かトニ　一一一引
一二二引　一八八引
九五八をてわり乙家
九一かト一　一八八引
九九八十一　九九
八九四十八引　九七かト七
七二十八引

○銭相場八〆五分の時一両の代銭に何程と問
答曰　百二十二文半余
術曰　九百六十文を実に置八〆五下にてわる
百十二文半余となる

八〆五二分府	八〆五六下	九〆	九〆五四下	九〆五八下	十〆五二下	十〆五六下	十一〆	十〆五四下	十〆五八下
百二十一文 ○六	百十八文 六余	百十文 ○六六	百六文 一二余	百一文 九八九余	九十四文 一一余	九十文 ○半六ヨ	八十七文 二七ヨ	八十四文 二一	八十一文 三八
八〆五三下	八〆五七下	九〆五一下	九〆五六下	九〆五九下	十〆五三下	十〆五七下	十〆五一下	十〆五六下	十〆五九下
百十九文半 四余	百十四文 三余	百九文 四九余	百八文 ○八余	百文 ○○ 九六九余	九十三文 二○三余	八十九文 七一九ヨ	八十六文 四八	八十三文 四七七	八十一文 六七二
八〆五四下	八〆五八下	九〆五二下	九〆五六下	十〆	十〆五四下	十〆五八下	十〆五二下	十〆五六下	十二〆
百十八文 二八余	百十三文 ○八	百八文 三四余	百四文	百文	九十二文 三○○余	八十八文 八八ヨ	八十八文 七一四	八十二文 七八八	八十文
八〆五六下	八〆五九下	九〆五三下	九〆五七下	十〆五一下	十〆五六下	十〆五九下	十〆五三下	十〆五七下	十二〆五
百十六文 九余	百十一文 八六余	百七文 二二余	百二文 九六余	九十八文 ○四九	九十一文 四二ヨ	八十八文 ○七ヨ	八十四文 九二	八十二文 ○八	七十三文 八六六

わり乙家　八二一十　八一かトニ　八六七十四　一八八引　一八八引
一一一引　一二二引　八二一十　八四天作八

米算用

○米九石三斗四升わり金一両に八斗ぐへのときは此代金何程と問

答云　十一両二歩二朱

術に云九石三斗四升を実に置法八斗にてわるなり

但し十一両のほか八二歩八分の二朱八二三八分なり

○米九石わり四斗俵にして何俵となる

答云　二十二俵半

術に云九石を実に置四斗を法にしてわる

○米七石五斗わり一石に付七十三匁ずつにて此代銀何程ぞと問

答云　五百四十七匁五分

術に云七石五斗を実に置法七十三匁をかける

○米十六石八斗わり銀十匁に米一斗六升ずつにして代銀何程ぞと問

答云　一貫○五十目

術に云十六石八斗を一斗六升にてわる

わり乙家
八之一十
八五六十二
八四天作五
八一かけ下二
八二かけ下四

わり乙家
八之二十
四二天作五
四一二十二

かけ乙家
三五十五
三七二十一
五七三十五
七七四十九

わり乙家
一進一十
五之五十
一六六引
五六三十引

○米八斗わり代銀六十目と一石の代を問

答云　七十五匁

術に云六十目を実に置法八斗にてわる

○米二百三十俵わり一俵に付金一歩二朱ずつ此代金何程と問

答云　八十六両一歩

術に云一歩二朱を実に三七五とをき法に米二百三十俵かけて実にかける

○米四斗二升俵百十七俵わり金一両に付四斗俵二俵ぐへのときは此代金何程と問　金相場六十二匁五分之

答云　六十一両一歩二朱と銀三匁一分二りん

術に云百十七俵を実に置法四斗二升をかける四十九石一斗四升とある故別に四斗を置二とかけて八斗となる此八斗を法にして四十九石一斗四升をわれば六十一両四二五と有る此四二五の内一歩ハ二朱ハ二八とのけて残る八分ある此八分と金の相場六十二匁五分へかけると銀三匁一下入りとこころう

わり乙家
八六七十四
八四天作五

かけ乙家
三五十五
三七二十一
三三九
二五十
二七十四
二三六

四二のかけ乙家
二七十四
一二二
一二二
四七二十八
一四四
一四四

八のかけ乙家
二四八

八にてわる乙家
八四天作五
八一かけ下二
八之一十
八三かけ下六
八二かけ下四

五にてかける乙家
三五十五
五六三十

○米四斗俵十九俵三分あり代金十両なり一両に付何斗に当ると云
答 七斗七升二合
術に云十九俵三分を実に置法四斗をかけると七石七斗二升代十両の石なる也一両を割七斗七升二合と知る

○米六斗五升あり沽一両に付一升三合の入にして代沽何ほどと云
答云 五十目
術に云六斗五升を実に置一升三合にてわる

○米八斗五升あり百文に付一升七合の入にして代銭何程と云
答云 五貫文
術に云八斗五升を実に置法一升七合にてわる

○米一石八斗代金二両なり沽一貫文に付何ほどと云 但し金一両に銭六貫文としれ協
答云 一斗五升
術に云一石八斗を実に置割ふ六貫文に二をかけ十二となるを法として実をわる

○米一斗五升代十匁今銀三十八匁と何程と云
答云 五斗七升
術に云三十八匁を実に置一斗五升をかけ十匁にて割

○三斗五升俵百俵あり代金四十二両なり又四斗俵五百六十俵の代金何ほどと云
答云二百六十八両三歩と銀三匁 金壱両六十匁之
術に云五百六十俵を実に置法四をかけ二二四〇となるを実に置百俵の升なる三十五石を法にわりて六四となる二百六十八両八分となる内三歩を法にしてかける

○麦一石の直段米六斗の直段と同じなる麦九石の直段ほど米何ほどと云
答云 五石四斗
術に云麦九石を実に置米六斗をかけ五四となる是を実に置法麦一石を法にしてわる五石四斗と知るなり

四のかけ二也 三四十二 四九二十六
一四 一四
一のまり二也 七五七十 七五七十
二五二十

まり二也 五五五十 三五十五引

まり二也 五五五十 五七三十五引

まり二也 一五一十 一二二引
五五五十 二五十引

五のかけ二也 三五十五 三八四十 三五十五 一二八 二三八
まり二也 五五五十 七五七十

四のかけ二也 四六二十四 四五二十
四二のかけ二也 四二八 四四十六
二 二 四 四 二 四 二 八
二 二 四 四 二 四 二 八
二三五のまり二也 六五三十 二五十引
三二六十二 五六三十引
九三 無頭作九二
四一 俵三
三二六十二 六五三十
五八四十引
五のかけ二也 三五十五 八六二十

かけ二也 六九五十四 まり二也 五五五十 四五二十

○米一石代銀六十目 小豆一石代銀二十四匁之 小豆八石の代ハ米何ほどに成と問

答云 三石二斗

術ニ云 八石ニ二十四匁をかけ一九二となるを六十目で割

二十四かけこゑ 一八三十二 二八十六 六ほそさりこゑ 六一か下四 六ミ一十 六ミ一十 六ミ一十 六一か下四

○米一石ニ付出目二升ツヽ此俵三十二匁六分四リんを不実とみなし 米一石の代何ほどと問

答云 三十二匁

術ニ云 実ニ卅二匁六分四リんを壷法一〇二ニてわる

さりこゑ 二ミ三十 二ミ二十 二三六引 二二四引

○米一石ニ付二升不足の俵三十一匁八分六リんを実とし 米一石の代何ほどと問

答云 三十二匁五分

術ニ云 実ニ卅一匁八分六リんを壷法九分八厘ニてわる

さりこゑ 九三か下三 九二か下二 九四か下四 八八四十引 三八二十四引 二八十六引 九ミ一十

○米三百七十八俵 是ハ一俵ニ付五升ツヽかゝり物あり 此かゝり物をひき何程と問

答云 百八十七俵五斗

術ニ云 実ニ七十八俵と壷法五斗をかける

かけこゑ 八八二十八 三八十八 八七三十八

○絹布かゆるしの算用

○絹一尺ニ付代銀一匁二分之一反ニ付代銀と問

答云 三十一匁二分　一反二丈六尺

術云 一匁二分ニ二丈六尺をかける

かけこゑ 二六十二 一六六 一二 二二 二四 二

○絹半反ニ付代銀四十八匁 一尺ニ付何程と問

答云 三匁七分　一反二丈六尺の様

術云 四十八匁ニ半反の一丈三尺ニてわる

さりこゑ 三ミ三十 七ミ七十 三三九引 三七二十一引

○きぬ一疋ニ付代銀六十七匁六分 一尺ニ付代銀なにほどと問

答云 一匁三分　一疋五丈二尺

術云 六十七匁六分を実ニ壷法五丈二尺ニてわる

さりこゑ 五ミ一十 五一か一 二三六引 一二二引 五ミ一十

○本綿八尺あり 一尺ニ付三分五リンツヽにして代何ほどと問

答云 二匁八分

術云 実ニ三分五りんを壷法八尺とかける

かけこゑ 五八四十 三八二十四

○紗綾（さや）六尺四寸にて代九匁六分一匁の代銀いかほどゝ問

答云　三十九匁　一匁二丈六尺

術曰　九匁六分と実に置法二丈六尺をかける
二四九六となる是を又法六尺四寸にてわる

○絹（きぬ）一疋おもさ百九十三匁七分なり銀十匁ニ付糸目（いとめ）二十六匁くにして此一疋の代銀なにほどになると問

答云　七十四匁五分

術曰　百九十三匁七分を実に置法廿六にてわる

○つむぎ一疋なりおもさ百八十匁あり糸目五十目ニ付代銀二十匁にして一疋の代何程と問

答云　七十二匁

術曰　実に百八十目をおき法二十匁をかける
三六〇〇となるこれを又糸目の五十目を法にしてわる

かけ之図 六六 三十六　二 六 十二 六九 五十四　二 九 十八 六四にてわる之図 六二 三十二　三四 十二引 六五 八十二　六を一十 四九 二十六引	わり之図 二一天作五　四をニ二十 二七 四十二引　二一天作五 四一 倍二　四 六廿四引 二一天作五　五六三十引	二 かける之図 二八 十六　一 二 二 八わり之図 五三 か三　五を一十 五一 か一

○織物（おりもの）裂さん用ニ并 織もの（おりもの）のきれわり算用

○織物之巾（はゞ）二尺長五尺にて代三百目此きれ巾九寸長サ五尺にて代銀何程と問

答云　百三十五匁

術曰　実に三百目と置法ちぢ九寸をかける　二七となる是をまた法に二尺と置これにてわれば百三十五匁としるべし

○織ものの巾二尺二寸物の五尺まで一尺に付十匁之此きれを巾一尺四寸に長サ八尺の代銀何程と問

答云　五十六匁

術曰　一尺四寸と実に置法八尺をかける
是を又置たるに別に十匁をかけ千百廿
と二尺二寸にてわれば五りくるる（但し一寸四方の坐なり）
此五りを法にして右の実にかける千百二十
へかける五十六匁としるべし

九かけ之図 三九 二十七 二のわり之図 二を一十　六を二十 二一天作五	八とかける之図 四八 三十二　一 八 八 二二にてわる之図 二一天作五　二 五十引 五りかける之図 二五 十　一 五 五 一五 五

○緞子一本なり代二十八匁なり巾二尺なり
のもんめなれば四つをりにして一つけの直段
何程と問

答云 二匁三分三りん 余ほど入

術に云 巾二尺の三にかけ四つをりの三にて四を
かける三四の十二となるをもんめ四つをりのわるかかり
は十二を法にして右の実に二十八匁を置われば
もんめ一つけの代となるなり

うけ二算
三四 十二
十二にわるつ匁
二ゑ二十　二二四引
三ゑ三十　二三六引
三ゑ三十　二三六引

○織物巾二尺三寸ありの四つに一たんに付代二十二匁之入て
紙入のおもても二尺四寸入り巾七寸入り入用この
きれの代何程と問

答云 十一匁一下一六

術に云一尺四寸入り二十二匁をかける二三三入となる
扨巾二尺二寸のおもてをかしてかけて巾二尺二寸
のつもり三にて十一匁一下一六となるなり

二三とうけ二算
三八十八　二八十
三四十二　二四八
一三三　一二二
三二わり二算
三ゑ一十　三ゑ一十
三ゑ一十　三ゑ一十
三二六十二

○薬種之算用

○人参一匁に付代十七匁八下之代くもりと
目かた三匁にて代何ほどと問　匁八四匁あり

答云 十三匁下二六三八

術に云 実に十七匁八下とを置法三匁をとりかける之
八二八よりる是を又法四にてわるなり

三匁とうけ二算
三八十八　三七二十一
一三三
四にてわる二算
四ゑ一十　四一二十二
四ゑ一十　四ゑ一十
四一二十二　四二天作八

○伽羅目方一匁代銀十二匁之にして目かた
七十九匁なる代何程と問

答云 九百四十八匁

術に云 実に七十九匁を置法十二匁をかけて
かけるとあるなり

うけ二算
二九十八　一九
二七十四　一七
九
七

○熊の胆目方一匁に付代銀三十二匁三下之
銀一匁に薬目何程かと問

答云 薬目 三りん〇三〇三ヨ

術に云 実に一匁を置法三十二匁三下と
おいてわれば知るなり

わり二算
三一三十一　三三九引
三一三十一　三三九引
三一三十一　三三九引

○甘草一斤を代目二百廿目之代銀三十七匁四分入りにして薬目一両の代何ほどぞと問　但一両ハ四匁

答云　七分

術に云二百廿匁の目を代目十二匁と見て引残り二百十四匁と四匁をかけてある両にする三十三両半を見さえとを法にして三十七匁四分入りにかけてあるなり

四にてかくる　入三半かくる
四二天作入　四二一十　入三かト三　三七廿一引

四一二十二　四二天作入　入三一十　入七廿入引

○陳皮二斤にて一斤二百三十目宛此二斤の代銀二匁六分之時薬目一匁の代何ほどぞと問

答云　入りし六毛入余

術に云二匁六分と二斤の目五百四百六十目にて割

まわりて
四二天作入　四三七十二　六六卅六引　入六卅引

入六三十引　四一倍四　四二天作入

○蒼朮一斤代銀十二匁之一斤八百六十目宛右銀一匁に薬目何ほどと問

答云　薬目七十匁三下三分三三余

術に云百六十目と壺十二匁にてある　法さうた　かけのつもり
又法百文にて何程と薬目一三三三余と法にかけ薬目一匁一分九九七と志るなり

十二のまわりて
一二一十　二三三十　三三三十　三九廿七　九のかけて　三九廿七　一九九

一二二引　二三六引　二三六引　三九二十七　二九二十七

酒の算用

○酒十徳代金十八両二歩之一徳ハ二十斤入此一斤の代銀何程と問　金壱両に六十三匁のつもり

答云　六十八匁二下七りん入

術に云金十八両二歩と壺むし二歩ハ五分に金ね場六十三匁をかける一〆百六十五匁五下とあるこれを十徳のたる数の二十と法にしてこれをまわるなり

六三をかけて
三入十入　一三八二十四　一三三　二十にまわる　二一天作入　六三三十　二一天作入　二一天作入

入六三十　六八四十八　一六六　二一天作入　四二二十　四三二十

○酒十徳代金十八両二歩之一徳ハ二十斤入此酒一升に付壺彼何ほどぞと問　金ね六十四匁まて

答云　一匁入分入り之余

術に云金十八両二歩二歩ハ五分と云にて壺金ね場の六四をかける一〆百八十四匁となるこれを十徳のたる数二十にてまわれハ一徳の代銀入十二匁なるをこれをまた三升八升にてまわれハ一匁入余と志るなり

六四のかけて
四入二十　四八三十二　一四四　二十にまわる　二一天作入　八ちと四十　三八にてまわる　三ちと二十　三二六十二　入八四十引　次一倍三

入六三十　六八四十八　一六六　二一天作入　四ちと二十　一八八引　次一倍三　三二六十二　入八四十引

○酒一升代一匁二分のとき一斗五升の代何程ぞといふ

術に云 実に一斗五升を置一匁二分をかける 答云 十八匁

ういけこゑ 二八十 一八八
一二二 一一一

○酒一升代百二十文にして二斗五升の代ハ何程ぞといふ

術に云 二斗五升と実に置百二十文をかける三〆文となる 是内二〆文百にあふ 九の八百文と 四八二十とよひ二十文めとのぶれ

答云 三〆二十文

ういけこゑ 二八十 一八八
二二四 一二二

○酒一斗に付一〆二百八文の時 酒百文に付何程と問

術に云 一斗と実に置一〆二百八文にてわる

答云 八合二夕七余

見一無頭作九一 八十六引 二を二十 八十六引 二七十四引
除一倍一 八八六十四引 二二四引 七を七十 七八八十六引

○酒三斗五升代三〆八百六十二文之一升代何程と問

術に云 三〆八百六十二文を内三百分の五十二文引残り三〆五百五十文を三斗五升にてわる

答云 百十文

三八にてわるこゑ 三を一十 一八八引 三を一十 一八八引

○醤油の算用

○醤油八升樽代九匁六分にして一升の代何程ぞといふ 但し内味八升五合つもり

術に云 実に九匁六分を置八升にてわる

答云 一匁二分

八にてわるこゑ 八を一十 八を一十 八一か下二

○醤油四斗樽内味三斗七升五合代銀二十八匁より醤油一升に付代何程ぞと問

術に云 二十八匁を実に置三斗七升五合にてわる

答云 七分四り六毛余

三七にてわるこゑ 三二六十一 七七四十九引 除一倍三 三二六十二
三を一十 三二六十二 八七三十八引 六七四十二引

○醤油四斗六樽半ほどある代金一両之 但し八升入 一升代何程ぞといふ 金六十四匁之のつもり

術に云 実に六樽半を六斗五升と置法八升をかける 五二となる これを法として金の相場六十四匁を実に置てわれば志れる

答云 一匁二分三毛余

八とかけるこゑ 八八四十 六八四十八
五二にてわるこゑ 五を一十 五一か一 五一か一 二三六引
一二二引 二二四引 五を一十

○ともしあぶらのさん用

○ひとつき三升八合の代金一歩と八十粍の代金 いかほどになると問

答云 金二十七匁三歩ニ銭六匁七分四余
一ケ月の内ニ三升九升
金ニて六十三匁のつもり

術曰 三升八合ニ法四をかける一四となるこれを法にして十粍の升ニてわれば二十七匁 八匁七〇余となる此八匁七余の内三歩の法七匁と引ば残り一〇七余となるこれを右の一〇七と亜法に六十三匁を亜かける時銭となるなり

四かけるこ数
四八二十 三四十二
一四にてわるこ数
二さ三十 二四八引
见一亜八作九一 以一倍一
以一倍一 四七二十八引
四八二十引 以一倍一
四八三十二引 八亜八十
见一亜八作九一
以一倍一 见一亜八作九一
四七二十八引 以一倍一
六三とかけるこ数
三七二十一 六七四十二
一三 三 一六 六

○油一樽なり代銀百三十匁八分五厘 内ニ三斗九升
一升ニ付代銀なにほどゝ問

答云 三匁八分

術曰 百三十匁八分を実に亜三斗九升を法にしてわる △又此油銀一匁ニ何程ぞと問

答云 二合八夕八余

術曰 油一升を実に亜法三匁八分にてわる

三九にてわるこ数
三一三十一 三九二十七引
三一三十一 六さと二十
八九四十八引
三八にてわるこ数
三一三十一 以一倍二
二八十引 见三亜八作九三
以一倍三 八八四十引
三二六十二 以一もい三
八八二十八引

○米薪の算用 炭薪

○たきぎ本八十八束なり一束に付四分ならばこの代何程と問

答云 二十二匁

術曰 八十八束を実に亜法四分をかける

くけこ数
四八二十 四八二十

○銀三十八匁一分なり一束ニ付四分八厘五毛の米何束うるといふ

答云 七十八束

術曰 三十八匁一分を実に亜法四分八厘五毛とする

わりこ数
四三七十二 八七二十八引
四三七十二 四さと一十
八八四十八引

○まき本百二十束なり銀十匁ニ付二十八束ならば此代銀何程と問

答云 四十八匁

術曰 百二十束を実に亜法二十八束とする

わりこ数
二一天作八 以一倍二
四八三十二引 见二亜八作九二
以一倍二 八八四十引

○銀三十八匁なり十匁ニ付二十束のたきぎ何束と問

答云 七十束

術曰 三十八匁を実に亜法二十束をかける

くけこ数
二八十 二 三 六

○薪一束に十二束なり此代九百六十文 文ちん銭百九十二文かゝるとして此木一束ニ付直段何程と問

術ニ云九百六十文ニ百九十二文を合一〆百五十二文ある是を実ニ置法十二束ニてわる

答云 九十六文ツヽ

○炭一駄数九俵なり此代二〆七百文一俵ニ付直段何程と問

術ニ云二〆七百文を実ニ置法九俵ニてわる

答云 三百文

○すみ五十俵なり代銀百二十五匁又一俵ニ付一分五りんのかゝりものをかけて一俵ニ付直段なにほどにつくと問

術ニ云百二十五匁を実ニ置五十俵を法にして これハ二匁五分と見ニかゝりもの一分五りんとなる

て二匁六分五りんとなる

答云 二匁六分五りん

わりこゑ 一二 天作九一 二九十八引 二六十二引 六二十六十

わりこゑ 九二かト二 九二十

わりこゑ 五一か一 五二か二 五二一十

わたの算用

○わた一貫ニ付代銀七十目のとき一斤ニ付利銀何ほどと問

但し一〆ハ四十斤 一斤ハ三百目

術ニ云実ニ七十目を置法四十斤ニてわる

答云 一匁七分五りん

○綿一斤ニ付代一匁九分のとき一貫の代銀何ほどと問

術ニ云実ニ四十斤を置法一匁九分をかける

答云 七十六匁

○わた十五斤なり銀百目ニ付わた目十六〆五百にして十五斤の代何程と問

術ニ云十五斤を実ニ置法二ツかけ十六〆目ニてわる

答云 一〆百二十五匁

○わた一斤代八十目銀一匁ニ付十目ツヽ賣ときハ

術ニ云四十斤ニ三をかけ十二ニてわる法八十目ニてわる

答云 わた目百五十目

わりこゑ 四五一十 四二天作五 四三七十二

かけこゑ 四九三十六 一四 四

かけこゑ 一二 二五十 一五 一五 ／ 二二 一一 一一

わりこゑ 三四十二 八にてわる 八一か下二 八四天作五

○ 茶の算用

○茶十二メ目ならば代銀六十目ならばちや一斤の直段なにほどと問

答云 壱匁

術ニ云十二メ目を二百目で割又六十目にてわる

○ちや一斤代二匁五分ならば金一両ニなにほど買ぞと問

答云 二十五斤六分

但し金ハ相場六十四匁

術ニ云金一両代六十四匁を法二匁五分にてわる

○茶一歩ならば但十三メ目入なり此代金一両二歩なり金一両ニ付茶なにほどにあたるぞと問

答云 茶の目八メ六百六十六匁余

術ニ云ちや十三メ目を実ニ置法ニ金一両二歩と置これを法として十三メ目をわるなり但し金二歩ハ五と置なり法一五とするなり

わり之図
二一天作五 二ニ一十
六ニはらふ之図
六ニ一十

わり之図
四ニ二十 二五十引
二一天作五 五二十五引
二一天作五 二ニ一十
五六三十引

わり之図
見一無頭作九一
八八四十引
帰一倍一
帰一倍一
見一無頭作九一
帰一倍一
帰一倍一
五六三十引
帰一倍一
帰一倍一

帰一倍一
見一無頭作九一
帰一倍一
五六三十引
帰一倍一
帰一倍一
見一無頭作九一
帰一倍一
五六三十引

○ 紙の算利

○半紙一〆ならば代銀二十五匁之一束の代なにほどと問

一〆ハ五十束なり

答云 五分

術ニ云実ニ廿五匁を置法五十にてわる

○半紙一束代五匁此紙一折の代なにほどと問

一束ハ二十折なり

答云 二分五りん

術ニ云 五匁を二十にてわる

○よしの紙三十束ならば代銀四十二匁之二十四束の代銀なにほどと問

答云 三十三匁六分

術ニ云四十二匁を置廿四束をかけ三十にてわる

○三の紙五十帖ならば代銀六十目之一帖ニ付直段なにほどにあたると問

答云 一匁二分

術ニ云六十目を五十帖でわる

わり之図
五二かニ 五ニ一十

わり之図
四ニ二十 二一天作五

二四かけ之図
二四 二二
四四 四二
四八 八四
二ニはらふ之図
三一三十一 三一三十一
三一三十一 九ニ三十

わり之図
五ニ一十 五一かー

○みそこうじ算用

○味噌仕込みに大豆一斗に麹九合塩三合のつもりにて大豆一石五斗をみそにつく時一升の代四分の大豆一石五斗の代いかほどと問

答云　六十目

術に云一石五斗に四分をかける

○九合麹にしてかけ代いかほどと問△　答云麹一石三斗五升　代七匁

三分とかけ代四十目八分と有り是に△三合塩にして塩

四斗五升と有り術に云大豆の一石五斗に塩三合をかける四斗五升と有り

此塩代一斗に付一匁五分にして四斗五升の代いかほどと

問　四匁五分と有り術に云四斗五升に一匁とかけ塩代

四匁五分と有り

惣合代を以てかけ合て

麹塩の合銀百十匁となる

○志ほさん用

○塩四十五俵あり代銀八十一匁のときは五十五俵の代銀いかほどと問

答云　百十匁

術に云八十一匁に五十五俵をかけ四九五〇と有を文四十五にてわる

○塩百二十五俵あり石にしていかほどと問

答云　六十二石五斗

術に云百二十五俵を二にてわる也　二俵を一石にする

○塩六十二石五斗あり千斗二升盛にして升数いかほどと向

答云　四十五石

術に云六十二石五斗を七斗二升とかける

○右の塩三斗入八合入にして代銀いかほどと問

答云　百十八匁四分二りん

術にいふまづ四十五石と五に三斗と八合と法にしてわる

四のかけこゑ	三分とかける声	塩三合かけるこゑ	一匁かけるこゑ
四五二十　一四　四	三五十五　三　三九	三五十五　一　三　三	一五五　一四　四
九とかけるこゑ	一三三		
五九四十五　一九　九			

五五かけるこゑ　一五五　五八四十　四五二十　四と二十	五八四十　わりこゑ　一五五　一五五引　五五引	わりこゑ　二一天作五　四と二十　二と一十　二一天作五	かけこゑ　二五十　二二四　二六十二　五七三十五　二七十四　六七四十二

わりこゑ　三と一十　三と二十　五三二六作九三三　八八二八四引　三と一十　六と二十　一八八　八八引　一下がりの二　三一三十一　四八三十二引　二八十六引

○こねやと糸をかふもさたぐ木の算用

○絹糸目方百二十五匁かへの代銀二百二十五匁とい
銀一匁ニ付いくら目かへと問

答云　糸目一匁八分余

術曰　実に銀二百二十五匁を置、右かへにて目
百二十五匁を法にして実をわる

○縮緬二丈あまりの代銀三匁三分と云、此縮緬丈
二丈四尺五寸なり、一尺ニ付直段いかほどと問

答云　一分三り三毛四余

術曰　実に三匁三分を置、二丈四尺五寸を
法にしてわる

○さらさ紋二丈あまりの代八匁二分と云、此丈一丈
八尺なり、一尺の直段いかほどと問

答云　四分四り四毛四余

術曰　実に代銀八匁二分を置、並たかへに一丈八尺
と法にしてわる

一ノ一十　一二ノ二引
一八八引　見一無頭作九一
除一倍一　八八四十引

二ノ一十　一四四引
一八八引　六ノ二十
三四十二引　三八十八引
二一天作八　除一倍二
四四十六引　四八二十引

四ノ四十　四八三十二引
四ノ四十　四八三十二引

薬のさんよう

○薬二メ八百目かへの代金一両と
右の薬目方百目ニ付代いかほどと問　但し一両ニ六十二匁

答云　二匁二分一り三毛余

術曰　金一両の代六十二匁を置、並たかへに
薬二メ八百目を法にして実をわる

○薬十七貼あり　但し十七メ目入代金三十四両
右の薬目方百目の代いかほどと問　金壱両ニ六十五匁

答云　一匁三分

術曰　金三十四両を実に置、金壱両ニ六十五匁をかける
金代二メ二百十匁となるを薬十七メにてわる

○薬目方百目の代銭九十文として薬三メ目の
代なにほどと問

答云　二メ八百十二文

術曰　三メ目に九十文をかける二メ七百となる此二メ
七百を九六にてわる

四ノ二十　二八十六引
四ノ二十　二八十六引
二ノ一十　一八八引

六五かける
四八二十　四六二十四
三八十八　三六十八
十七わり
一ノ一十　一七七引
三ノ三十　一三三引

九九わり
三九二十七
九六わり
九二か下二　二六十二引
九七か下七　九ノ一十
六八四十八引

たばこのさんやう

○たばこ三十斤ありて代銀六十目之一斤に付何程にあたると問

答云　弐匁

術に云実に代銀六十目を置法に三十斤を置実をとる

○又たばこ二斤代銀一匁六分ト右合て一匁に付何程と問

答云　四十斤

全六十四匁

術に云実に全六十四匁を置一匁六分を法として実をとる

○たばこ一斤ありて但し百六十目入之代銀二匁二分目方九十目ハいかほどと問

答云　一匁八分

術に云実に二匁二分を置法にて百六十目を置法にて九十目をかけ二八ある又右の実に百六十目を法にて実二八八とる

六さ二十　わりて　二匁

四さ四十　わりて　四六二十四引

二九　九くけて　二九二十七
二九十八
百六わりて
一さ一十　一六六引
見一無作九一　除一倍一
六八四十八引

林本うりかひの算用

○一本に付一匁二分づつの丸太七十八本ある代銀何程と問

答云　九十匁

術に云七十八本に一匁二分をかける

○又すみ一本代銀三匁八分として六寸のかく一本の坐何程と問

答云　八匁四分と

術に云実に三匁八分を置六二十六をかけまた八二十八にて割る

○又口二寸の丸太一本の代八分づつにして末口二寸八分の丸太一本の代何程と問

答云　一匁二分八厘と

術に云二寸八分に二寸八分かけ六寸六分余る是へ又八分をかけるを実に置なりて又二寸二寸かけ四と割るを法にして実の入をとる

二八十　一八
二七十四　一七七
　りけ
八六三十　二八十八
三六十八　三三九
二十六くけて
二一天作八　八八二十八引
二八わりて
二一天作八　除一倍二
四八二十引

八八二十八　二八十
二八十　二二四
二八くけて
八八四十　二八十六
八くけて
六八四十八
四さ一十　四一二十二
四のわりて
四二天作八

○木口に四寸長さ二丈の丸太一本代銀二匁六分づゝにして
木口三寸長さ一丈六尺の丸太一本代何程と問

答云　一匁一ト一ラシ八

術に云三寸角に三寸角をかけて九となる是に又一丈六尺を
二匁六トとかけ三六なる是にて右丈だけに一丈六尺に
二丈とかけ三二となるを法にして実の三六にとける

九二一丈六尺とかけるこゑ
六九八十四
一
九
九

二八ちけこゑ
四四八二十
一八
一
二
二八
八
八
二
一八

一
二
三六に三二をかけるこゑ
三六を三二にてするこゑ
二
一

三二を一十
一
二
二
二

三二を二十
一
二
二

六一三十
一二
二
十
引

二八二十引

○四寸角一万本の木二十八本代銀六十八匁之上掛る
三寸角一万二尺六寸の木四十本の代銀と問

答云　八十四匁六ト　但し一万二尺八寸之

術云一万二尺六寸を壱日二尺八寸かけて三千四百(?)と六ハてする一四
となる　又別に三寸に三寸をかけ九となると右の四へかけ二三六と
なる又是へ四寸とかけて八〇四となる　又その一代銀
六十八とかけ三二七六となる是を右実に二十八本とかける
一万是に四十六とかけ二四となる又是に一十八本とかける
六となるなり是を法にして右の実にかけるとその
三二七六とする八十四匁と定るなり

六八の九なること
六三十二
六三十二
四八二十
一
引

九三十六
九けるこゑ
一
九
九

四六二十
四の
かけこゑ
二
四
八

一四
六八とかけるこゑ
四六二十
八
四六三十
四

八八二十八
一万すに十六かけこゑ
八六三十
十

一八
六一十
一
六一
八

二八
二八ちけるこゑ
二
一
一
八

二四
八十
二
四
四

六三二にてするこゑ
二

六三天作八
六三三十二
六三天作八

六三一十
六を一十

○消費(しょうひ)有　然(しか)びやうぶに消おもつあり

○はく千八百枚たつ百枚に付十二匁ずゝ此代銀
何程と問

答云　百八十匁

術云千八百枚を実に置法十二匁をかける

○銀二百十匁にて百枚に付十八匁ずゝの箔を何程
かへると問

答云　千四百枚

術云実に二百十匁を置法十八匁で割る

○三寸箔四千枚あり是を四寸箔に直して何程
になると問

答云　二千二百五十枚

術云四千枚を実に置又別に三寸に三寸をかけ
九を法にして四千枚にかける実三十六となる又別に
四寸に四寸をかけ四十六を法にして右の実にある
三十六とする

二八けこゑ
二八十
二八十
一八
一八
一八

一三十二
二八二十
四八四十
一八引
四八引

四九三十六
四八九かけるこゑ
十六にてするこゑ
二二二十
二二二十
八二八十
二六十一
二六十一
八六三十
引
引
引

○四寸ぶく百枚に付代十七匁ゟの時二寸ぶく百枚に付代銀何程と問

答云　四匁二分五りん

術に云実に十七匁を置二四と法にしてかけ実に六八となる又別に四寸に四寸をかけ四十六となるを法にして右実の六八とする

四 かけ乙家
四七二十八 一 四 四
十六にてわる乙家
四とと四十 四六二十四引
二とと二十 二六十二引
八とと八十 八六三十引

○長さ二尺二寸ある廿六尺の二枚びやうぶに四寸ばくと おくときは何程ゐると問

答云　二百四十枚

術に云実に二尺二寸と置法六尺とかけ一九二となるそれへまた二枚とかけて実三八四となるそれに又四寸に四寸とかけ四十六となるこれを法にして実の三八四をとるなり

三二へ六かける乙家
二六十二 三六十八
又二かける乙家
二二四 二九十八
一二二
三八四を十六にてわる乙家
二とと二十 二六十二引
四とと四十 四六二十四引

○

鉄炮だちん木の算用

○米十七俵一俵に付だちん三匁又下して無だちん何程と問

答云三百 ○ 四匁又下

術に云実に八十七俵と置三匁又下とかける

○又米俵百二十俵此だちん六十匁なり一石に付だちん何程かと問

答云　一匁

術に云船ちん六十匁を実に置たりに百二十俵と置又升とかけ六十石となるを法にして実の六十匁をとるなり

○若拾目ゟ二メ目に付四匁の時だちん無目十八メ目の代銀何程と問

答云　七十二匁

術に云実に十八メ目を置法四匁をかける

かけ乙家
又七三十又 三七二十一
又八四十 三八二十四

二 百二十へ又かける乙家
二 又十 一 又 又
六十を二百にてわる乙家
六とと一十

四 かけ乙家
四八三十二 一 四 四

○金銀利足さんやう

○銀六〆目月一ア半の利足にして六ケ月のふ
何程と問

答云　又十四匁

術ニ云実に六〆匁と置法一ア半をかけ九と
なる是に又法六ケ月とかける

六九又十四

一半のかけこゑ
又六三十　一　六　六
六とかけるこゑ

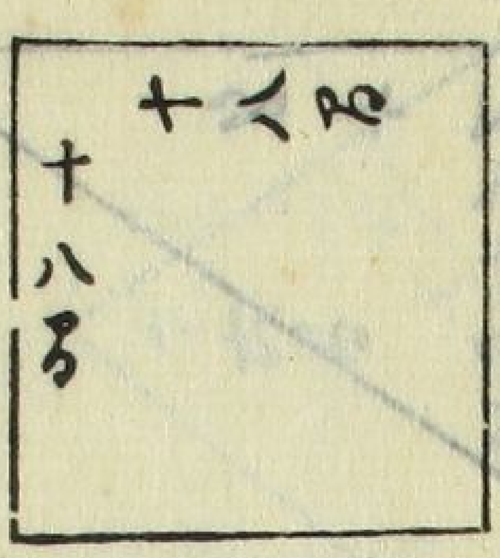
○金十両ニ付一ケ月ニ二朱の利足にして銀目
にかへし何程の利足にかゝると問

答云二ア半の利足と云

術ニ云先ヅ金相場六十匁のつもりにて六十匁を
実に置法八ツにてわれバ七又となる是二朱の
代なりこれを実に置なりに金十両の代と
法にて置実の七匁又ふとなるなり

八にてわるこゑ
八六七十四　八四天作又
六百にてわるこゑ
六五一十　六一か下四
六五一十　六三天作又

○検地

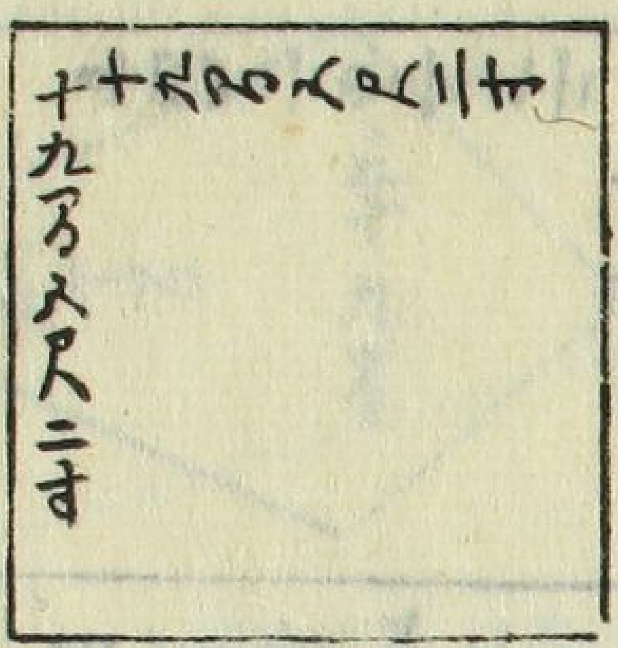


此田地何畝なると問

答云一反二十四歩

術ニ云十八に十八をかけ三二四となる
此三ぐりを田の法三にてわるなり

十八かけるこゑ
八八六十四　一一　一八　一八
一八八
三にてわるこゑ
三五一十



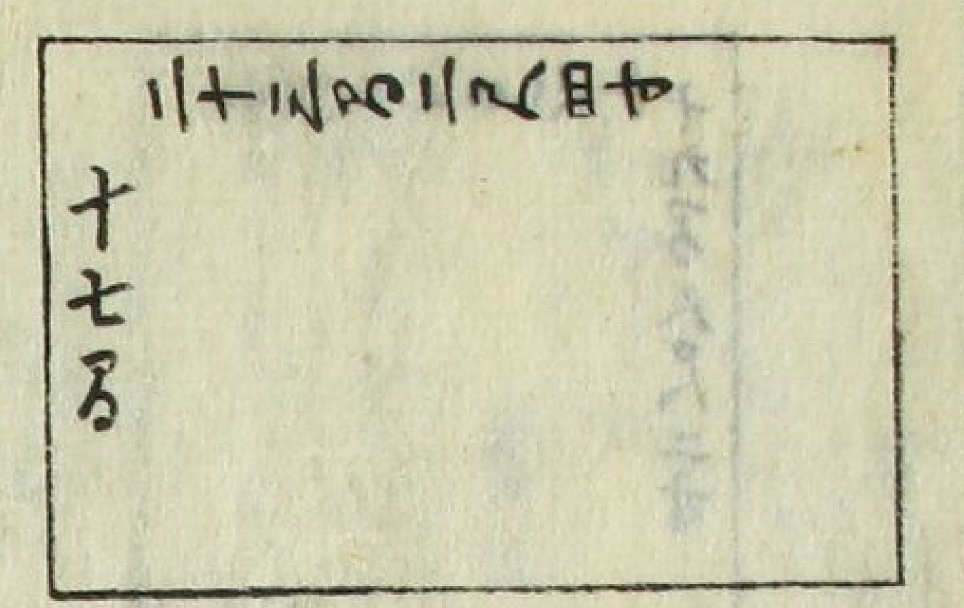
此田地何程と問

答云一反三畝二歩〇四

術ニ云十九間八尺二寸と置実に置
此八尺二寸ぐりを法六尺にてわる
十九間八歩となる是に又十九間
八歩をかけ三九二〇四となるこの
三九ぐりを田の法三にてわる

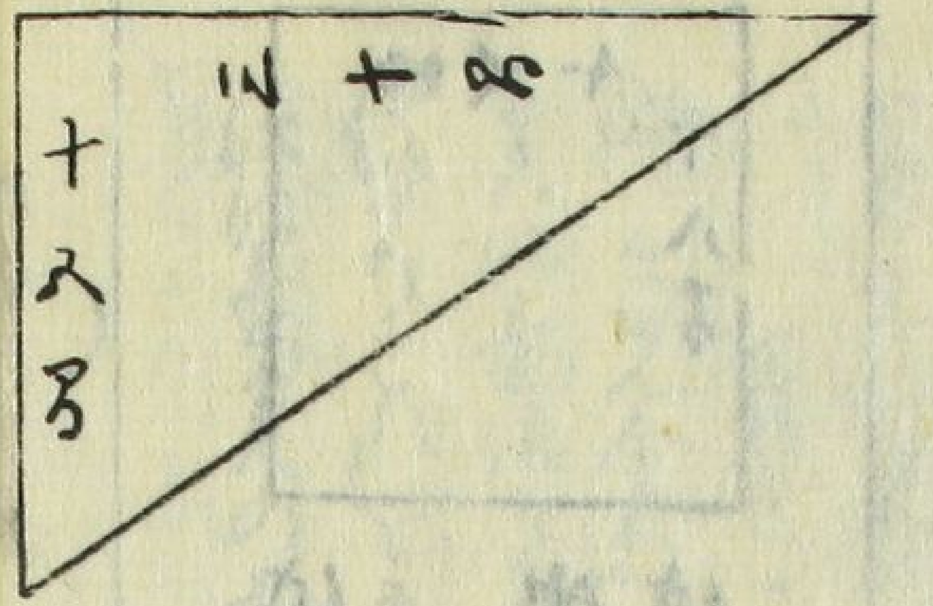
八をかけるこゑ
又六にてわるこゑ
六又八十二　又八四二一引
十九八ニ十九八とかけるこゑ
八八六十四　八九七十二
一八八　八九七十二
九九八十一　一九九
一八八　一九九
一一一

三にてわるこゑ
三五一十　九五二十



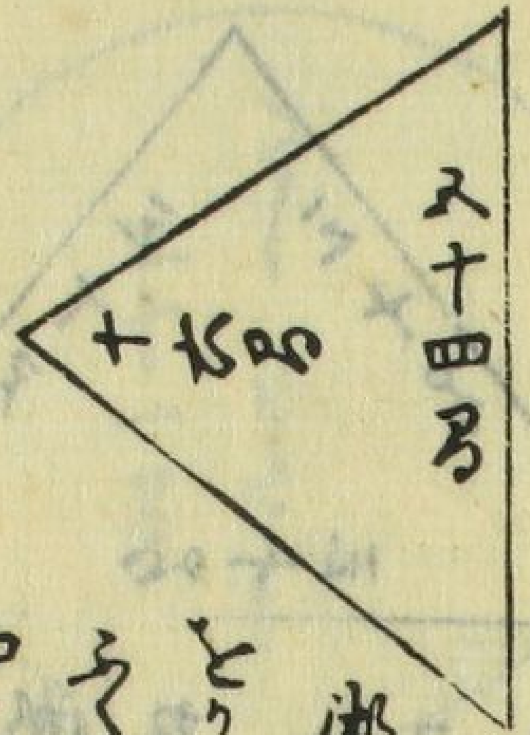
此田地何程と問 但し六尺八寸
答曰 一反三畝七歩八
術曰 二尺八四寸づゝりを六ばいにする
二十三間四歩とするを実に入れおさ
又法に十七間と置実へかける三九
七八とする此三九づゝりと田の法
三ばいする

六ばい二尺八四寸とさすること
六二 三十二 六を一十
二三四八十七とかける事
四七二十八 一 四 四
三七二十一 一 三 三
二七十四 一 二 二
三九と三ばいする事
三を一十 九を三十



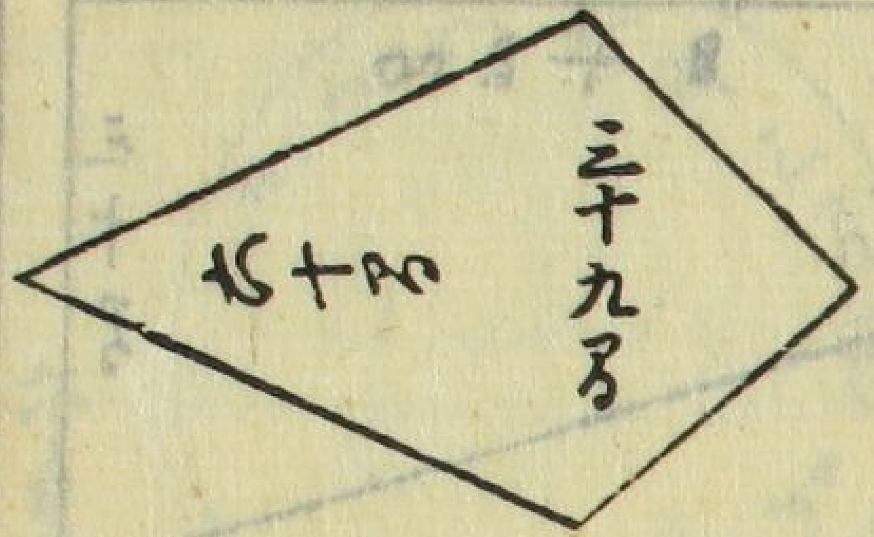
此田地何程と問
答曰 七畝十八歩
術曰 十八間を実に置法二十
間とかける四十八歩とするを
田の法三ばいする也し下一ばい
とさりのこし置又法二ばい
にする

十八へ二十かける事
三又上八 一 三 三
三ばいする事
三を一十 三一三十一
三を一十
二ばいする事
二一天作五 四を二十
二を一十 二一天作五



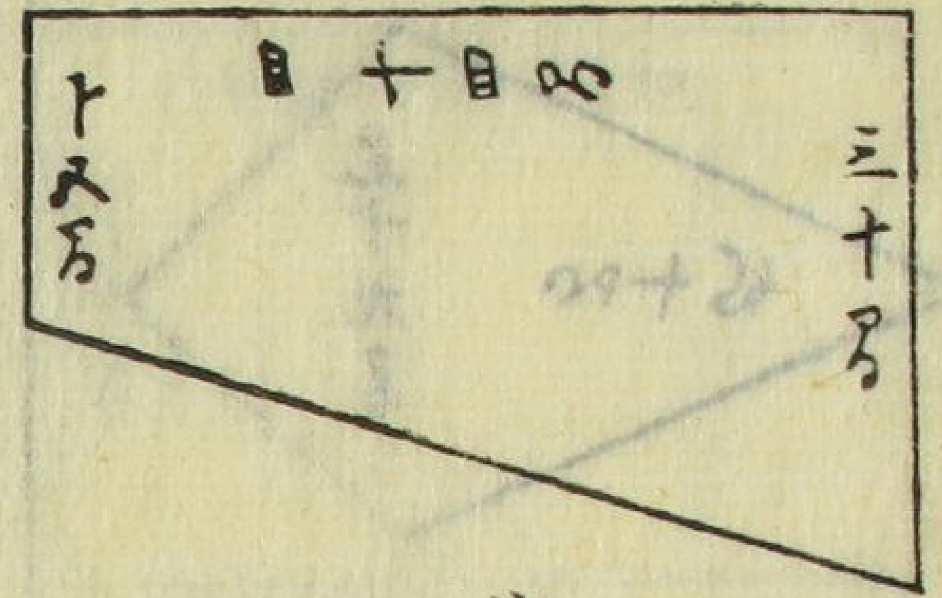
此田地何程と問
答曰 一反四畝十二歩
術曰 五十四間を実に置法十六間
とかける八十六歩四歩とするを
三ばいする四三二となる又この
四三づゝりと田の法三ばいする也
ありくる

五十四へ十六とかける事
四六二十四 一 四 四
五六三十 八 八
二のつもり事
八を四十 六を三十
四を二十
三ばいつもり事
三を一十 三一三十一
三を一十



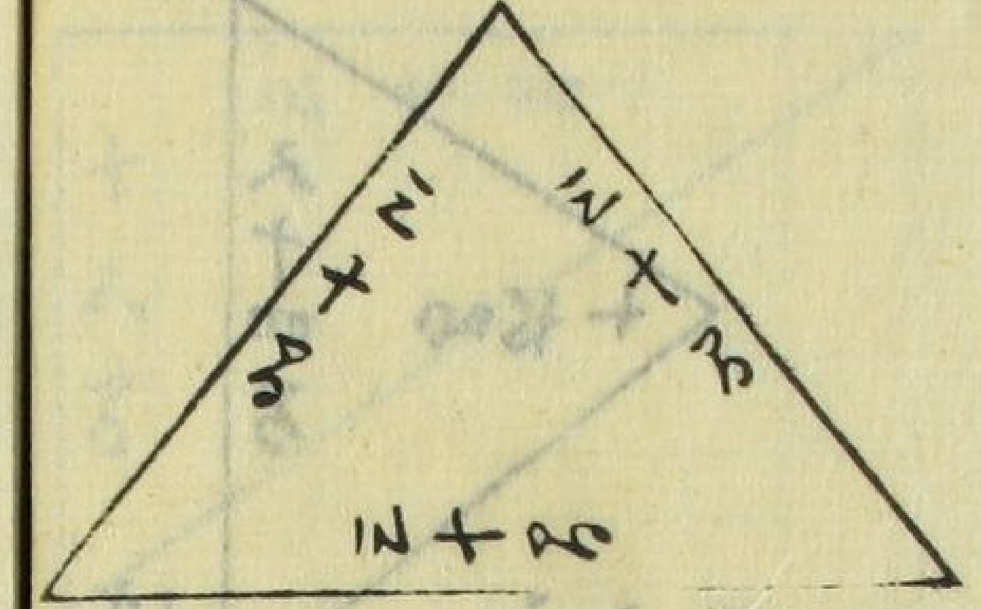
此田地何程と問
答曰 三反九畝
術曰 三十九間を実に置法
六十間とかけ二三四とするこれ
を三ばいすれば一一七とするまた
田の法三ばいする

三十九へ六十とかける事
六九五十四 三六十八
二のつもり事
二を一十 二を一十
二一天作五 四を二十
三のつもり事
三一三十一 三三六十二
九を三十



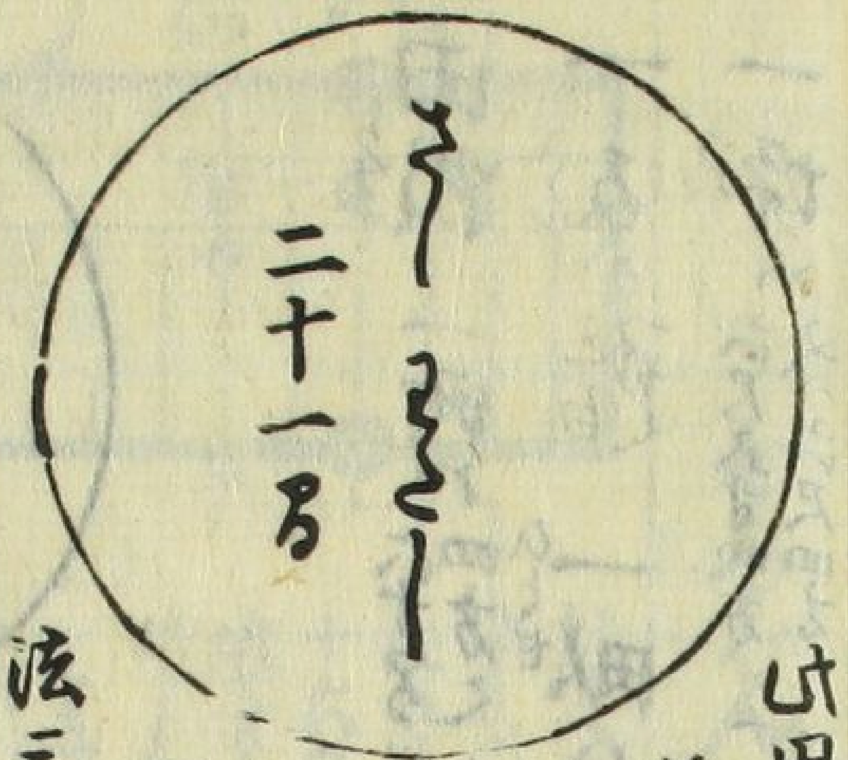
此田地何ほどゝ問
答云　三反
術云二十間へ十八間とあはせて
四十八間となるを二にてわる二二八
となる此二十二間半へ四十間をかけ
九十歩となるこれを田の法三にて
わるなり

十八へ三かけるときは
三八十八　一　三　三
二にてわるときは
四と二十　四と二十
二一天作八
三二半へ四十かけるときは
四八二十　二四　八
二四　八
三にてわるときは
九と三十



此田地何ほどゝ問
答云一反二畝廿九歩七分
術云三十間と三十間とかけ
九百となるこれへまた実法の四
三三とかける三八九七となる
又田の法三にてわるなり上の
三八のごとくけたがふなる

三三をかけるときは
三　三九
四三三とかけるときは
三九二十七　三九二十七
四九三十六
三にてわるときは
三と一十　六と二十



此田地何ほどゝ問
答云一反一畝十八歩三九
術云さしわたし二十一間を
また廿一間とかけ四四一となる
これへまた円法七九をかけ
三四八三九となるこれを又田の
法三にて三四のごとくけたがふなる

廿一に廿一をかける
一一　一一　二　二
二二　二二　二　四
七九をかけるときは
一九　九　一七　七
四九三十六　四七二十八
四九三十六　四七二十八
三にてわるときは
三と一十　三と一十

此田地何ほどゝ問
答云一反十六歩
術云まはり六十六間二尺二寸
と也此二尺二寸を六にてわる三六三
二となる此六三二とまはりをかさね
又法にも六三二とかさね〜へ
かけ三九九四二四となる
これを又円積法十二六四にてわる三一
六となる此三一六を田の法三にてわるなり

一二を六にてわるときは
六一加下四　六と一十
六三三をかけるときは
二二四　二三六
二六十二　二三六
三三九　三六十八
六六三十六　三六十八
十二六四にてわるときは
三と三十　二三六引
三六十八引　三四十二引
一と一十　一二二引
一六六引　一四四引
六と六十　二六十二引
六六三十六引　四六二十四引
三にてわるときは
三と一十

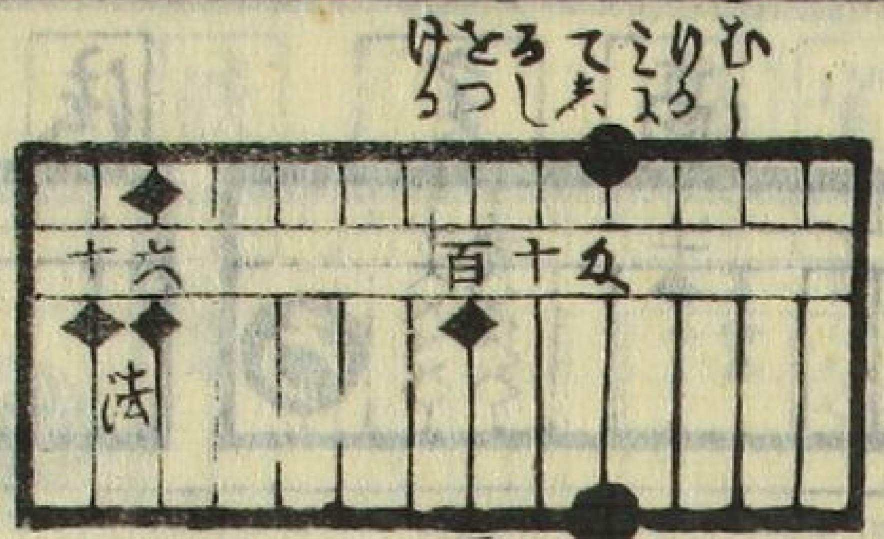
三十八万

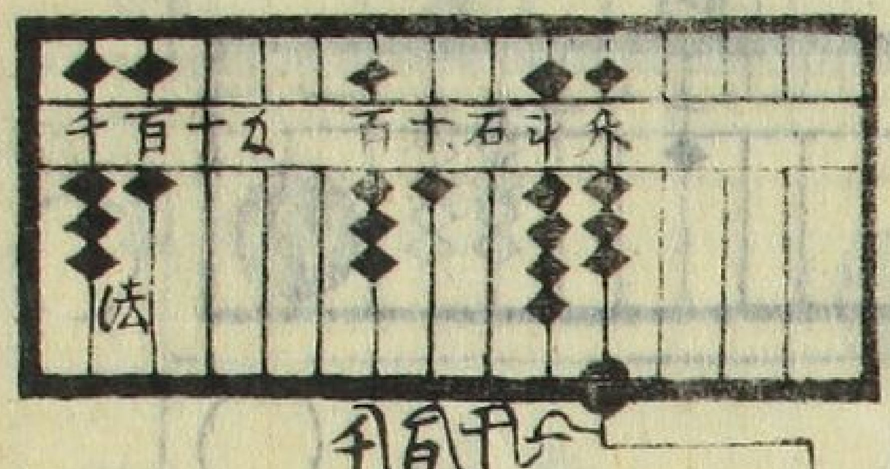
此田地何ほどぞと問
答云一反二畝二十一歩九六
術云二十六万に十八万を
かけ四百六十八万となるを実
とし又別に十八に十八を
十八万とかけ三百二十四万を
法として方積法二一とかける
六八〇四となるこれを実の
四百六十八の内にて引残り三八
一九六となる此内上二けたを

田数
一町ハ三千歩四方之
一反ハ三百歩之
一畝ハ三十歩之
一歩ハ六尺五寸四方 又ハ六尺四方
一間ハ六尺五寸 又ハ六尺
一分ハ六寸五分四方 又ハ六寸四方
田法三にて割るなり

二六に十八をかけることを
六八四十 一 六 六
二八十六 一 二 二
十八に十八をかけることを
八八六十四 一 八 八
一八 八 一 壱 一
二をかけることを
一 四 二 四 八
一 二 二 二 二 四
一 三 三 二 三 六
三にてわるる二を
三三も一十 六も二十

そろばんの位の見様の事





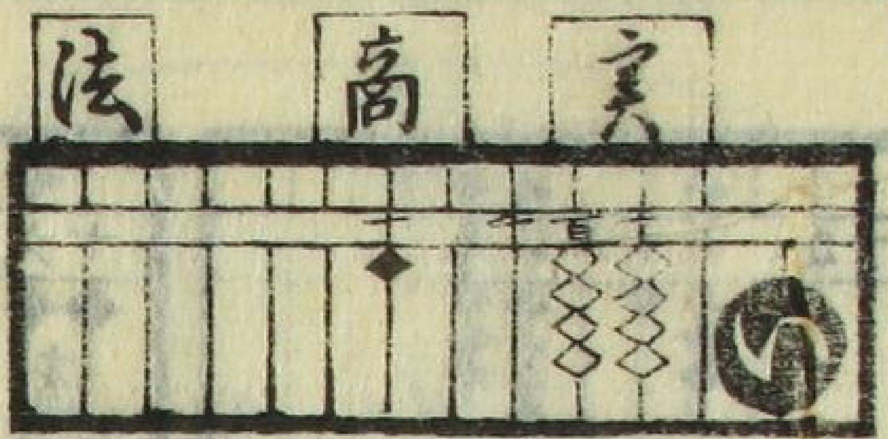
たとへば八百目を十六にてわるときは
此五の所を一とつけ其上よりかけて
法の下をわけてみれば此所を上へあげる
十六両ならば十の位より上をさしておく
此所を二十と百の所まで引かけてくる
此ところ五にするなり六両二十六分
とするなり

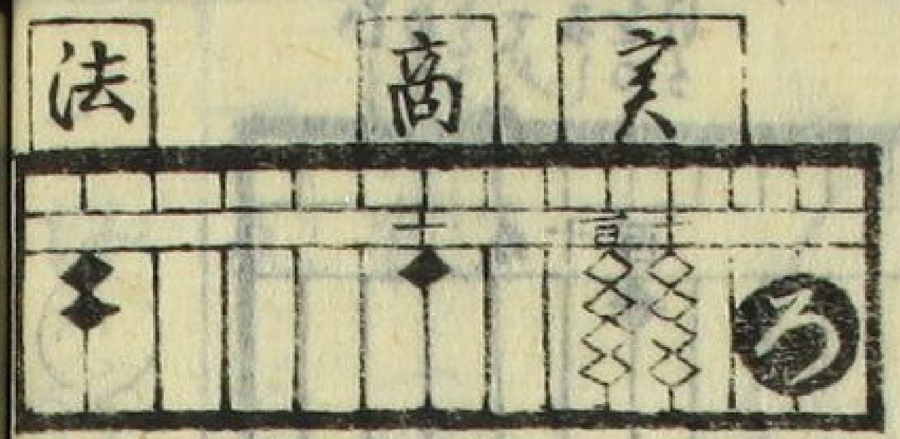
又ハ八のぶんにて位をとるつ
八百十五九斗八升を八十六百にてわるに
此所一の位をつけて左の所のごとくとつけ
わりかけて位の三の所をとつけ
壱十百千とつぶく位のかえへわけて
又千の所其の位にする此所
升より上て九升四合三夕となる

両平の位
八との所の
ごとくひとつ
えびにとるなり

斛五の位は
此所のごとく
よろづえびよ
とるなり

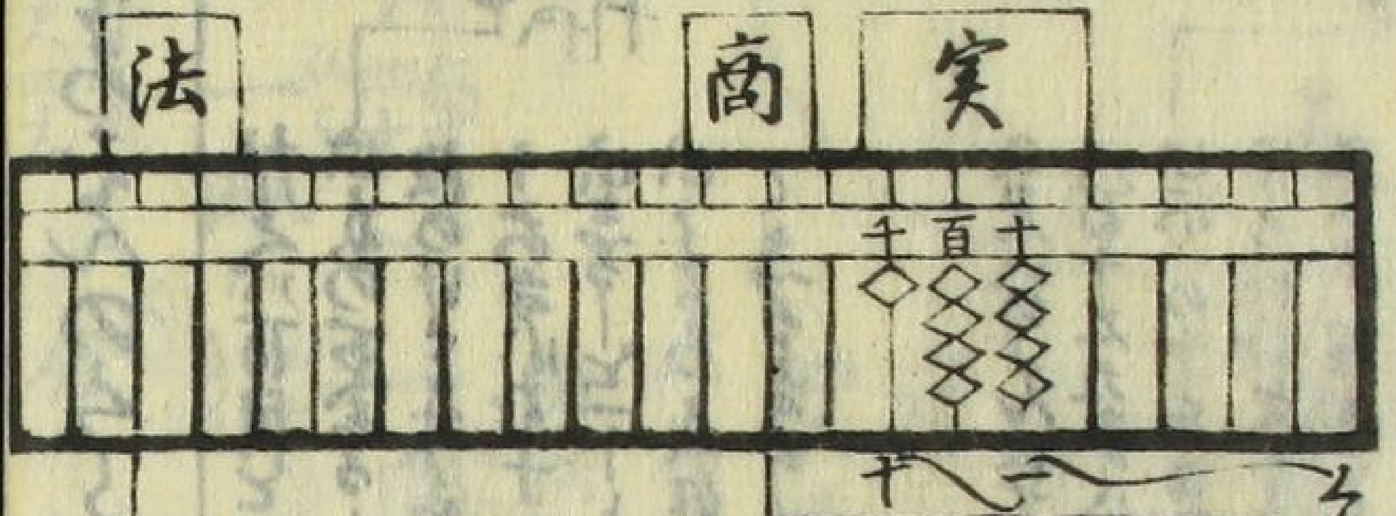
〇開平法





〇千四百四十坪ヲ　これを四方にして何ほど四方と云　十二間四方と云

△まづ図のごとく実に置て十のくらゐ迄へ十間四方と見て才一のごとくに置く

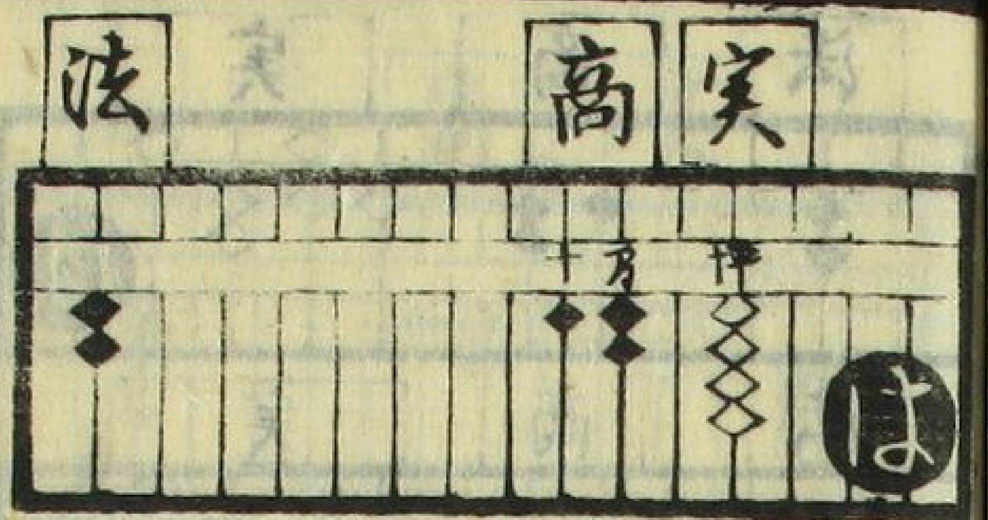


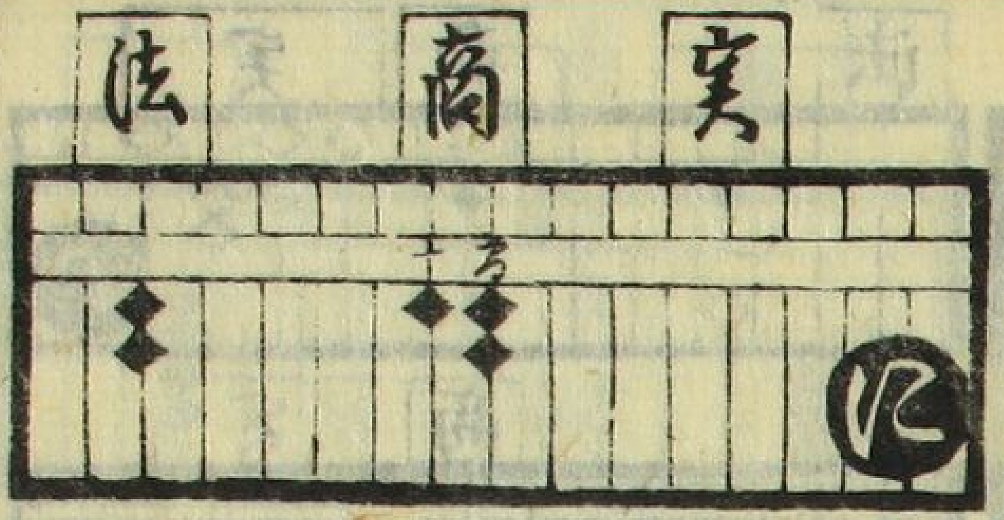
▲才一に一が一引とつて引のこる千坪をひく次に此のこり四百四十坪へ十間四方の十とおくこれ商なり　い　のごとくなる　実に四百四十坪のこる

▲才二に商の一とおいて一二が二とひきそえなりへ　法二とたてる　ろ　の図のごとくなる

▲才三に法の二にて実にのこる四百坪をひくとなる四百と二十よつて四百をとるなり上の商十間の次へ二間とたて商十二でよつて実に四十坪のこる　は　の図のごとし

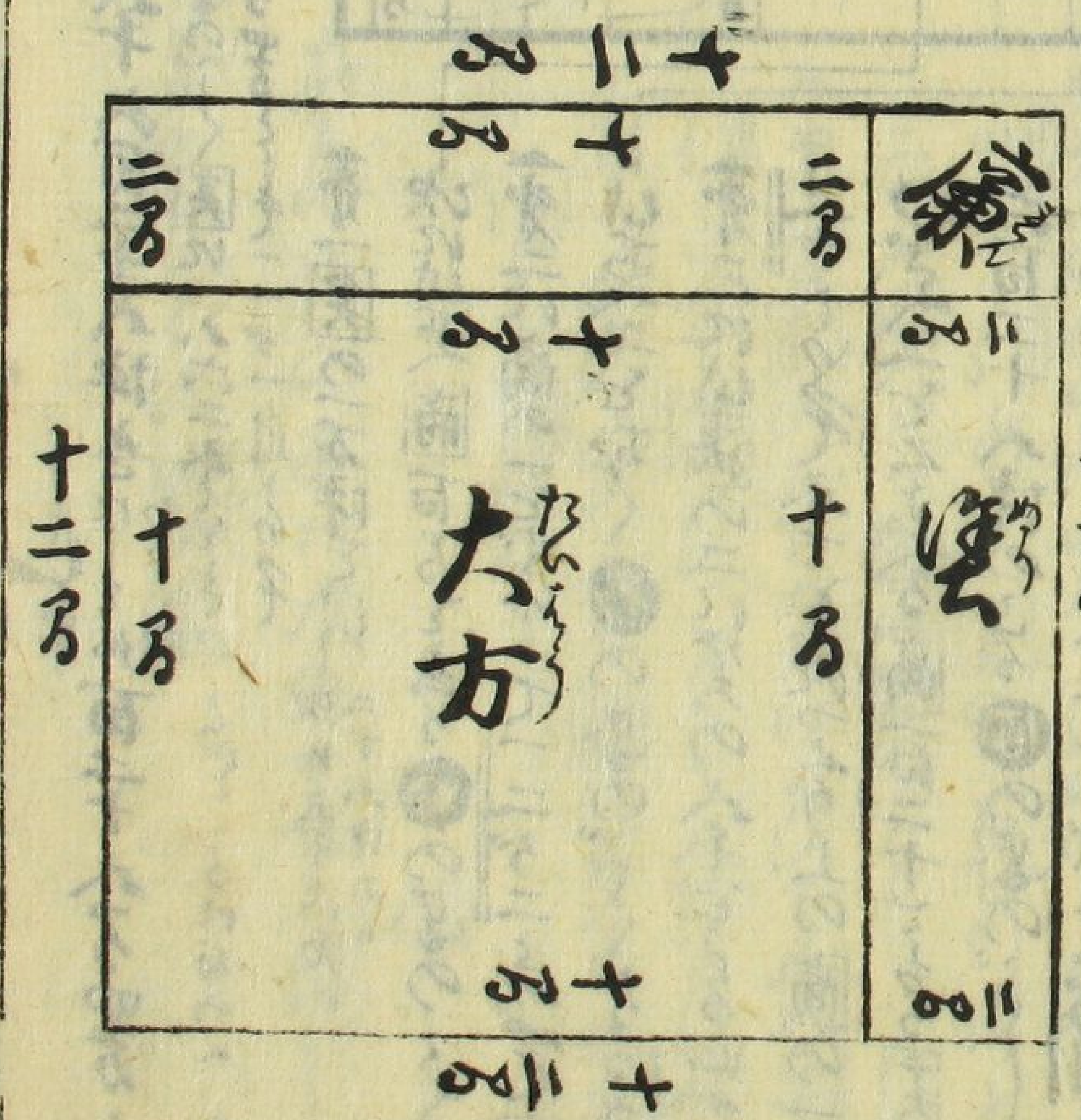
▲才四に商の二を九九わりに二二が四引よつて商に残る四十坪と引ちよくなり　に　の図のごとし　商に十二間四方とする



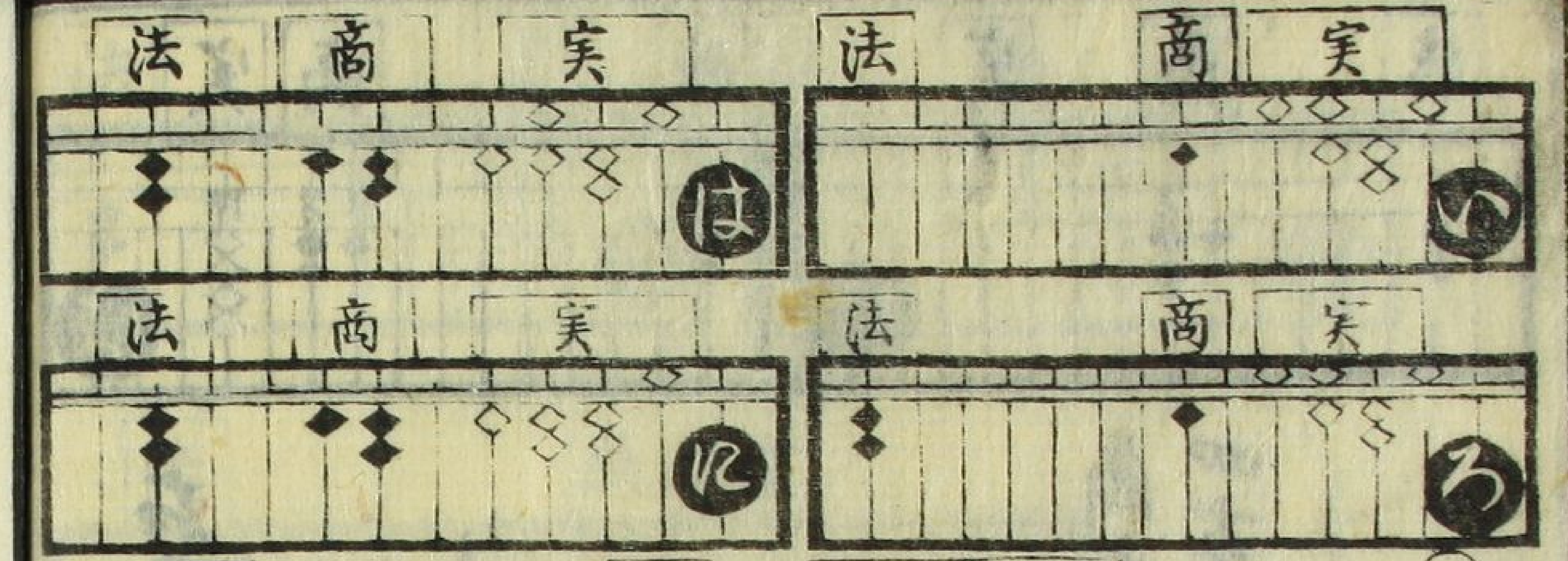


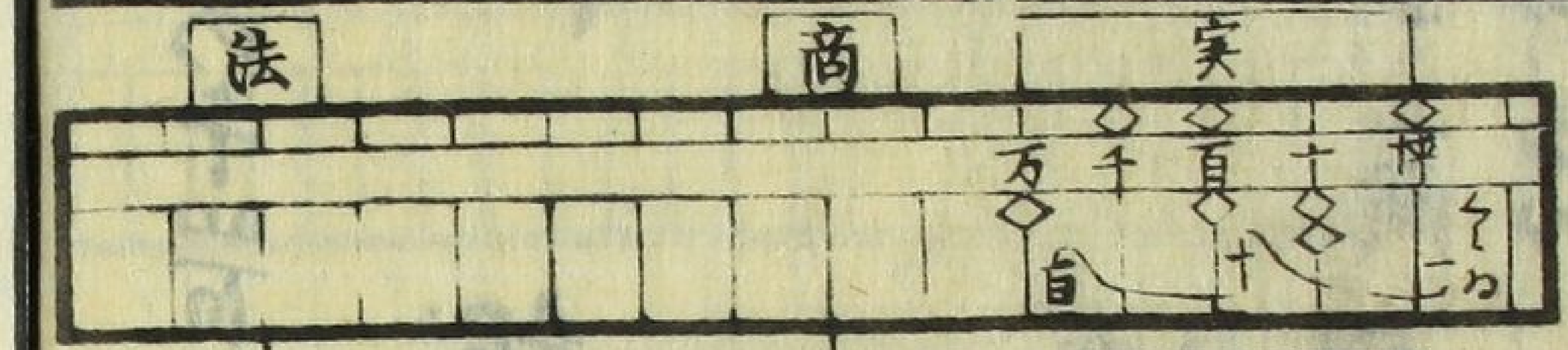
右の千四百四十坪と四方にひらきたる図

解法圖

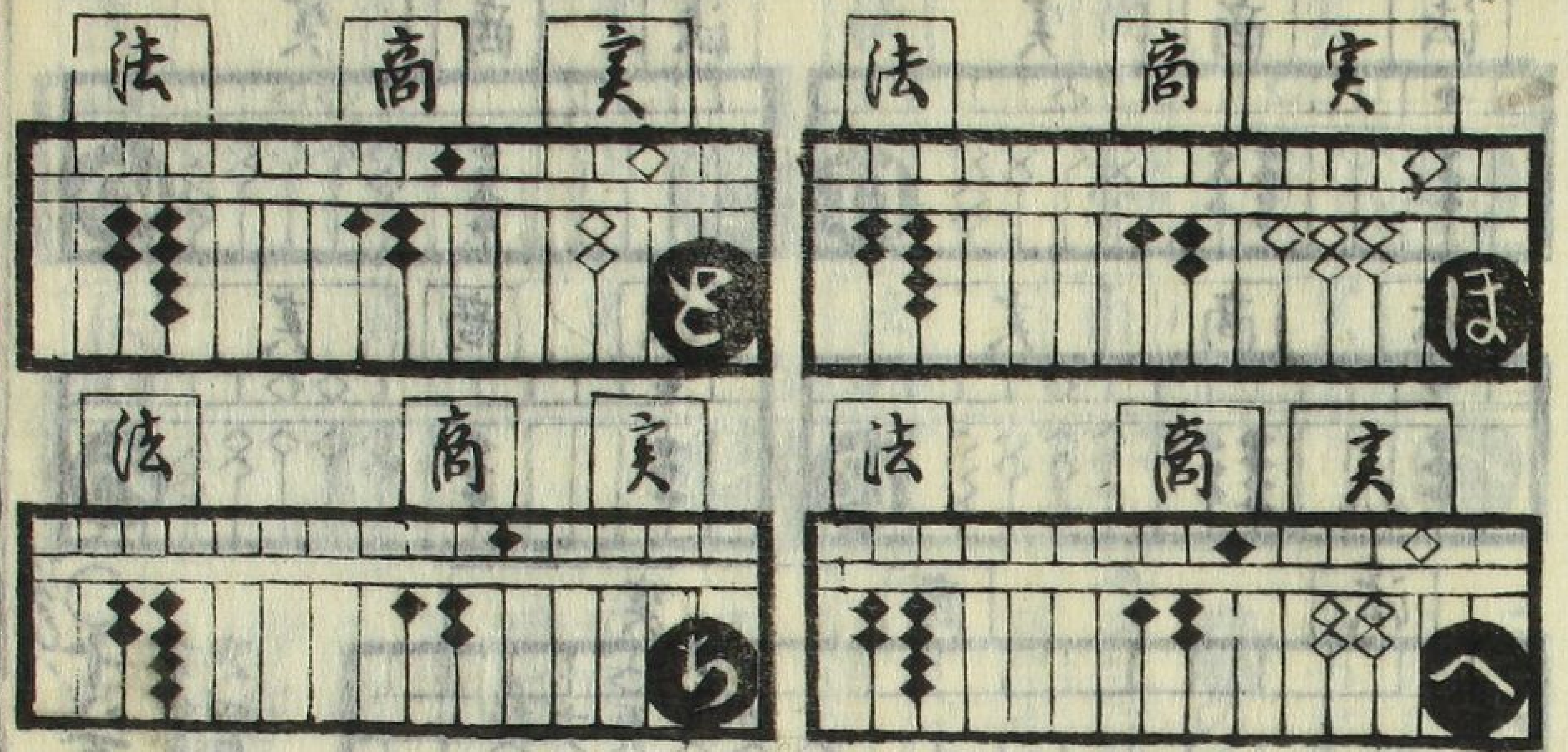


商十二間
四方とする



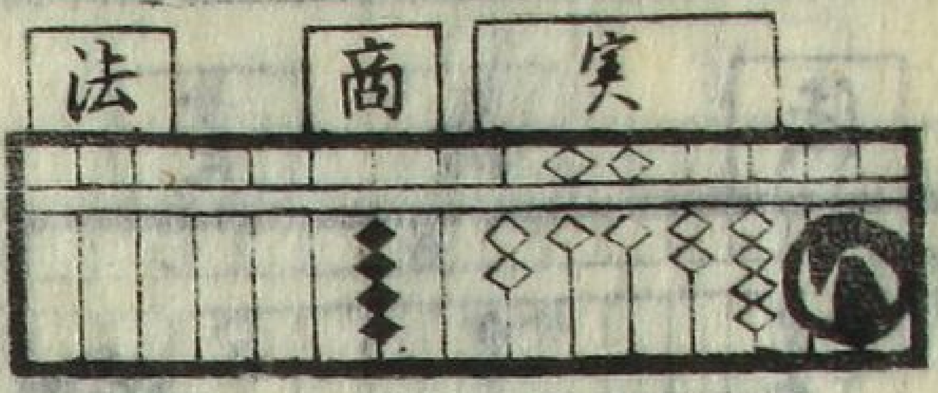


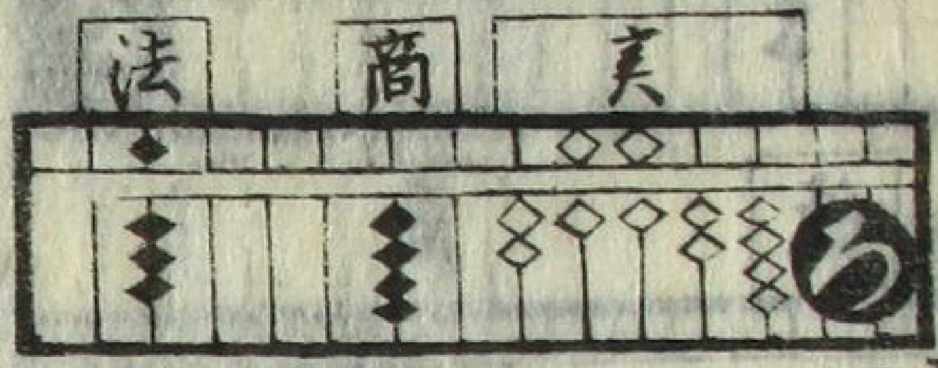
○一万八千六百二十八坪あるひハ これを四方にして何ほど四方と問 百二十八間四方と
先図のごとく 実 に一八六二八をおく ところに百の位より百ある四方とこそ一々が一引とのぞ
第一 実 の一万坪をとる　残り八千六百二十八坪あり
次に此亦へ 商 百ゟを立る い の図のごとくなる
第二に商の一とならべて一二が二とのぞて 法 の
此亦へ二をおく ろ の図のごとくなるなり
第三に此法の二に実の八千をとる 四二が
二十とのぞて八千と一にて其上の 商 の一ゟる
つぶへ二をくくる 商 一百二十となる 実 残る
六百二十八坪のこる は の図のごとし
第四に商の二と九九にならび二二が四引とのぞて
実 の六百の所より四引ば二百二十八のこる
に の図のごとくなる
第五に商の二とならべて二二が四とのぞて
法 の二の次へ四をおける二四となる ほ の図のごとし

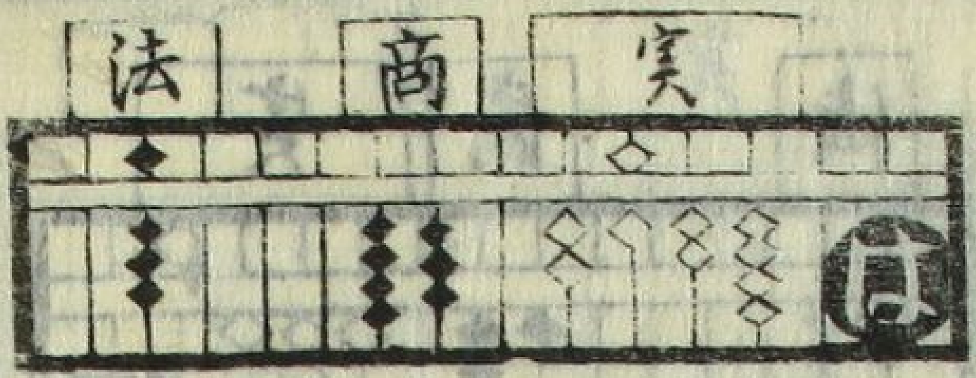


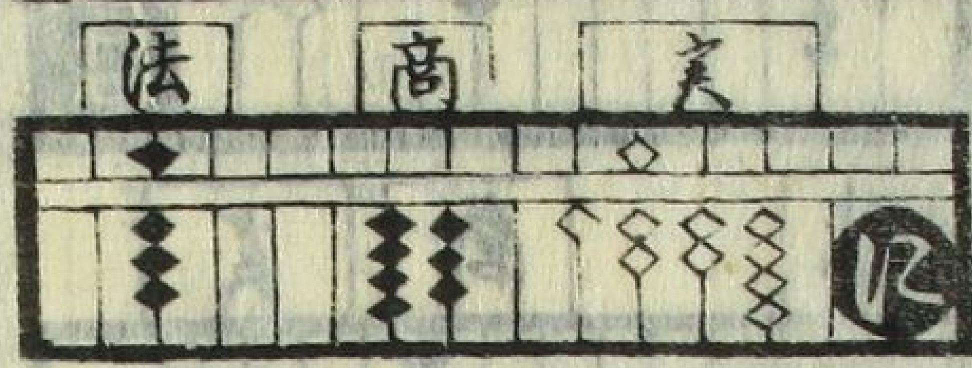
第六に 法 の弐ならで 実 の千坪とる二一
天作の八とのぞて 実 の千坪の一と八につける
扨此八を 商 の百二十の次へおける 商 百二十
八坪となる 実 二二八のこる へ の図のごとし
第七に 商 の八の八と 法 の四と九九合せて
四八二十二引とのぞて 実 の二百を引ぬとふ
二十八坪のこる と の図のごとし
第八 商 の八と九九にならびて八八二十八
引とのぞて 実 にのこる二十八坪を引きらふ
なり ち の図のごとく 商 に百二十八間四方
このとほり 商 なり

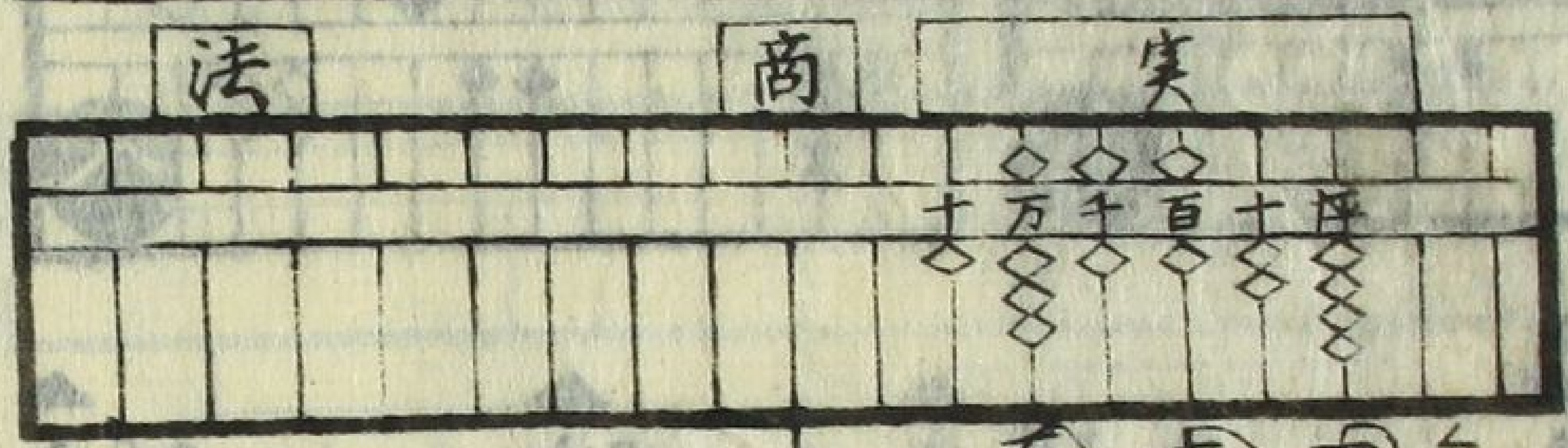
右開法の図ハ次の算とはし
図由へこれに略す











○十八万六千六百九十四坪を平方として何程四方と問 四百三十二間四方と云ふ

右は図のごとく実に置くへく、ところに百のくらゐより四々四の十六万坪ひける ゆへ四百より四方くるなり

▲まづ実に四百を四方として四四の十六万坪は実の内より二万六千六百九十四坪のこる法に商へ四百の四と立る い の図のごとし

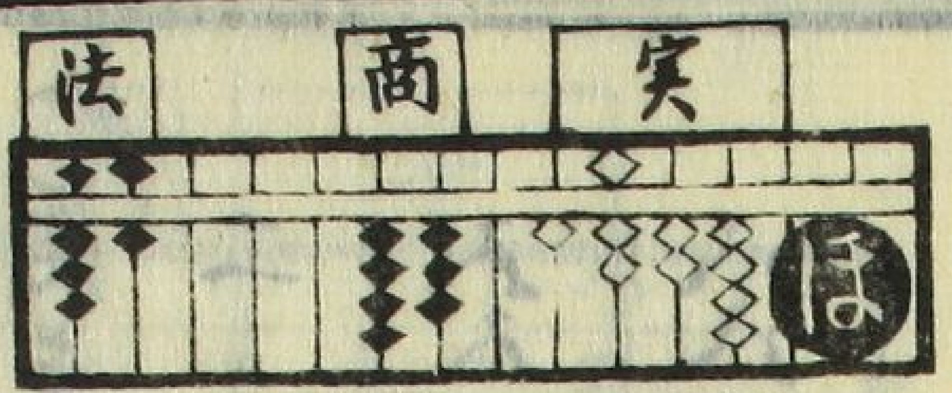
▲次に商の四をさしに二四の八を法に八を立 ろ の図のごとし

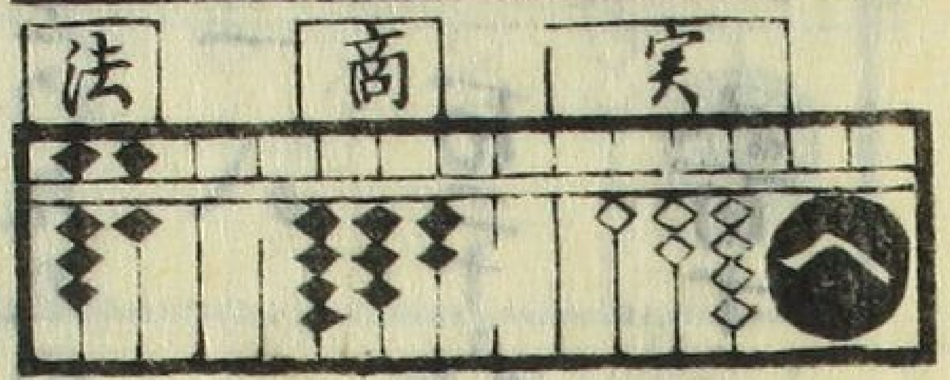
▲次に法の八にて実の二万をとる八二の十六四をひきて二をまたまず下の乞へ四を立る 十六万四をひきて八を上一十 とりて上の乞へ二をたる乞三とする 此三を商の四百の次に立 商四三と立る 実二万六百二十四のこる は の図のごとし

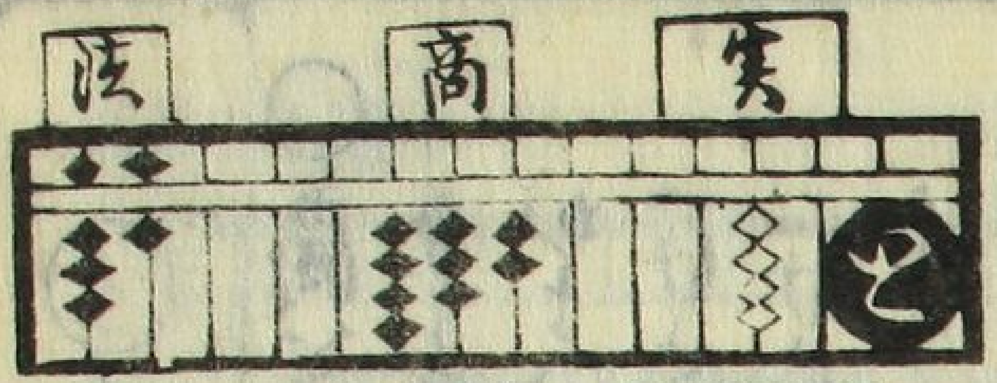
▲次に今商に立る三を九九にて三々の九ひきて実二千の内九百ひく 二千七百四のこる に の図のごとし

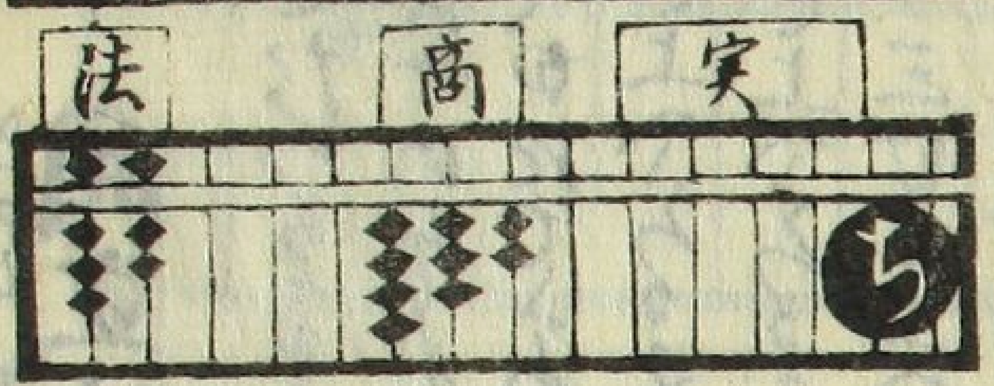
▲次に商の三をかけ三が六と法の八の次へ六を法八六とする ほ の図のごとし

▲次に法の八六にて実のさをとる八が下二とりて実のさをまず下の乞七の所へ









二を立九となるとすくに八を一十とりて此九のうち八ひとり 上のけへ一をたる実二をニ四とする此上の二と商の三四 のつぎへ二を商四百三十二間とする実百二十四坪のこる

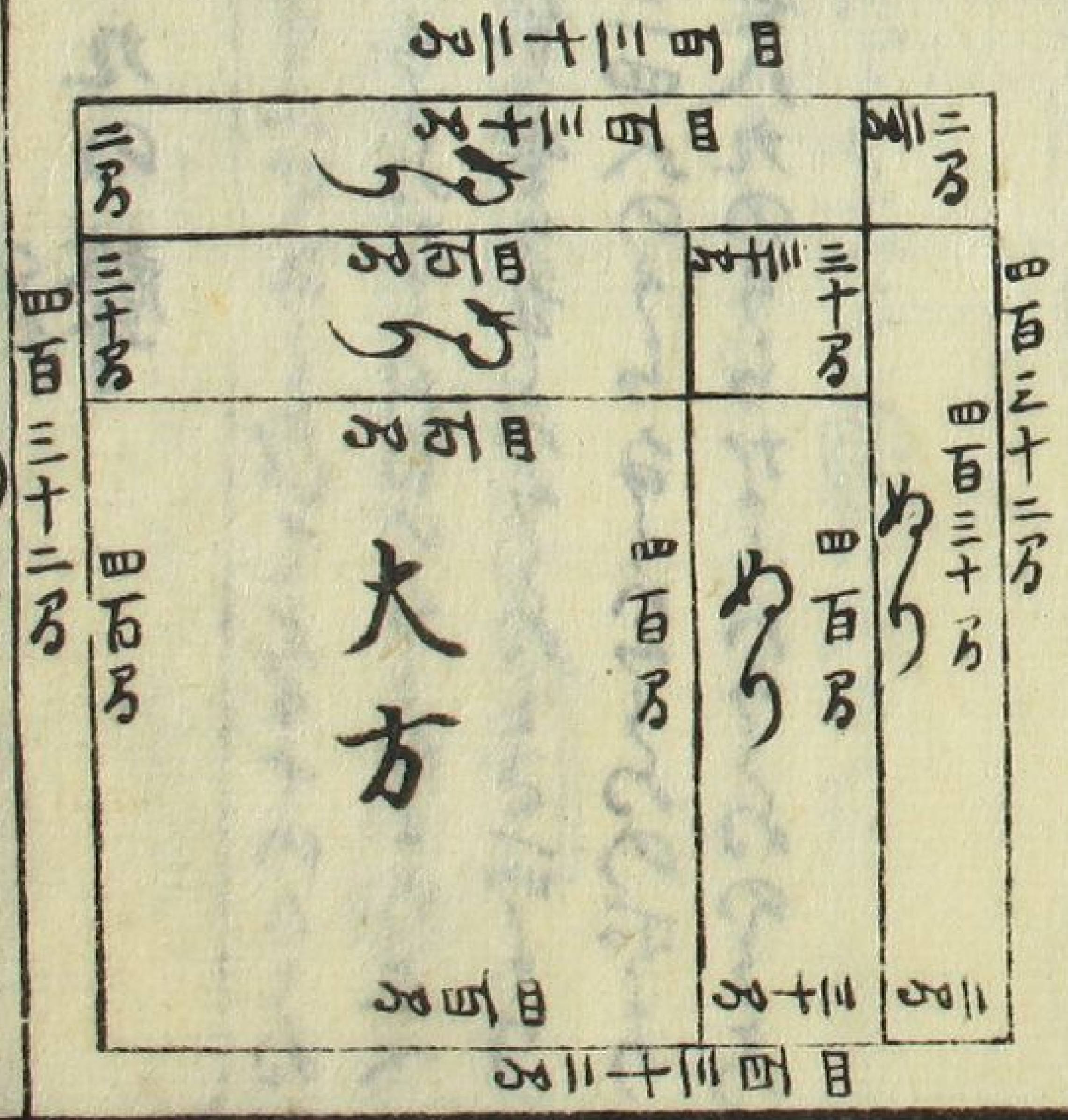
へ の図のごとし

▲次に商の二と法の六と見合二六十二引とりて実にく 百二十坪をとり残り四坪となる と の図のごとし

▲次八に商の二と九九にてまた二二が四引とりて実の四坪を ひきてさる ち の図のごとく成也

此図 四百 三十 二間 四方 とふる也

解法図

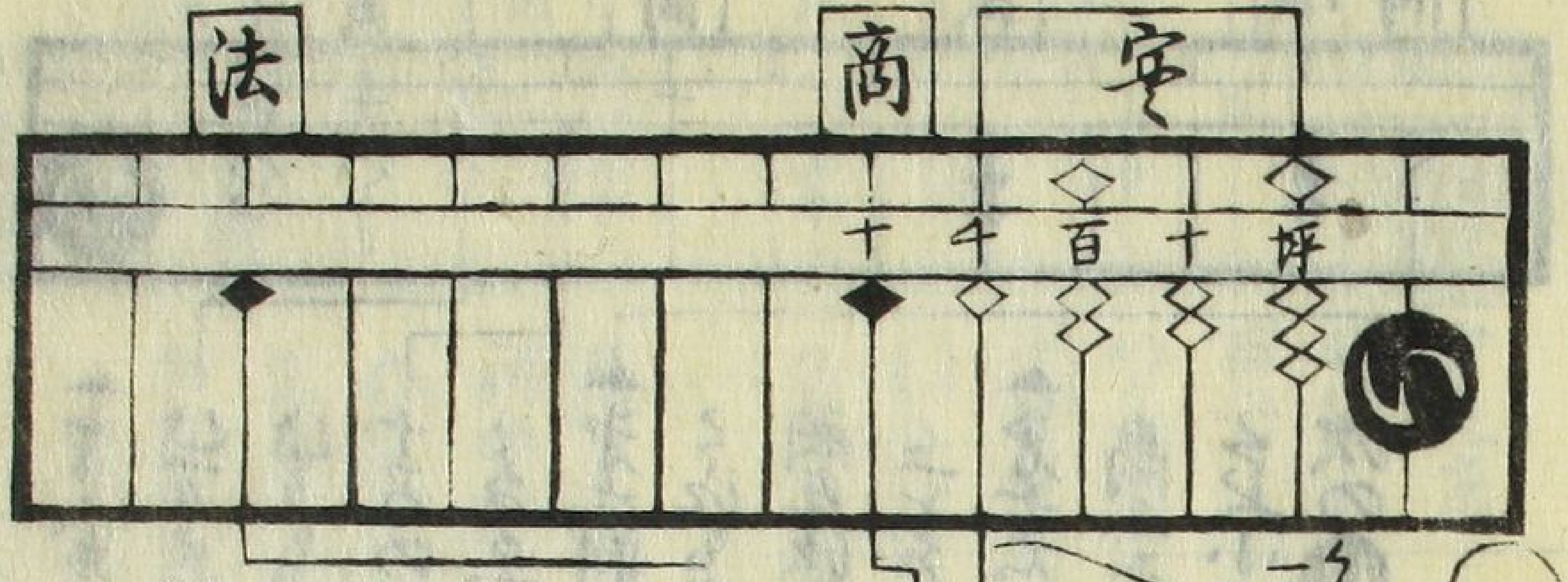


○開立法（くわいりうほう） 并 同九九の聲（こゑ）

○商をたつる事先しつと法のごとく二けたづゝとびて見る十のくらゐ又ハ千のくらゐより上へかぞへ百のくらゐなれバ百のくらゐより上へかぞへ出してをくる也商をたつる事ハ一けた上へをくる又商をたつる事二三四ハ一のうち又ハ実のうちより上へをくる也又商をたつる事六七八九のうちなれバ実のところより三けた上へをくるなり

○開立の九九のこゑ左のごとし

二二 八　三三 二十七　四四 六十四
五五 百二十五　六六 二百十六　七七 三百四十三
八八 五百十二　九九 七百二十九　終



○千七百二十八坪有（あつひば） 是を四方もおなじほどにして何ほど四方六面にする坪数か問

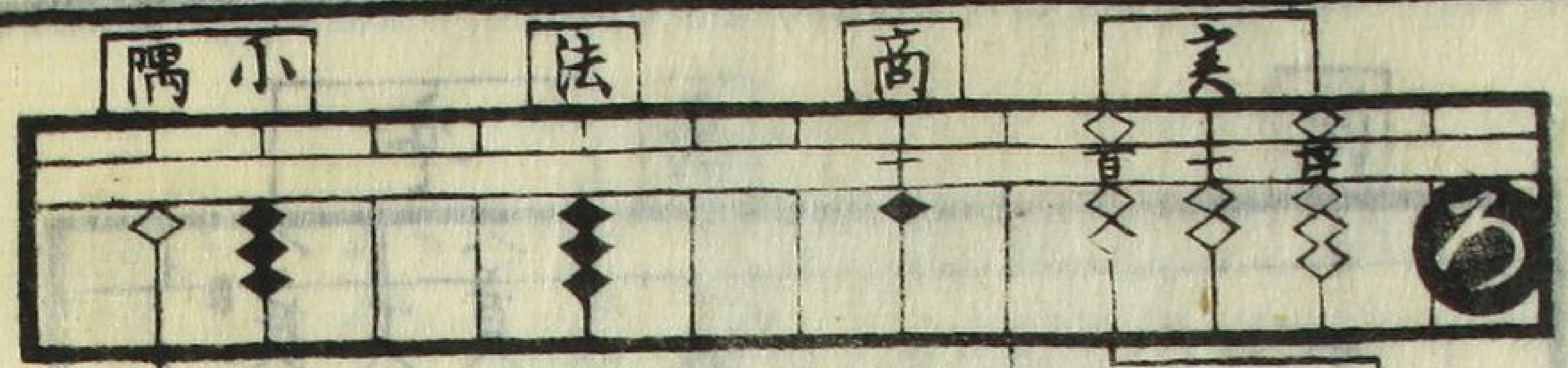
答云 拾二間四方六面となる 先実千七百二十八とおく也 そうしておくと十の位より百の位を見れば実

▲第一に十の位の上へ十四方となるそうして二一引く 実の上千ほど引 七百二十八ほどのこる

▲第二に上へ十の四方の十と商に立る

▲第三に上へ商のごとく二二と法に立る 右にて上 い の所のごとくなる

▲第四に上法の一に開立の法の三をかける一二が三となる 上一をとらへ次下のけたへ三とたつる是ハ次の ろ の所の法にてとるべし

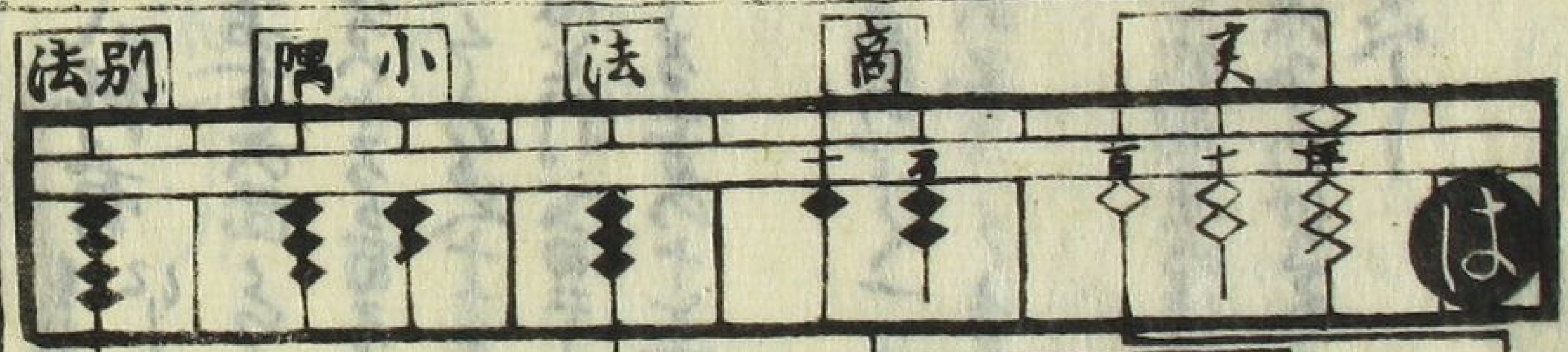


一 第八左りの法の三にて此へさとみる六を二十といふ六より上の商の十あるの次へ二をたるて十二あるとなる実百二十八のこる

一 第六別の此小隅と併る(つく)これも商のごとく十ある立開立法の三とかけ一三か三二と五十の乞へ三とをく

一 第七右小隅三十のつぎへ商におく二をたて二と立小隅三十二あるとなる

次のはの図にてみるべし



実 百二十八除法有

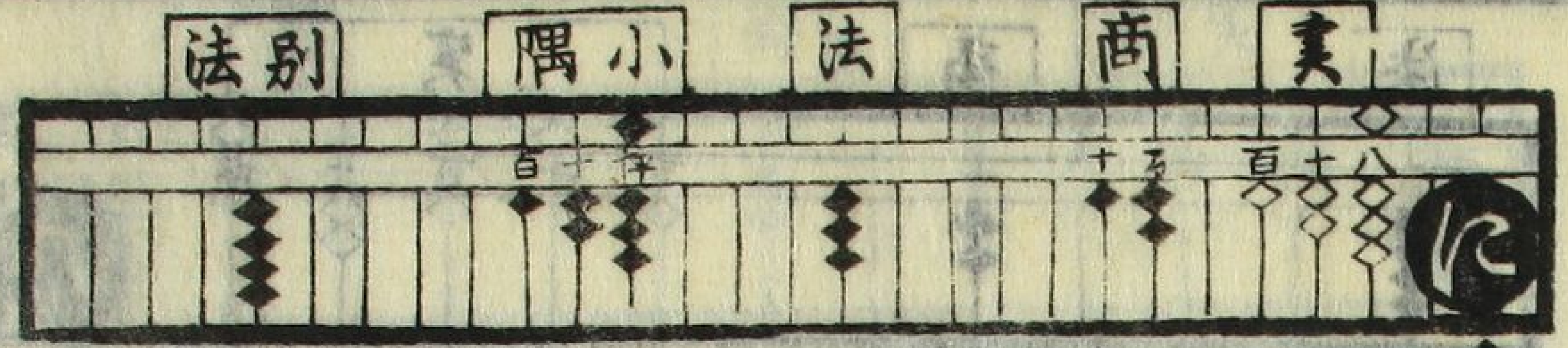
商 十二あるあり

法 三十あるあり

一 第八商の二あると信(だい)て二二四とりそ此小へ別に法と又四とする

一 第九右別の法の四と小隅の三十二へかける二四八とりて二二ゟ一ひき八へ公又三四十二とりて三を二にっちて下へ二と立る小隅百二十八とする

次のにの図にてみるべし



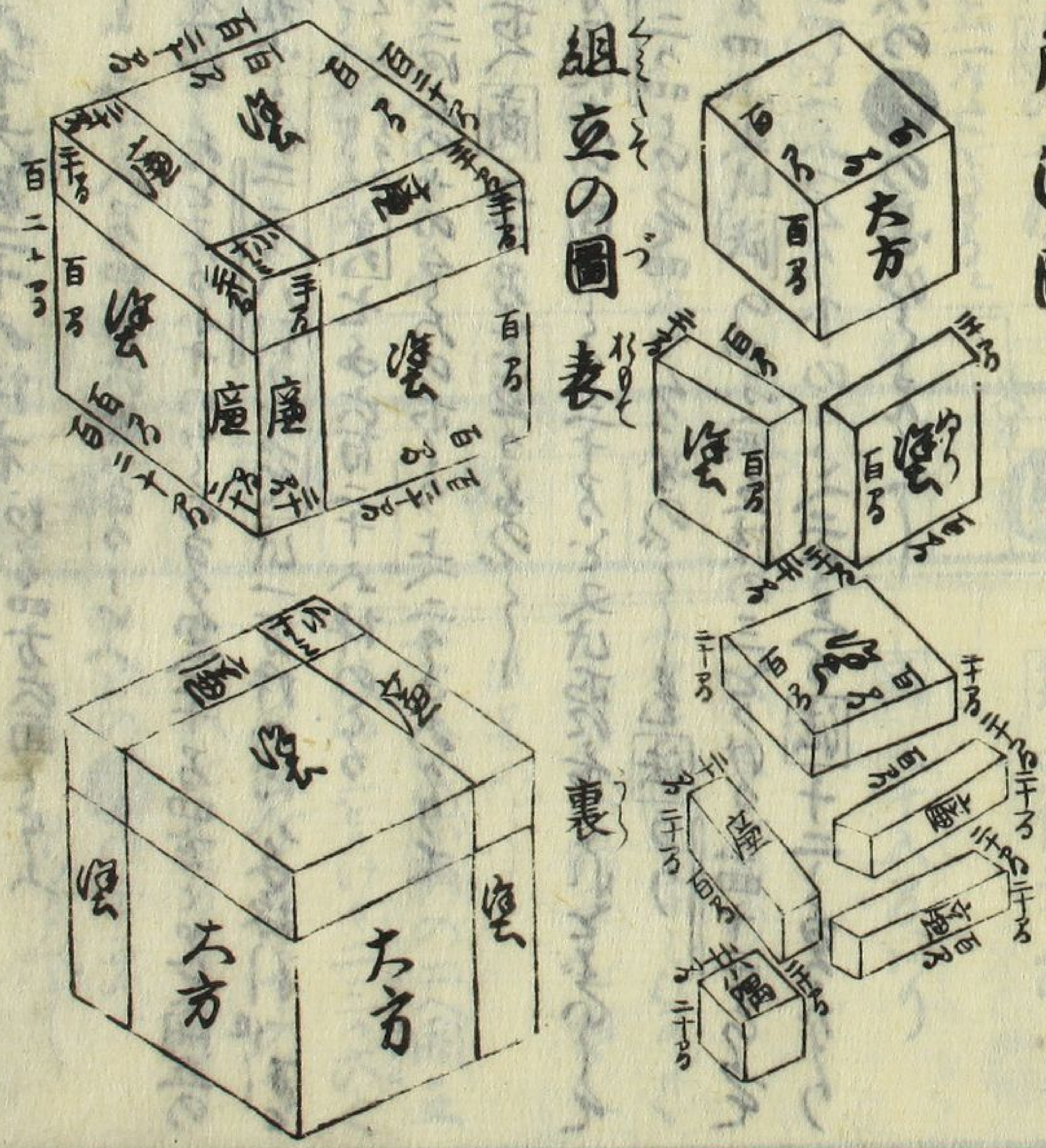
一 第九左(まし)の小隅の百二十八ののこずと実にてひきはらふあり

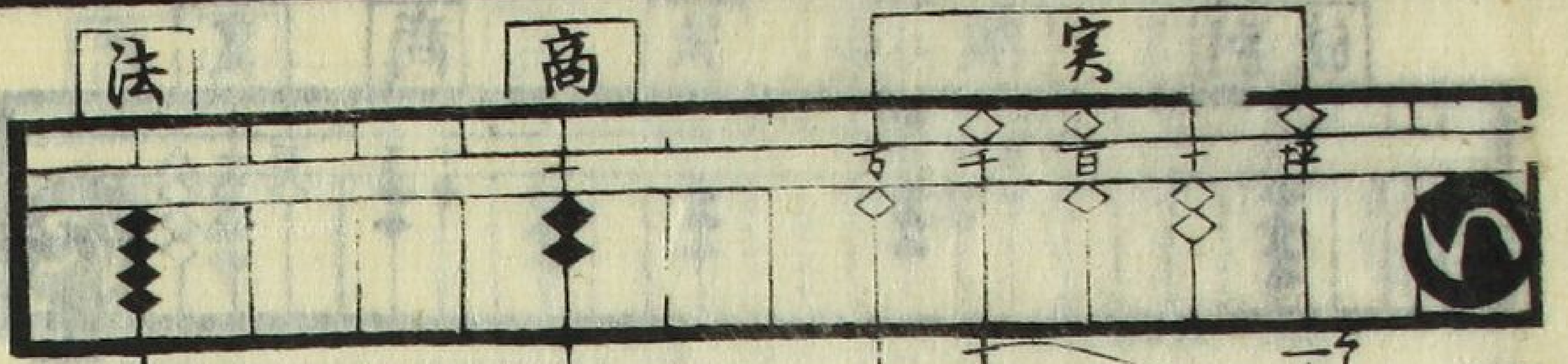
商十二間四方六面ともあるべくなり

解法図(かいほうのづ)

組立の図(くみたてのづ) 表(おもて)

裏(うら)





（　）あつひ八

一万八千六百二十八坪有　是を四方六面にして
いか程四方六面となる

答　二十八間四方六面となるといふ

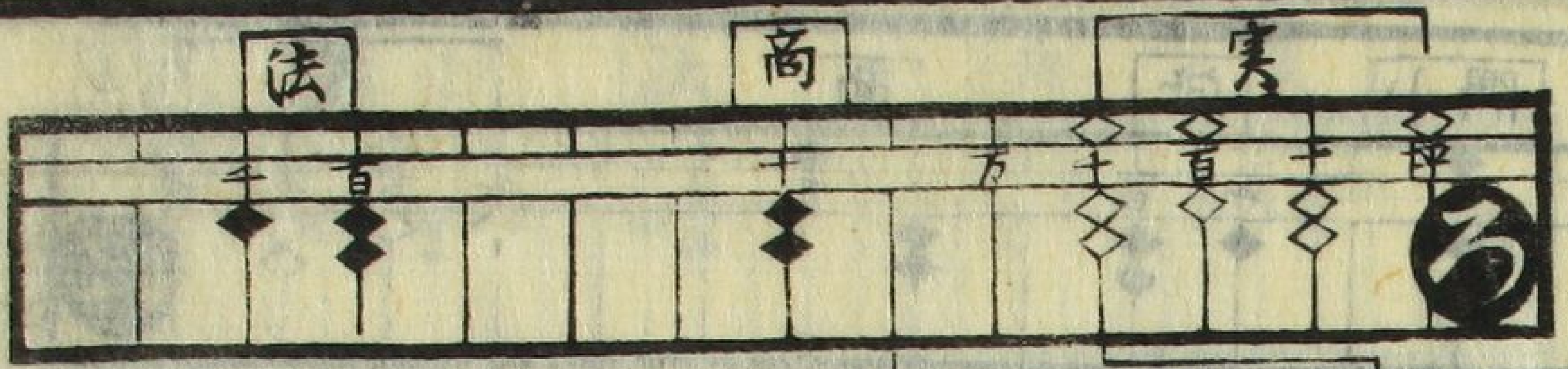
▲第一に先あとへ八千十のくらゐまでおくへ二十間四方とみて開立の
九九にあはせ二二か八引とのそ　此一万坪の内八千坪引一位し一万と

▲第二に右の十のくらゐの所より上へ二をおきて
引て下のはしくへ一くらゐさがる　実七千六百二十八坪のこる
此所へ商二十間を立る所のごとし

▲第三に右の商のごとく二十間と又此所に並べてこれをかけて
二二が四とのそ四とおく所のごとし　是法なり

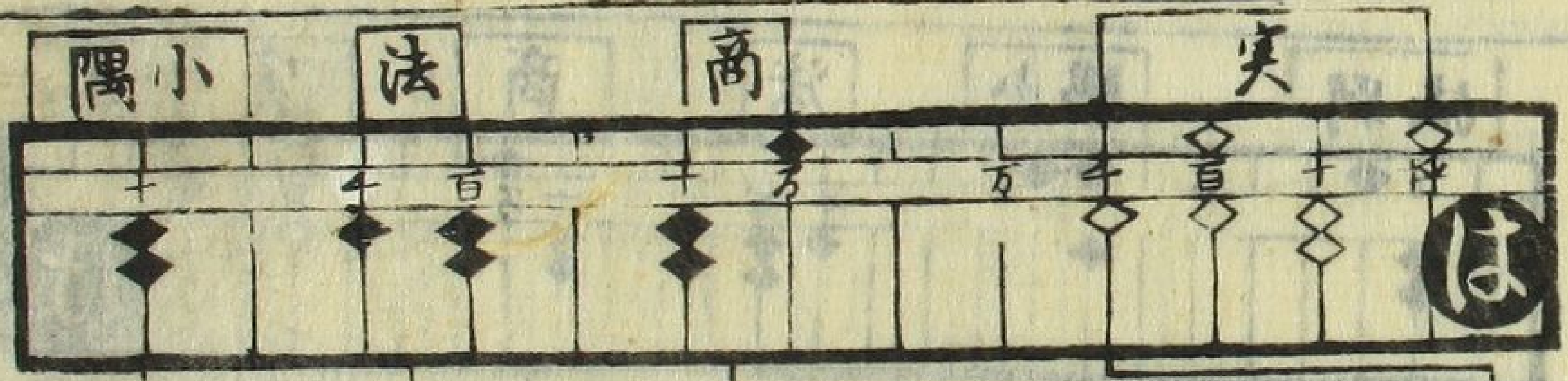
▲第四に又此法の四に開立法の三をかける三四十二とのそ
此四と一ふつくりて下の所へ二をとる法十二となるなり

次のろの図にくらべてみるべし



▲第九の法の十にくく
此実の上一ちさとすると
六千二十八とのそ七のうち
へ一くり九の商二十の
次此所へ六と上へ　二十八

▲第六商にをすとへする
六と九の法の二と見合
二十八十引といふて実の
二千の内千引のこり千
六百二十八ほとまる
次のはの図にくらべて
みるべし



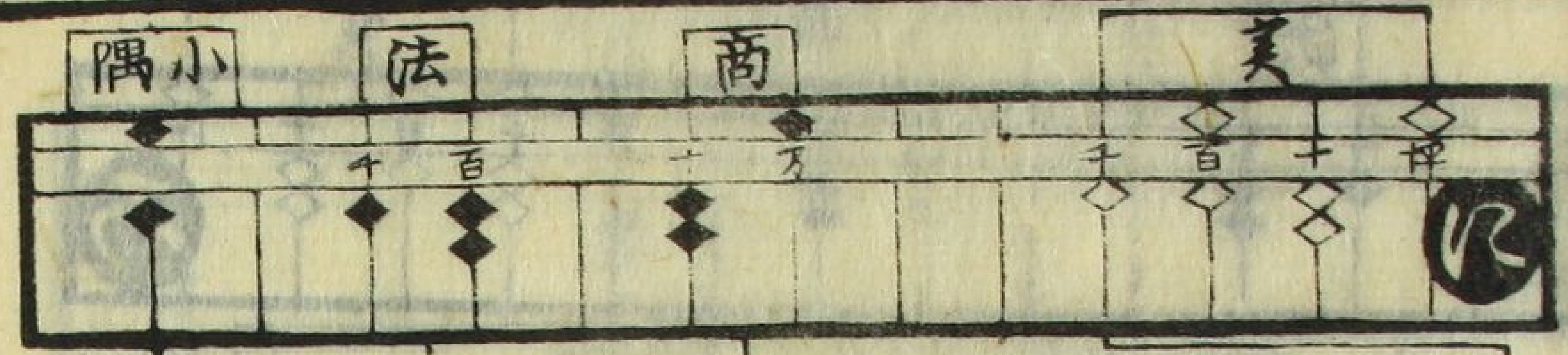
実千六百二十八坪有

商二十八間なり

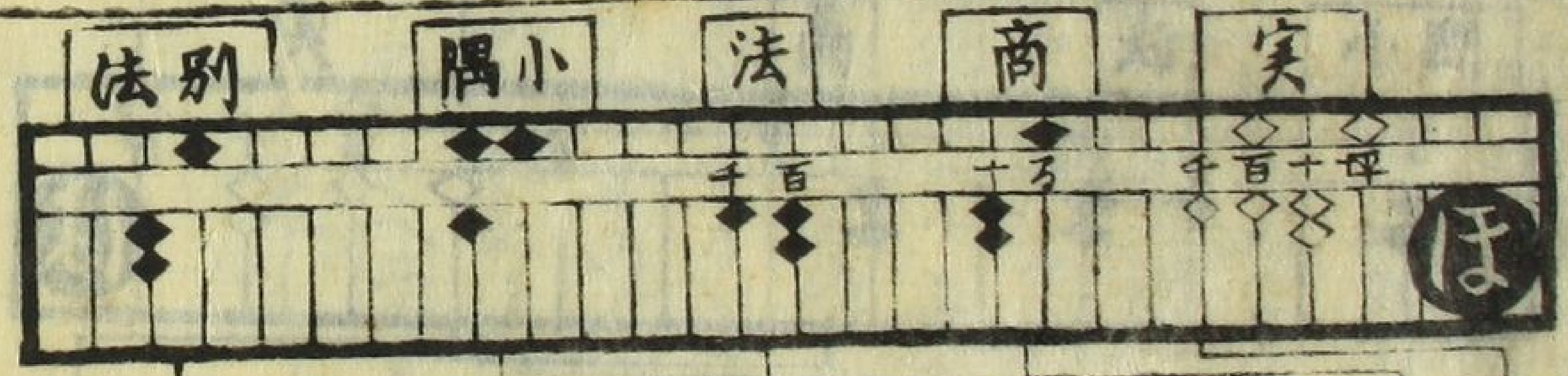
法千二百あり

▲第七商の二千とならべ
又此所へ小隅二千をおく
此所のごとし

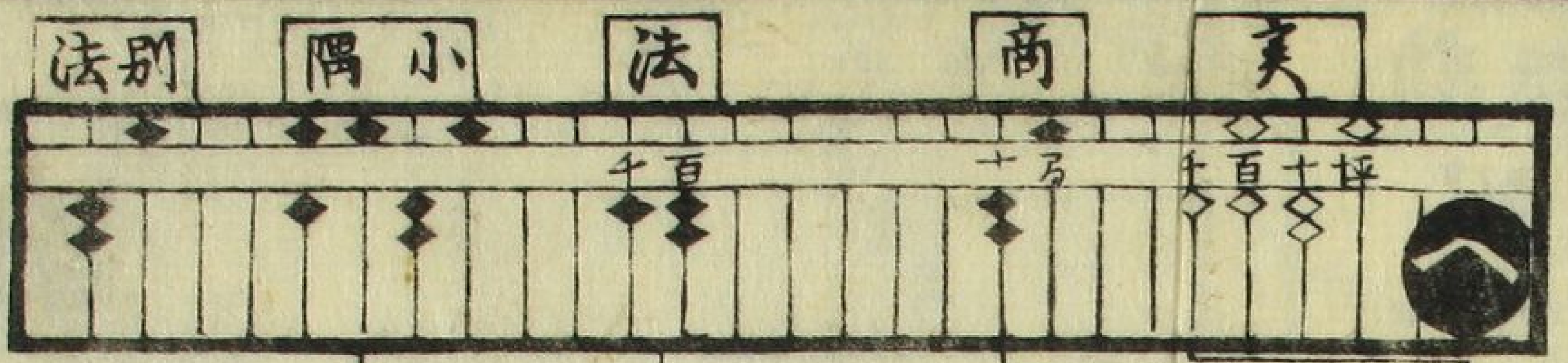
▲第八に此小隅の二へ開立
法の三をかける二三が六と
いふて二とりて下の所
へ六とおくなり
次のにの図にくらべて見るべし



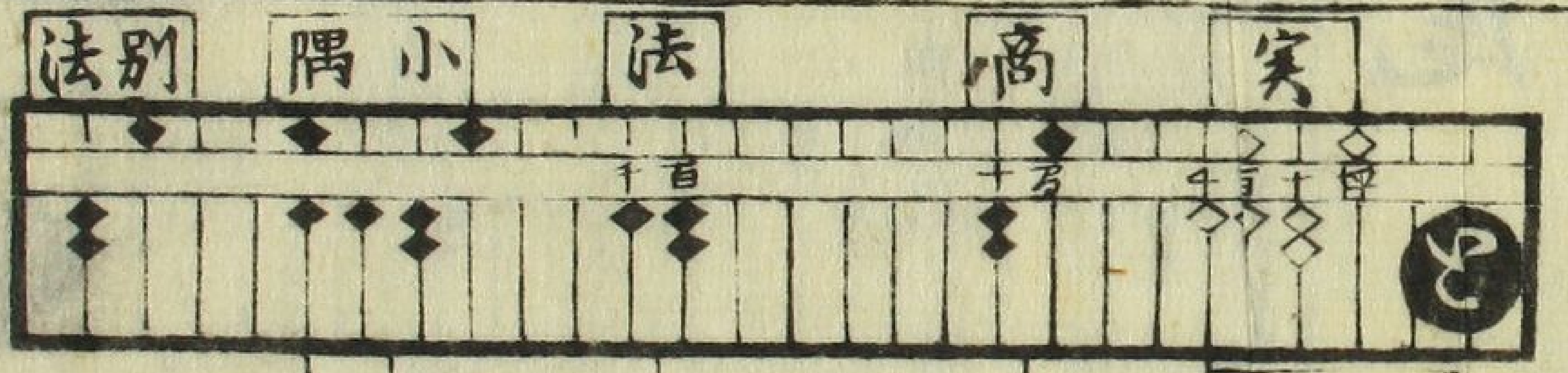
実 千六百二十八坪なり
商 二十八万なり
法 千二百あり
第九 小隅 廿六の次へ商の八万をかくべく六十八とする
次の ほ の図のごとくなるべし



実 千六百二十八坪有
商 二十八万あり
法 千二百あり
小隅 六十八とする
第十 廿商(?)の八万と九九八ぴ八八二十八を図のごとく別の法と立る
第十一 別法の二八と右の小隅の六十八の八へかけ八八二十八とひいて
小隅の八の下のけし八二をきこを又下のけし八を八くべく次の へ の図のごとくなるべし



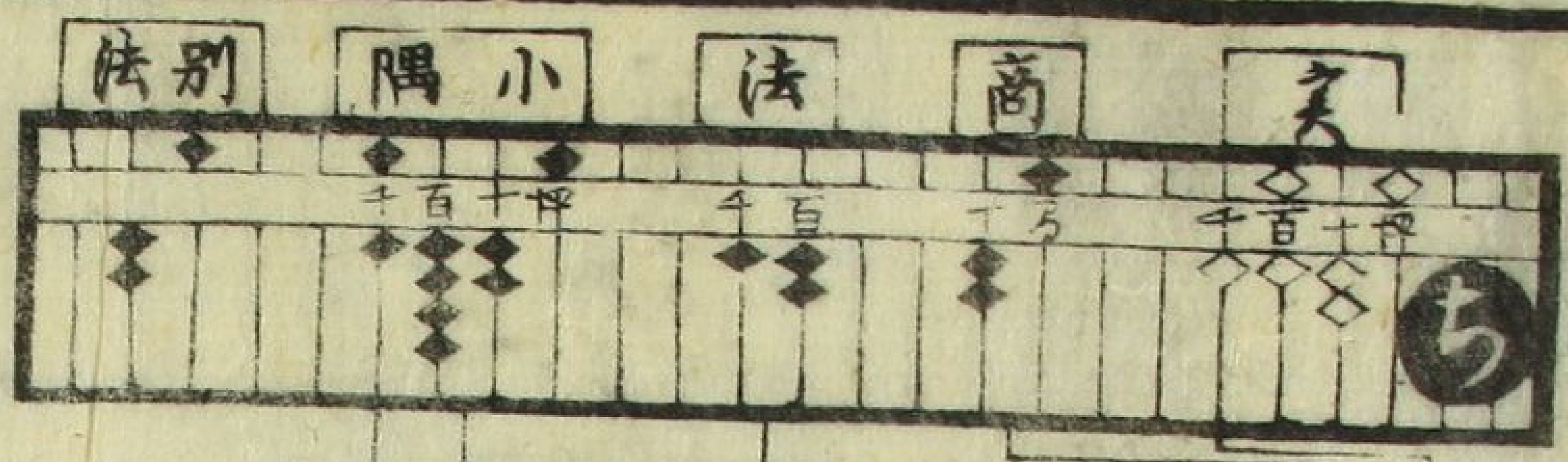
実 千六百二十八坪なり
商 二十八万あり
法 千二百あり
小隅 図のごとくになる
第十二 廿小隅の八と右の別法の二と八合二十八を小隅の廿八とそれにつくるなり
小隅 六八二八とする
次の と の図のごとくなるべし
別法 二十八あり



実 千六百二十八坪あり
商 二十八万あり
法 千二百あり
小隅 廿図のごとくなる
第十三 小隅の廿六と右の別法の八と八合八六の三十とのぞ廿六の下のけし三をくへるなり
小隅 六四二八とする
次の ち の図にてみるべし
別法 二十八あり

文政八年刊行

新板 塵劫記大尾



実 六百二十八坪あり

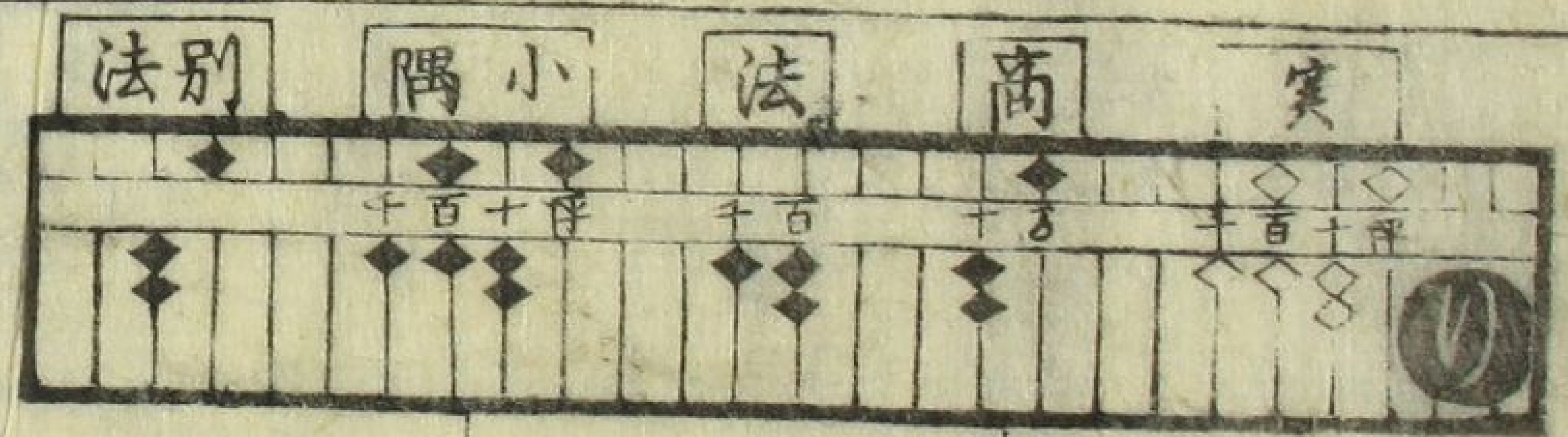
商 二十八尺あり

法 千二百あり

小隅 右のごとくあり

一 才十四 小隅の六を 別法の二と見合 二六十二と払ひその六と二ふつつり下のくらゐへ 二入るる 小隅千六百二十八となる次の り の右のごとくなるべし

別法 二十八あり



一 才十八に九りの小隅のうちわけにて 実 と見合せてのこるなり

商 の表二十八尺四方六面となるなり

小隅 子六百二十八坪となる此坪をもって 実 にて引なり

御手本